



令和6年度
第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）要旨集

未来へつなぐ「まち・ひと・建築」

～ インクルーシブな社会を目指して～

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

令和6年7月

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会



2024年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行者 公益社団法人 **日本建築士会連合会**

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061

目次

1 ごあいさつ

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 本間 恵美	2
公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 古谷 誠章	3
公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 上原 伸一	4

2 令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会プログラム 5

3 会場案内図・オンライン配信案内 7

4 基調講演

「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」

講師 真島 香氏 (TOTO株式会社)	11
---------------------	----

「インクルーシブな社会を目指してートイレから誰もが使いやすい建築を考えるー」

講師 畑島 楓氏 (株式会社日建設計)	17
---------------------	----

5 被災地報告 22

「令和6年能登半島地震 被災地からの報告」	石川県建築士会 市川 一絵	
	山田 文恵	
	富山県建築士会 富樫久美子	
	福井県建築士会 本岡美由希	23
「『能登半島地震』県内被害と新潟県建築士会の動き」	新潟県建築士会 内藤 一恵	
	上石 茂美	29

6 活動報告 33

「繋がりをもつこと ～災害後6年目の現在地～」	岡山県建築士会 渡辺 睦	34
-------------------------	--------------	----

7 分科会 38

A分科会 来年は山形県開催！「魅力ある和の空間ガイドブック」 part6	39
B分科会 インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」	44
C分科会 「民家の土塀修復・保存の取り組み」	49
D分科会 「変えていく！建築士会」～バージョンアップへの道～	53
E分科会 すまい学習をサポートします あれから	
～続・兵庫県建築士会住教育支援チームの取り組み～	58
F分科会 女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について	63
G分科会 未来につなぐ環境建築への取り組み～地方の建築技術者が出来ること～	67

8 建築士会女性委員会(部会)活動報告・アンケート集計 77

9 第66回全国大会「鹿児島大会」参加のご案内 92

10 令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会 山形大会参加のご案内 99

1 ごあいさつ

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）開催にあたって



公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長
本間 恵美

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会東京大会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。また、日頃より公益社団法人日本建築士会連合会女性委員会の活動に、ご支援ご指導を賜り心より御礼申し上げます。

今年は、新年早々の1月1日に令和6年能登半島地震が発生し、甚大な被害となりました。また、半島という地形からか思うように復興が進んでいません。昨年の協議会は石川県での開催でした。ごあいさつでは能登地方を震源とする地震が続き、昨年5月の珠洲市での地震被害への対応もある中で開催していただいたことに触れていましたが、まさかこのような大きな災害になるとは想像できませんでした。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早く日常が戻ることをお祈りいたします。

さて今年度のテーマは、未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～です。基調講演では第1部でTOTO株式会社 真島香氏より「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」をテーマにご講演いただいた後、第2部では、株式会社日建設計 畑島楓氏より「インクルーシブな社会を目指してートイレから誰もが使いやすい建築を考えるー」をテーマにご講演いただきます。多様化する現代においてトイレに求められる機能と空間としてのあり方や提案についてお話しいたします。

被災地報告では、令和6年能登半島地震について、被災地の石川県、富山県、福井県、新潟県に報告をしていただきます。また、活動報告では、平成30年の西日本豪雨で水害があった倉敷市真備町での活動他について岡山県より報告していただきます。分科会では7つのテーマについて活動報告と意見交換をいたします。

今回の協議会では、2年前の東京大会と同様に東北ブロックから東英輝さん、戸倉誠さん、草薙渉さん、村越のぞみさんの4名にオンライン配信運営をお願いして開催できましたことを感謝いたします。各都道府県建築士会の活動は、新型コロナウイルス発生前にもどりつつあるようです。今回の協議会を通して学んでいただいたことを、これからの活動に活かしていただくことをお願いしてご挨拶といたします。

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）開催にあたって



公益社団法人日本建築士会連合会
会長 古谷 誠章

こんにちは。今年度より新たに日本建築士会連合会の会長を拝命することとなりました。まずはどうぞよろしくお祈りいたします。

本日は全国女性建築士連絡協議会（東京）の開催、誠にありがとうございます。今年は、「未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～」をテーマに開催されるとのこと、誰もが安心して使える快適なトイレについて考えることが主題と伺っています。とても今日的で、また女性ならではの視点でもあり、それ自体に大きな意義があるのは無論ですが、トイレを「まち・ひと・建築」の構図の中で捉えようとするところに、私は大いに期待を寄せています。ふたつの基調講演のそれぞれに、トイレを公共空間や建築そのものに繋げて考える姿勢を感じますし、協議会において併せて報告が予定されている本年1月1日に発生した能登半島地震の被災地などのような、非常事態にあっても考えなくてはならない、ひとの生活に1日として欠かすことのできない、本質的で重要なテーマでもあります。

究極的なプライベート空間でありながら、多くの場合は他の人ともシェアしなくてはならない空間でもあるトイレは、それ自体が社会的な産物として、その置かれる位置やその場所の特性、建築の形式、衛生を保つ方法など、さまざまな側面においてその土地の気候風土や人々の生活習慣などとも密接に関係しています。大げさに言えば、トイレを観ればその土地の風土や文化を知ることができると思えるほどです。

開会のご挨拶の中であまり詳しく述べるのも憚られます（そういえばトイレもかつては「憚り」とも呼ばれましたね）が、私が最も地球環境にやさしいと考えるトイレがふたつあります。ひとつ目はモンゴルにあり、これはまさに究極のものでした。モンゴル草原の遊牧民たちはゲルと呼ばれるテント住居に住み、移動時には分解して運びます。ゲルそのものにはトイレはもちろんありません。屋外で、川などの水場の方向を避け、ゲルから風下の方向にある程度離れた、起伏の向こう側で視界から消えるところなどが、トイレになります。しかも後始末は即座にすべて犬が平らげてしまいました。冬場には貴重な栄養源のようです。そう言えばストーブの熱源も乾燥した牛糞で、乾燥した気候ならではのものです。

もうひとつはタイにありました。調査のために田舎の村などに行くと、風通しのよい簡素な小屋のなかの便器の脇に小さな水槽と手桶があり、これですべてを洗います。水に事欠かないタイらしい方法で、ウォシュレットの元祖ですね。タイなどではホテルのトイレなどに洗浄ノズルが設置されていますが、その原型とも言えます。いずれもそれぞれの気候に合った、資源や環境への影響を最小限にとどめるものです。

話の軌道を元に戻しましょう。先ほどトイレを観て文化を知ると書きましたが、その文化を社会に置き換えることもできます。衛生的であるばかりでなく、安全で機能的で誰もが快適に利用できるトイレは、実はそれを取り巻く社会の状態に関わっていると思います。テーマに掲げられた「～インクルーシブな社会を目指して～」は、誰にとっても垣根が低いことと同時に、誰もが安心して暮らすことのできるガードの高さを問うものでもあり、一見矛盾して見えるこの両面を合わせて考えることから始まるのではないかと考えます。

この協議会を通して、皆さんと共にそのような問題について深く考えることを、大いに楽しみにしています。実り多い成果の上がることをお祈りしています。

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）開催にあたって

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会担当副会長
一般社団法人 神奈川県建築士会 会長
上原 伸一



全国女性建築士連絡協議会の開催、おめでとうございます。

この度、日本建築士会連合会副会長に就任した神奈川県建築士会の上原です。

また、副会長として女性委員会担当となりましたので、よろしくお願い致します。

女性委員会につきましては、神奈川県建築士会の女性委員会を通じて委員会の組織、役割、活動等に触れる中で承知しているところもあり、また私なりに、「ここはどうなっている?」「この方がいいのでは?」など考えさせる場面が多々あり、女性委員会を注目しているところです。

全国女性建築士連絡協議会は平成2年の第1回東京大会以降毎年開催され、昨年の石川大会で第32回を数える歴史ある興味深いイベントとなっていることに敬意を表させていただきます。

実は昨年の石川大会「守り・育て・受け継がれる技術。手仕事」～伝統工芸と建築～に初めて参加しましたが、心暖かいお出迎え、お茶席でのお持てなし、伝統文化を伝える誇らしさ、運営の細やかな心配りなど、随所に女性委員会ならではの感じられる大会でした。

さて今年の東京大会は、未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～をテーマに基調講演を中心にプログラムが組まれていますが、高齢化により障がい者比率が年々増加してトイレにも様々な機能が求められ、多様化する日本においてトイレのありかたも変化していることから、誰もが安心して使える快適なトイレについて、パブリックトイレ、使いやすい建築を考えるとしています。

合わせて、今年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災地報告及び岡山県の活動報告、2日目には、和、防災、再生、これから、住まい、情報、環境のいずれも興味深いテーマで7つの分科会が開催されます。

今の日本にとって緊急かつ重要なテーマを題材とした全建女の活動が、女性ならではの視点のみならずインクルーシブな社会を見据え未来へつなぐことの大切さを発信することで、今後の皆様の活動に大きな足跡を残し更なる発展に繋がることを祈念して、大会開催に際しての挨拶とさせていただきます。

2 令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会プログラム

未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～

令和6年7月14日（日）

全国女性委員長（部会長）会議

11：00～12：30 於：日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）

[受付] 12：45～13：30 於：日本建築学会建築会館ホワイエ / ZOOM

[開会式] 13：30～13：50 於：日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

総合司会 筒井 裕子

- ・開会の辞
- ・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 古谷 誠章
- ・委員会担当副会長挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 上原 伸一
- ・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 本間 恵美

= 休憩（換気）13：50～14：00 =

[被災地報告] 14：00～14：45（45分）

- ・「令和6年能登半島地震 被災地からの報告」 石川県建築士会 市川 一絵
山田 文恵
- 富山県建築士会 富樫久美子
- 福井県建築士会 本岡美由希
- ・「『能登半島地震』県内被害と新潟県建築士会の動き」 新潟県建築士会 内藤 一恵
上石 茂美

[活動報告] 14：45～15：00（15分）

- ・「繋がりをもつこと ～災害後6年目の現在地～」 岡山県建築士会 渡辺 睦

= 休憩（換気）15：00～15：15 =

[基調講演] 15：15～17：15（120分）

コーディネーター 石貫 方子

基調講演1 15：15～16：00（45分）

- ・「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」
講師 真島 香氏 TOTO株式会社

= 休憩（換気）16：00～16：10 =

基調講演2 16：10～16：55（45分）

- ・「インクルーシブな社会を目指してートイレから誰もが使いやすい建築を考えるー」
講師 畑島 楓氏 株式会社日建設計

質疑応答 16：55～17：15（20分）

= 休憩（換気）17：15～17：30 =

[交流会] 17：30～18：30（60分） 於：日本建築学会建築会館 ホール

司会 鈴木 深雪

- ・ワンバイワン 17：15～17：45 （宮城・東京・愛知・和歌山・愛媛・沖縄）
- ・交流会 17：45～18：30

令和6年7月15日(月・祝)

[分科会] 9:00~11:00(120分) 於:日本建築学会建築会館3・5階会議室 / ZOOM

- ・ A分科会 来年は山形県開催!「魅力ある和の空間ガイドブック」part6
司会者:齊藤 裕美 (北海道建築士会)
コメンテーター:三浦 仁恵 (山形県建築士会)
コメンテーター:古川 美紀 (山形県建築士会)
- ・ B分科会 インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」
司会者:鈴木 深雪 (福島県建築士会)
コメンテーター:柏原 民 (大阪府建築士会)
- ・ C分科会「民家の土塀修復・保存の取り組み」
司会者:小貫 弘巳 (茨城県建築士会)
コメンテーター:吉井 千恵子 (香川県建築士会)
- ・ D分科会「変えていく!建築士会」～バージョンアップへの道～
司会者:矢尾 志津江 (石川県建築士会)
コメンテーター:杉原 尚子 (愛知建築士会)
コメンテーター:丹羽 哲矢 (愛知建築士会)
- ・ E分科会 すまい学習をサポートします あれから
～続・兵庫県建築士会住教育支援チームの取り組み～
司会者:山本 規子 (奈良県建築士会)
コメンテーター:八木 景子 (兵庫県建築士会)
- ・ F分科会 女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について
司会者:高源 真由美 (徳島県建築士会)
コメンテーター:日野 緑 (岡山県建築士会)
コメンテーター:渡辺 睦 (岡山県建築士会)
- ・ G分科会 未来につなぐ環境建築への取り組み～地方の建築技術者が出来ること～
司会者:高橋 由美 (大分県建築士会)
コメンテーター:松田 まり子 (沖縄県建築士会)
コメンテーター:板場 奈美 (大分県建築士会)

= 全体会会場へ移動 11:00~11:15 =

[全体会] 11:15~12:00(45分) 於:日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

- 総合司会 筒井 裕子
- 各分科会司会者
- ・ 分科会報告(3分×7分科会)
- ・ 全体総評 連合会女性副委員長 小林 淑子
- ・ 令和6年度第33回全国女性建築士連絡協議会アピール 連合会女性委員長 本間 恵美
- ・ 第66回全国大会鹿児島大会参加のご案内 鹿児島県建築士会女性部会長 西野 千夏
- ・ 令和7年度第34回全国女性建築士連絡協議会(山形)参加のご案内 山形県建築士会女性委員長 村山 紀子
- ・ 閉会の辞

3 会場案内図

7月14日（日）		
11:00～12:30	全国女性委員長（部会長）会議	日本建築学会 建築会館ホール
13:30～17:15	令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会	
17:30～18:30	交流会	

7月15日（月・祝）		
9:00～11:00	分科会	
	A分科会	3階 304号会議室
	B分科会	3階 308号会議室
	C分科会	3階 305号会議室
	D分科会	1階 ギャラリー
	E分科会	3階 306号会議室
	F分科会	5階 連合会会議室
	G分科会	3階 301 + 302号会議室
11:15～12:00	全体会	日本建築学会 建築会館ホール

日本建築学会 建築会館 〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号

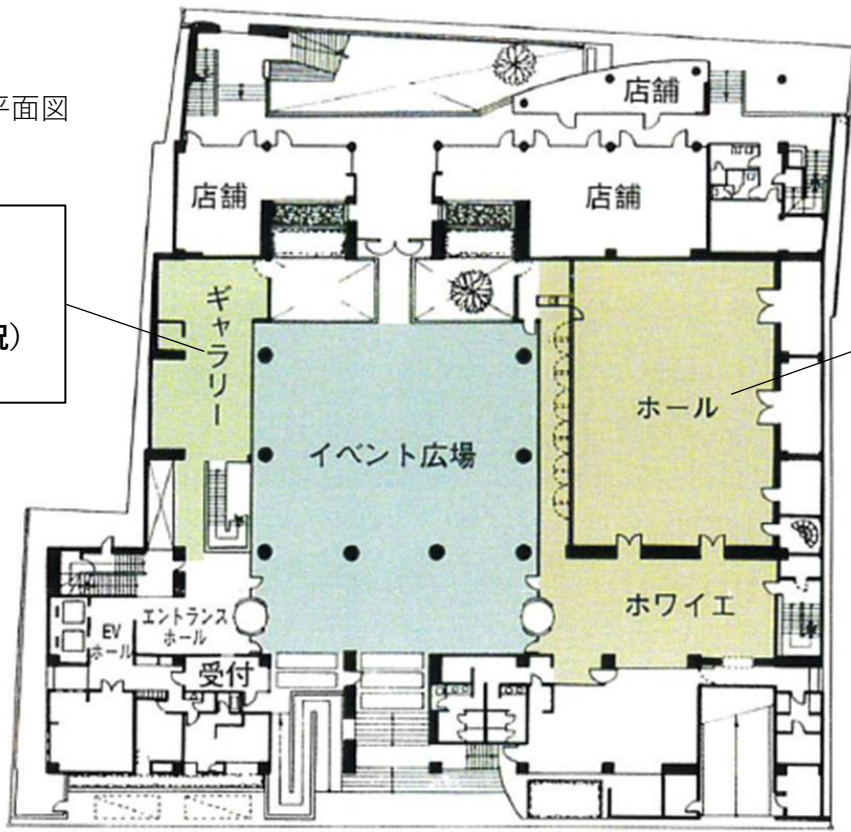
《最寄り駅》JR田町駅、都営三田線・浅草線三田駅

- JR田町駅より徒歩3分
- 都営三田線・浅草線三田駅より徒歩3分



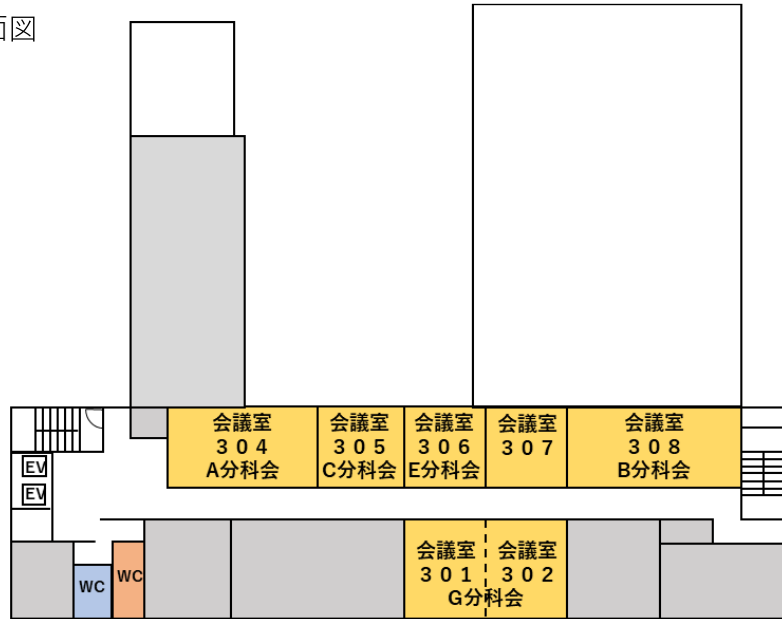
■ 建築会館 1階平面図

7月14日(日)
 昼でおもてなし
 プロジェクト
 7月15日(月・祝)
 D分科会

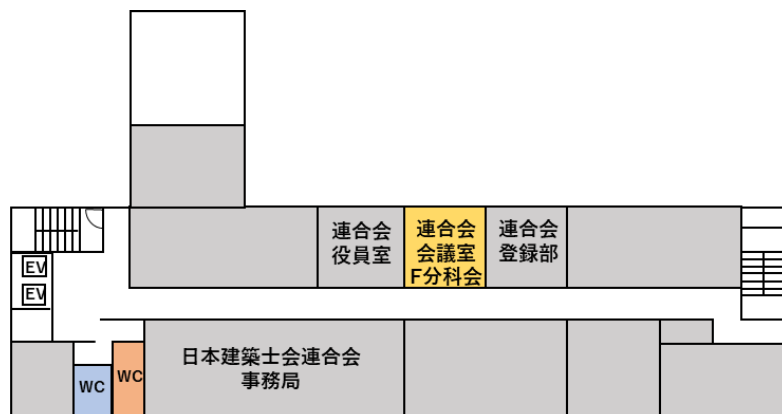


全国女性委員長
 (部会長)会議
 全体会会場

■ 建築会館 3階平面図



■ 建築会館 5階平面図



オンライン配信案内

オンラインで参加予定の方は、下記事項をご理解の上参加をお願い致します。

■事前準備（ZOOMのダウンロード）

今回のオンライン配信は、全体会ではWEB会議システムZOOMウェビナーを、分科会ではZOOMミーティングを使用して行います。オンラインで視聴される方は事前に使用する端末へ下記よりZOOM最新版のダウンロード（無料）をお願いします。

<https://zoom.us/download>

ZOOMダウンロードのQRコード⇒



■視聴方法

オンライン配信の視聴URLは、事前にメールで通知する予定ですが、もし前々日（7月12日）までにURLの連絡がない場合は、日本建築士会連合会 事務局 榎本、竹田までご連絡ください。

日本建築士会連合会事務局03-3456-2061

メールアドレス jigy01@kenchikushikai.or.jp メールアドレスのQRコード⇒



視聴URLの案内メールは、カレンダーにコピーするなどわかりやすい場所に保存してください。なお、URLを参加者以外の人に教えたり、SNSなどでURLを発信する行為は控えてください。

■名前の表示ルール（参加者の管理を行いますので入力をお願いします）

- ・参加者 **姓名（都道府県名）** 例) 建築花子(東京)
- ・グループで参加の場合・ **代表者の姓名（都道府県名）G** 例) 建築花子(東京) G

■全体会 基調講演・活動報告・被災地報告（ZOOMウェビナー） 参加にあたってのお願い

- ・当日は録画を行い、後日連合会女性委員会のHPにてアーカイブとして動画を公開予定ですが、基調講演1についてはTOTO株式会社の規程により録画は行わず、当日のオンライン配信のみとなりますのでご了承ください。
- ・オンライン参加者による視聴中のスクリーンショットや録画、録音は固く禁じます。
- ・全体会では、参加者（主催者、発表者以外）はカメラやマイクの設定がありません。質問や連絡事項（音が聞こえにくい等）がある場合は、ZOOM画面の「Q&A」ボタンを押して内容を入力してください。
- ・基調講演や活動報告・被災地報告では、質問したい相手を最初に入力してから質問内容を入力してください。
- ・質問の最後に、所属士会（無所属の場合は「無所属」）とお名前の記入をお願いします。
- ・当日お答えできなかった質問に関しては、後日ホームページに回答を掲載する予定です。

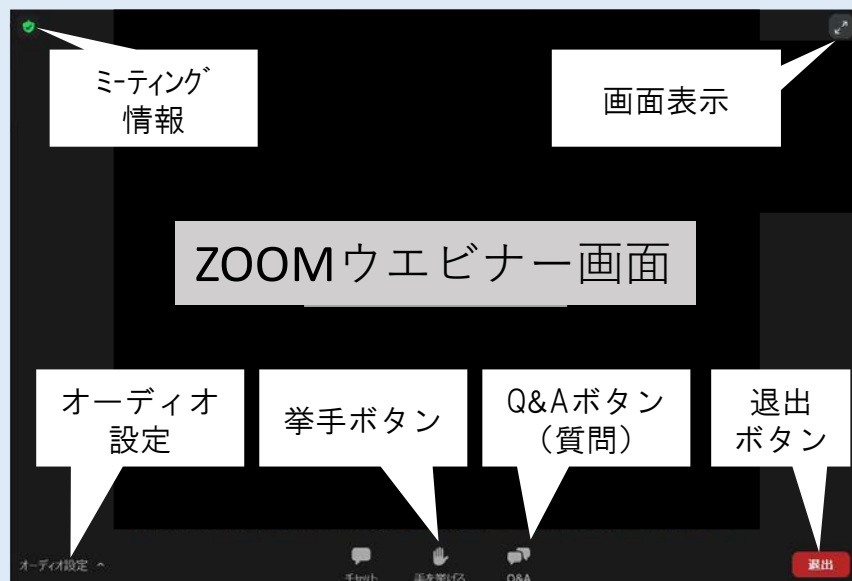
■分科会（ZOOMミーティング）参加にあたってのお願い

- ・分科会では、カメラやマイクの設定については司会者の指示に従ってください。

■視聴終了

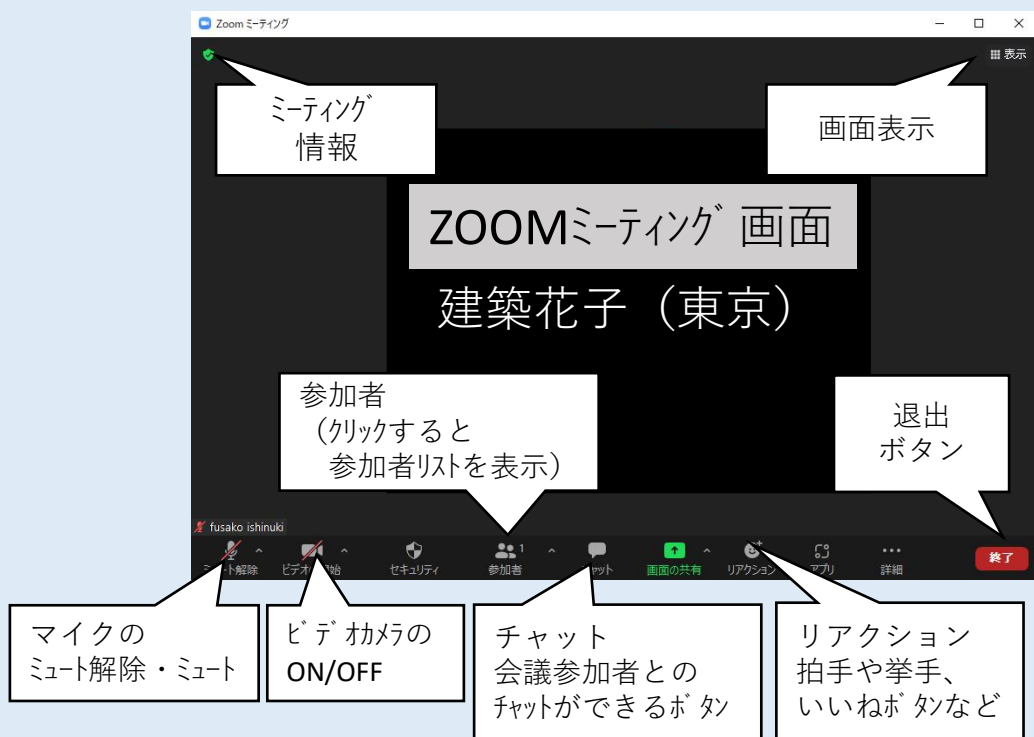
- ・「退出」ボタンを押して、ZOOMから退出してください。

■ ZOOMウェビナー画面の操作ボタン例（全体会 基調講演・活動報告・被災地報告）



※「手を挙げる」挙手ボタンは、司会者からの指示があるまでは押さないでください

■ ZOOMミーティング画面の操作ボタン例（分科会）



※マイク、カメラのON/OFFについては、分科会開始時にはOFFとし、司会者からの指示に従ってください

※挙手ボタン等は、司会者からの指示があるまでは押さないでください

4 基調講演

基調講演 1 「一人でも多くの人に使いやすい パブリックトイレを目指して」

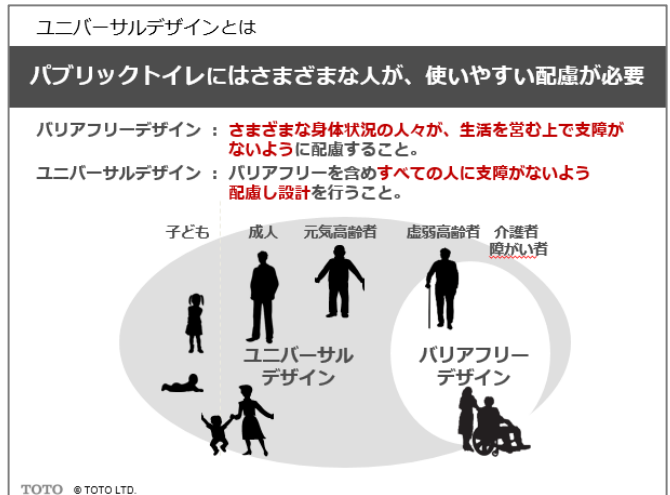
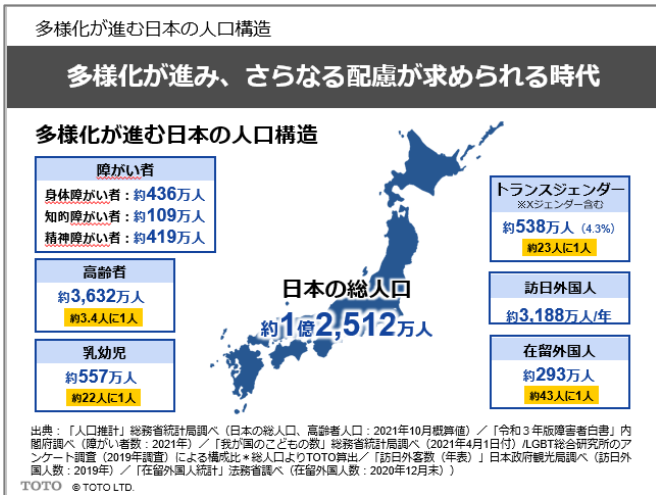


真島 香

TOTO株式会社 UD・プレゼンテーション推進部
東京プレゼンテーショングループ 企画主査

2004年 TOTO株式会社入社
パブリックトイレのレイアウト提案や提案コンテンツの制作に従事
多様な人の水まわりの利用実態やニーズ調査も実施し、
一人でも多くの人使いやすいトイレのあり方を提案

はじめに：パブリックトイレは多様な利用者への配慮が必要



社会生活・社会参加するためには「安心して外出できる環境」が重要である。
安心して外出できる環境のひとつが使いやすく快適な「パブリックトイレの整備」である。
さまざまな人が利用するパブリックトイレでは、多様な人々、多様な行為、多様なニーズへの配慮が必要。

01：バリアフリー法・建築設計標準

直近では、2021年3月に建築設計標準（ガイドライン）が改正され、トイレの機能分散やバリアフリー改修を促進する内容が盛り込まれ、より重度の障がい・介助者への配慮も充実された。

建築設計標準改正トイレに関する主な改正ポイント（21年3月改正）

重度の障がい・介助者への配慮の充実（車いす使用者トイレ）

建築設計標準改正により車いす使用者トイレのスペース拡大に繋がり記述や大型ベッドの設置を推奨する記述が追加された。

	改正前	改正後
①空間寸法の拡大	標準内法寸法 200cm×200cm程度 φ150cm以上の円の内接	すべての建築物 不特定多数の人が利用する床面積2,000㎡以上の建築物など ・200cm×200cm以上（ライニング等は含まない） ・φ150cm以上の円の内接 ・φ180cm以上の円の内接
②大型ベッドの設置推奨と大型化	<例> 150cm×60cm程度など	200㎡以上の建築物においては標準的に整備することを推奨 <例> 160～180cm×60～80cm程度
③腰掛便座の座面高さ変更	40～45cm程度	42～45cm程度 ※背もたれ設置を推奨

TOTO © TOTO LTD.

建築設計標準改正トイレに関する主な改正ポイント（21年3月改正）

トイレの機能の分散配置へのさらなる促進

④トイレの室名表示のガイド追加
車いす使用者トイレへの利用者集中を緩和するため、乳幼児連れやオストメイトに配慮した設備をトイレ全体に適切に分散して配置する考え方が設計のポイントとして示された。また、障がい者等に配慮したトイレを総称して「バリアフリートイレ」と位置づけ、だれもが利用できるネーミングを避けた室内表示をガイドされた。
★室名は表示しなくてもよいとされています。
★機能をピクトグラムのみで表示する例が示された。

<トイレ入り口のサインイメージ>
大型ベッド付き車いす使用者トイレ
男女共用のオストメイト設備付きトイレ

小規模建築物のバリアフリー化

⑤小規模建築物トイレの作図追加
日常生活にて利用される診療所、物販店舗、飲食店舗、サービス店舗等では建築物の規模に関わらず、高齢者・障がい者等が利用できるトイレが求められるという考え方が示され例図も追加された。

車いす使用者のむきより下が入るスペースを確保する
男女共用の乳幼児用設備を有する便座
男女共用車いす使用者専用便座
オストメイト用設備

TOTO © TOTO LTD.

02：さまざまな利用者の配慮ポイント

02-1. 動作映像から考える配慮ポイント

TOTOグループのユニバーサルデザイン推進の拠点として、2006年にUD研究所を設立。
つくる（企画・開発）・育てる（人材育成）・考える（基盤研究）の3つの視点を総合的に組合せ、ユニバーサルデザインを推進している。
障がいをお持ちのモニターの方にご協力いただき、トイレ内の動きを確認。


02-2. 男女共用トイレのニーズ

「男女共用トイレ」の設置を望んでいる方の声

男性用・女性用に分かれたトイレに「心理的な入りにくさ」を感じている方がいる


介助が必要な高齢者

母に付き添えるトイレだと安心




発達障がい者

息子がトイレを一人で済ませられるか心配、一緒に行けると安心




乳幼児連れ

パパも娘と一緒にトイレに入ると安心



トランスジェンダー

性別を問わないトイレだと安心



TOTO © TOTO LTD. 41

男女共用トイレのニーズ

車いす使用者トイレとは別に男女共用の個室トイレを



車いす使用者
トイレ

男女共用
個室トイレ

「男女共用個室トイレ」の利用を不自然にしないためのヒント

だれもが日常的に利用できるトイレと位置付けることが大切。

- 1. トイレの設置位置**
オフィスはロビー階や共用フロアなど、学校は職員トイレや保健室のそばなど。
- 2. しつらえの工夫**
癒しが感じられる空間デザインにするなど、立ち寄りたくなるトイレにするとよい。



TOTO © TOTO LTD.

子どもや発達障がい者、高齢者で異性による介助・同伴が必要な人や、トランスジェンダーの中には、男性用・女性用に分かれたトイレに利用しづらさを感じている人がいることが顕在化。

男女共用のバリアフリートイレがあるが利用には気兼ねするという声もある。

男性トイレ、女性トイレ、バリアフリートイレ、に加えて性別を問わずに利用できる男女共用（オールジェンダー）個室トイレを設置した、誰もが気兼ねなくトイレを選択できるあり方が求められる。

男女共用個室トイレのポイントは広めのスペース。介助者・同伴者と2人で入れる他、大きな荷物持って入れるなど多様なユーザーへ配慮。

発達障がい者には、待てる工夫としてアイキャッチも有効と考え提案している。

異性による介助・同伴が必要な方（高齢者の介助者／発達障がい者の保護者／乳幼児連れ）

【高齢者の介助者】外出先のトイレを利用する際に高齢なご親族を介助・見守りする方に困りごとを伺った。回答者（介助者）とご親族（被介助者）の性別が異性介助か同性介助かで分けて集計した。困りごとがあると回答した人のうち、異性介助（n=59）では「男女共用のトイレがないこと」が1位の困りごと（異性介助54.2%／同性介助 13.7%）。「2人で入るにはブースが狭い」（異性介助42.4%／同性介助54.9%）、「手すりがない」（異性介助40.7%／同性介助43.1%）は共通の困りごと。（同性介助：n=51）

【発達障がい者の保護者】発達障がい者の保護者（n=81）に、お子様と一緒に利用できるトイレがなくて困ることがあるかを聞くと困ることがある26%、やや困ることがある31%で半数を超える。

【乳幼児連れ】4~7歳の子どもを持つ親（n=857）は子どもが子ども自身の性別とは異なるトイレに入ることに抵抗を感じている。（（抵抗を）感じる17%／やや感じる28%／あまり感じない18%／感じない12%／どちらともえない25%）

性的マイノリティ（トランスジェンダー）

トイレに困りごとを抱えているのはトランスジェンダー

トランスジェンダー（n=412）が外出先トイレでストレスを感じることは、上位より、「トイレに入る際の周囲の視線」（31.1%）、「トイレに入る際の周囲からの注意や指摘」（23.5%）、「男女別トイレしかなく、選択に困ること」（21.4%）。

03： オフィストイレで叶えるウェルビーイング

ウェルビーイングとは、直訳すると「健康」「幸福」という意味。
各企業で従業員満足度・ウェルビーイングに関心が高い傾向。

TOTO独自で職場環境に関するアンケートを実施。
オフィスで体の不調を感じた時に行く場所はトイレ。

ウェルビーイングとは

ウェルビーイングとは、
直訳すると「健康」「幸福」という意味。
心身の潜在能力を発揮し、意義を感じている
「いきいきとした状態」を指すもの。

TOTO © TOTO LTD.

調査 | オフィスワーカーアンケート

不調を感じた時、男性5割、女性6割がトイレに行っている

Q | (不調を感じているオフィスワーカーに聞きました)
オフィスで身体の不調を感じて業務を中断・終了したいと思った時、
どのように行動しますか?
上位6つ (複数回答)

行動	男性 (n=242)	女性 (n=270)
トイレに行く	52%	61%
自宅で我慢し続ける	18%	22%
目をそらす	22%	20%
業務を終了し、帰宅する	22%	19%
休職・重傷室に行く	23%	17%
行かない	20%	16%

※小数点以下は四捨五入
出典：「職場環境に関するアンケート」 TOTO調べ (2022) n=640
TOTO © TOTO LTD.

女性には、年齢・ライフイベントの変化によりさまざまな健康課題がある。

多様な症状をさりげなくセルフケアできるトイレブースがおすすめ。

女性の健康問題

年齢・ライフイベントの変化により
さまざまな健康課題がある

● 月経異常
● 妊娠・出産のトラブル

● 分泌量が乱れる
● 更年期障害・がんなど

● 分泌量が減少
● 尿失禁、骨粗しょう症など

↑ エストロゲン量

0 幼年少年期 10 思春期 20 成熟期 40 更年期 60 閉経期 80 高齢期

出典：厚生労働省研究班作成「女性の健康推進室ヘルスケアラボ 現代女性の健康問題」を基にTOTOが加工して作成
TOTO © TOTO LTD.

女性トイレで求められる配慮

多様な症状をさりげなく“セルフケア”できるブース

<セルフケアブース> おすすめ設備

鏡 (全身鏡)

洗面器 + 自動水栓

オオシユレット® (脱臭機能)

手すり

チャームボックス (防臭入り)
手を乾かすアイテム (乾燥機機能)

着替え台

椅子・ベンチ

イメージ

TOTO © TOTO LTD.

04：さまざまな建物用途の現場事例のご紹介

TOTOの専門家向けWEBサイト「COM-ET（コメント）」にてパブリックトイレの現場実例を多数掲載。

（WEB検索：TOTO COM-ET、 ⇒ 『事例』）

建物用途	現場名	水まわりの特長	詳細はこちら※
オフィス	梅田センタービル 18F～憩～	梅田センタービルでは、18Fにリフレッシュスペース「～憩～」を新設し、個室完結型のトイレを3ヶ所設置。うち1ヶ所は、車いす使用者やオストメイトが利用できるバリアフリースペースとし、性的マイノリティの方をはじめ、多くのワーカーが快適に利用できるよう配慮されている。	
オフィス	九段会館テラス	「九段会館テラス」は、一部保存・復原した登録有形文化財の旧九段会館と、主に最新鋭のオフィスからなる新築棟とを融合させた複合施設。非日常感のある旧九段会館の印象を繋ぎ、レトロモダンな空間意匠を創出したトイレは、先進の機能性と細やかな配慮を生かしながら、文化財の雰囲気大切にされている。	
競技場	国立競技場	「国立競技場」は、世界に誇る日本のナショナルスタジアム。設備の整備にあたっては、「世界最高のユニバーサルデザイン」を基本理念とし、トイレも細部にわたり確認と検証を実施。多様な利用者を想定した「アクセシブルトイレ」を計93ヶ所設置するなど、だれもが安心して、快適に利用できる環境を整備している。	
工場	TOTO株式会社 小倉第一工場	「TOTO株式会社 小倉第一工場」は、創立の地にあるTOTOグループのマザー工場。このたび新設したトイレは、社員だけでなく、工場見学のお客様も利用。「バリアフリースペース」に加え、性別を問わずゆったりと利用できる「くつろぎトイレ」を設置。TOTOが提案するパブリックトイレのモデルケースとなるトイレ空間となった。	

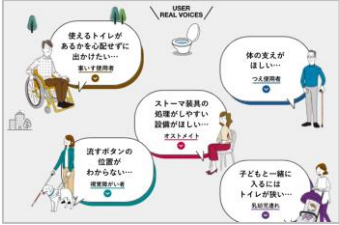



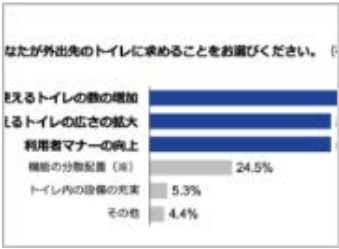



※通信料はお客様のご負担となります。ご利用環境によって再生・閲覧できない場合があります。

さいごに

現場の建物用途、規模、利用者、トイレが設置される位置など状況によってさまざまなあり方や組み合わせ方があると考えている。今後も設計者の方、建築主の方などとの協業を通じて、一人でも多くの方が気兼ねなく快適に利用できるトイレを考えていきたい。

【関連情報のご紹介】

WEBサイト「TOTOのユニバーサルデザイン」にて、パブリックトイレのユニバーサルデザインに関する各種情報をご紹介します。よろしければご覧ください。

	分類	内容	イメージ	詳細はこちら※
1	WEBサイト	パブリックトイレのUD (ユニバーサルデザイン) みんなのホンネ		
2	調査レポート	トイレ入り口まわりの サインの色に関する アンケート調査結果		
3	調査レポート	パブリックトイレの 車いす使用者の利用状況と 意識調査		
4	コラム	発達障がい“手がかり” として、すべての人に 使いやすいトイレを考える。		

※通信料はお客様のご負担となります。ご利用環境によって再生・閲覧できない場合があります。

基調講演 2

インクルーシブな社会を目指して — トイレから誰もが使いやすい建築を考える —



畑島 楓

株式会社日建設計

1993年京都生まれ。2019年慶應義塾大学大学院卒業、日建設計入社
建築デザイナーとして大手設計事務所を拠点に建築や事業の提案を行う傍ら、
セクシュアルマイノリティの当事者としてDiversity & Inclusionに関する講演や発信活動を行う

制作例

リコチャレ！ 中高生向け建築ワークショップ / 2023
港区公衆トイレデザインガイドライン「進めよう！おもてなし公衆トイレ」 / 2023
“TOILET”日建設計東京ビルトイレ改修 / 2023

その他

- ・プロダクション尾木 文化人
 - ・日本科学技術振興機構(JST) サイエンスアゴラ推進委員
 - ・日建設計 コモンズグループ コンサルタント
 - ・Forbes Japan 30 UNDER 30 2022
- <http://www.kaedehatashima.com>

最近の活動

DE&Iに取り組む企業へのナレッジシェア&サポート



2019-
慶応義塾大学大学院卒業
日建設計入社
Jobrainbow LGBTフレンドリー企業マニュアル

ワーカー・就活生への情報発信、当事者のサポート



2020-
Abema News「アベマヒルズ」コメンテーター
パンテーン「#HairWeGoキャンペーン」出演

地方・海外への広範な情報発信



2021-
映画「You decide.」全国劇場公開

無関心層の生活者、経営者・人事へのアプローチ



2022-
高島屋ショールーミング「Meetz store」
Indeedライフスタイルマガジン「BE」発刊
Forbes Japan 30 Under 30

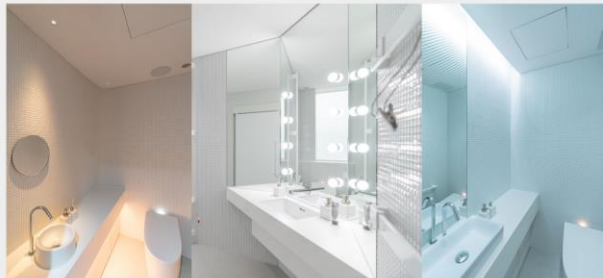
一緒に考えることを通じた「社会のデザイン」



2023-
ワークプレスのコンサルティング
中高生向けワークショップ「リコチャレ」
未来のトイレのプロトタイピング



社会のデザインから「環境のデザイン」へ



2024-
・新しいトイレのプロトタイプ「TOILET」竣工
・港区公衆トイレ「進めよう！おもてなし公衆トイレ」整備方針制作
・未来のトイレ展(Meet your art Festival)



東京都港区のトイレに新風を、プロボに勝利した日建設計・畑島楓氏のビジョン|日経クロステック...

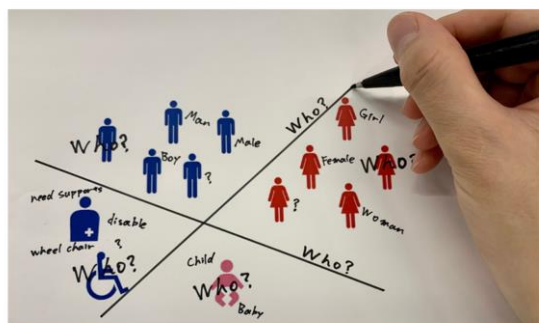


出発点

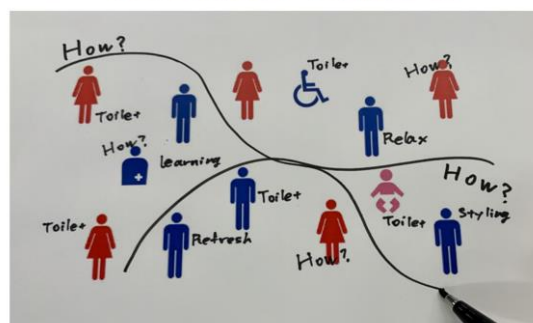
建物サインは「どう使うか」が描かれているが、
トイレのサインは「誰が使うか」が描かれている



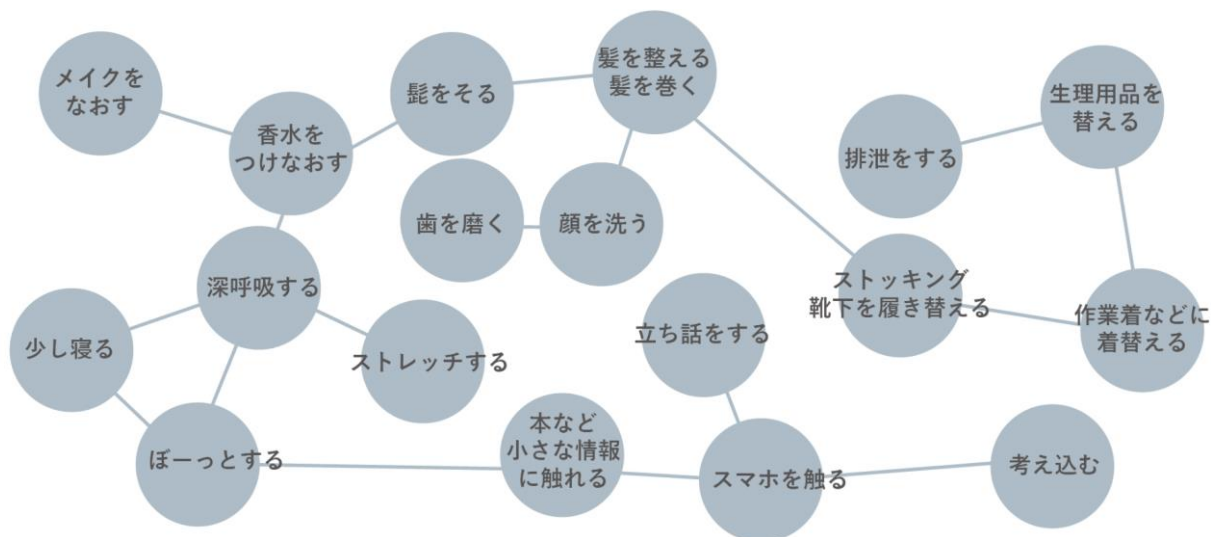
トイレは「誰が使うか」で境界が引かれている



「誰が使うか」ではなく、
「どう使うか」に着目する

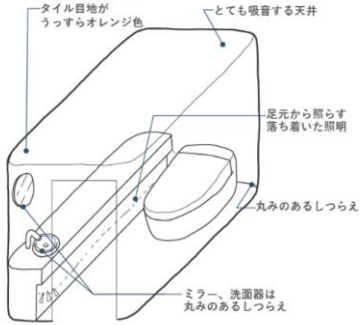


トイレをどう使うか？に着目し、トイレにおけるアクティビティを整理した。



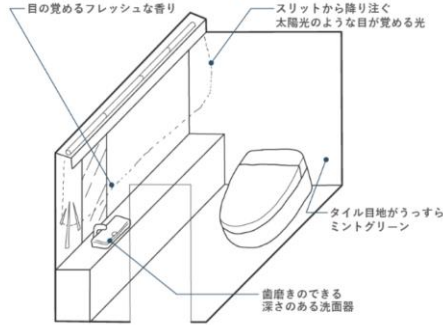
Relax

- ぼーっとする
- 考え込む
- 少し寝る
- 深呼吸する



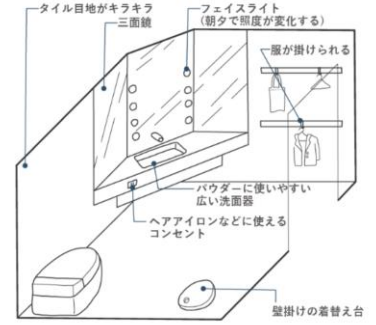
Refresh

- 香水をつけなおす
- 顔を洗う
- 歯を磨く
- ストレッチする



Styling

- メイクをなおす
- 髪を整える 髪を巻く
- ストッキング靴下を履き替える
- 作業着などに着替える



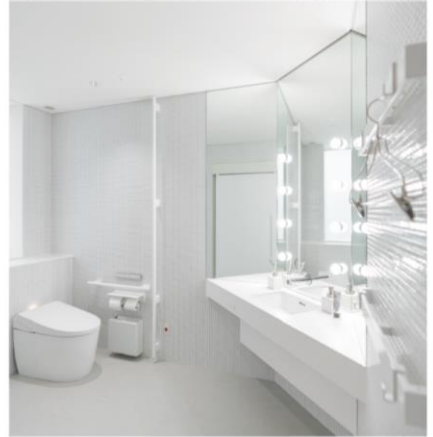
空間も建具も角を丸くし、こもり感のある落ち着いた空間。天井を吸音材とすることで、反響を抑えた。



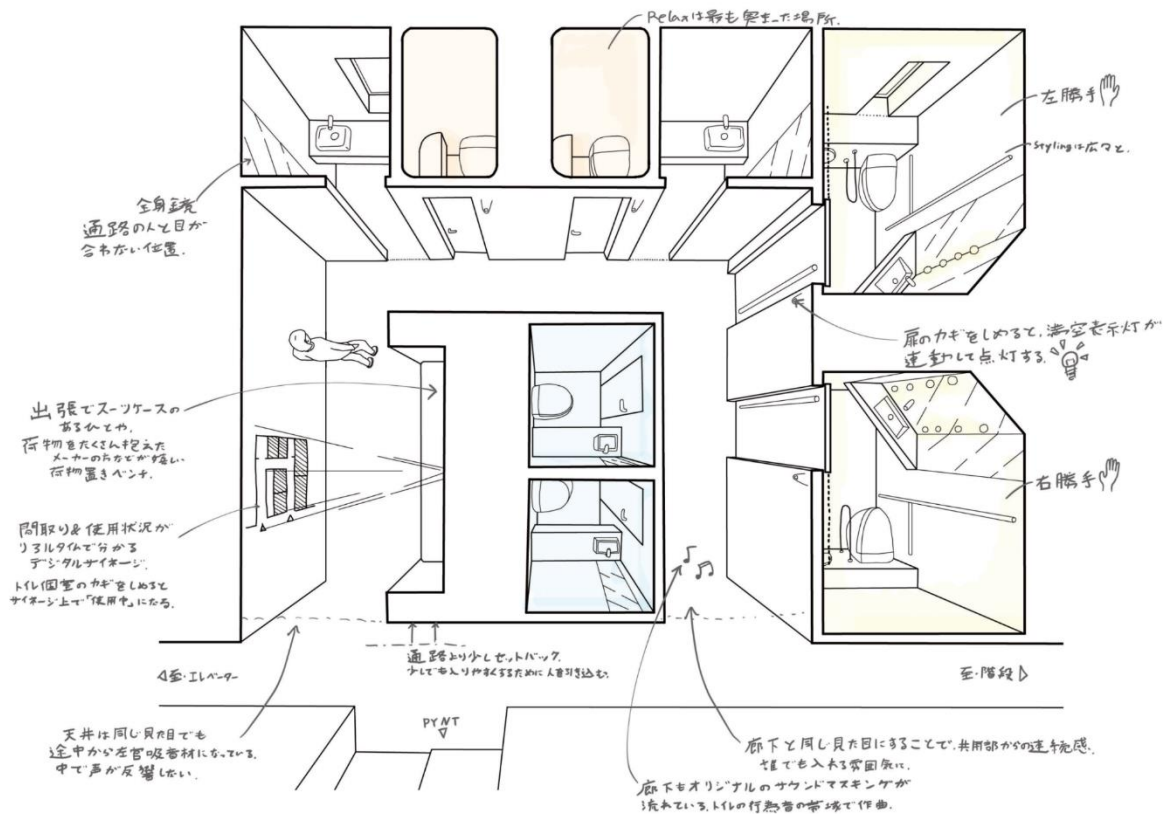
色温度・照度を高く設定した日射のような光が注ぐ空間。空間にはミントのような目が覚める匂いが漂う。



身だしなみを整えやすいように三面鏡、フェイスライト等を設けた。タイル目地にはアイシャドウのようなラメが輝く。

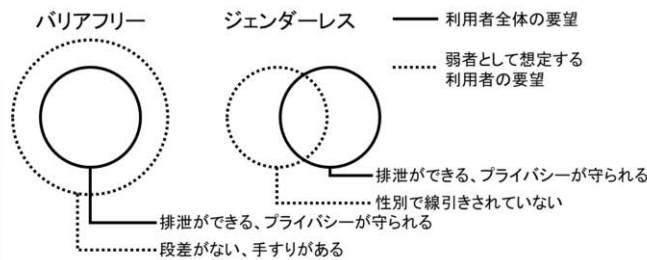


名称	Relax	Refresh	Styling
アクティビティ	ぼーっとする、考え込む 少し寝る、深呼吸する	香水をつけなおす、顔を洗う 歯を磨く、ストレッチする	メイク、髪を整える 着替える、履き替える
環境のイメージ	落ち着く、優しくなる 包まれる	目が冴える 気持ちが解放される	高揚する、楽しい ワクワク
音 (サウンドマスキング)	抑揚が少なく、 包まれるような籠った音	木琴、 金属のような冴えた音	テンポが小刻みに上がっていく ワクワク感のある音
天井の仕上げ	左官仕上げの吸音材	ボードペンキ塗り	ボードペンキ塗り
香り	ウッディな香り	ミントのような香り	花のような香り
空間の広さ	狭い、身体に近い	縦長い、 天井の高さが強調される	広い、 スーツケースも持ち込める
空間の形状	丸い、エッジが少ない	シャープ、直線的	機能的、 身支度の動作がしやすい
照明の位置	目線より低い、 明かりの重心が低い	天窗のように 高い位置から降り注ぐ	機能的、 顔を照らしやすい
照明の色温度	電球程度に暗い	太陽光と同じ明るさ	メイクしやすいように 朝夕で変化する
モザイクタイル	白、艶がない	白、艶がある	白、艶がある
タイルの目地	黄土色の絵画色粉が 混ざっている	緑青色の絵画色粉が 混ざっている	無彩色のラメが混ざっている



プロジェクトを通じた気づき(抜粋)

気づき1 バリアフリーとジェンダーレスの構造的な違い

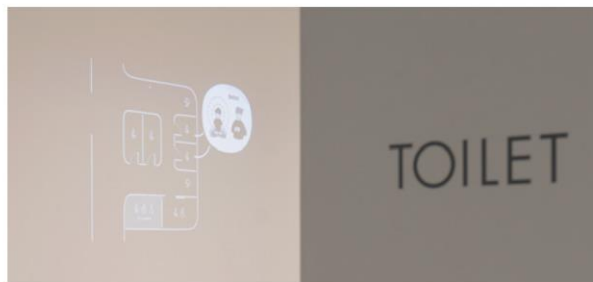


“バリアフリーでは最も弱者性のあるユーザーを想定しながら空間を計画していく。(中略) これらについて身体障がい者ではない利用者からクレームが出ることはないだろう。”

“トイレ利用の制約を解消するために、トイレ空間をジェンダーレスに計画したとする。そうすると、これまで何の問題もなく男女トイレを利用していたユーザーの一部から、性犯罪や盗撮の温床になるのではないかと、異性の利用者と鉢合わせたら気まずい、といったクレームが出てしまう。すなわち、バリアフリーでは最も弱者性のあるユーザーの要望を満たすことが利用者全体の要望を満たすことに繋がるが、ジェンダーの観点では、最も弱者である利用者の要望を満たすことが利用者全体の要望を満たすことに繋がらないということである。一方に配慮してジェンダーレスにすると、他方から新しい不満が出るというゼロサム構造をとってしまう。”

- 都市と建築 2024.366号 特集「ジェンダーと都市計画」筆者寄稿

気づき2 「ジェンダーレストイレ」への違和感



“ジェンダー「レス」という言葉は、それがジェンダーで分けられているという前提に立っている。もっと言うと、トイレは男女で分けられているものであるという前提に立つことで、マジョリティがマイノリティに配慮してあげているというスタンスが感じられてしまう。”

“昨今のジェンダーレストイレという言葉は、いままで限定されていた男・女という括りをやめ、性別で制限しないという意味で、多様性への配慮を表現できる。(中略) しかし、その課題のためだけに男女別トイレを廃止し「ジェンダーレストイレ」にしたと捉えられてしまうと、マイノリティのためにマジョリティの居場所を奪ったような印象を与えてしまい、かえって分断を生みかねない。”

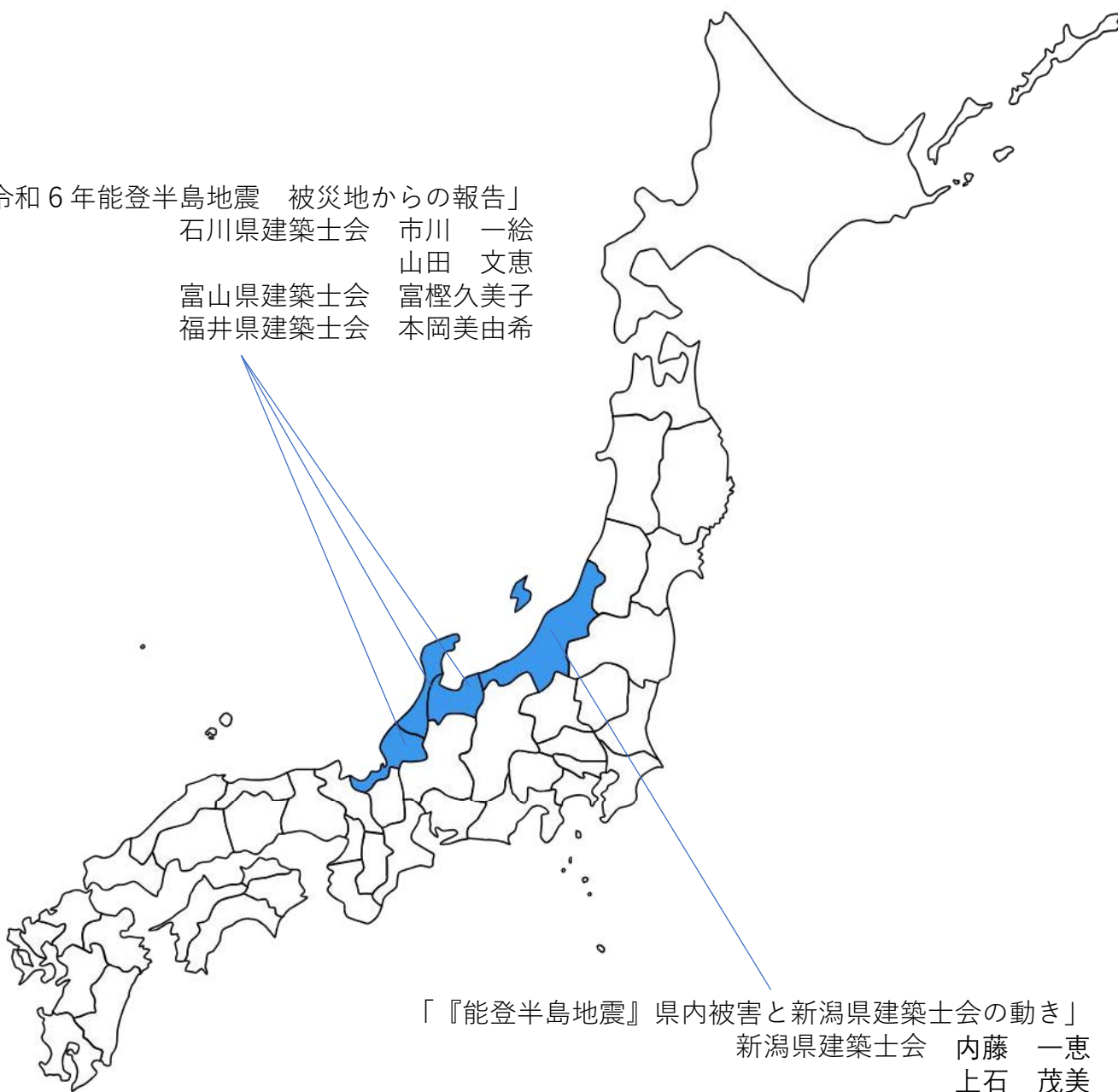
- 建築と社会 2023.6月号 筆者寄稿

5 被災地報告

「令和6年能登半島地震 被災地からの報告」

石川県建築士会 市川 一絵
山田 文恵

富山県建築士会 富樫久美子
福井県建築士会 本岡美由希



「『能登半島地震』県内被害と新潟県建築士会の動き」

新潟県建築士会 内藤 一恵
上石 茂美

『令和6年能登半島地震』

1.地震の概要

発生時刻 : 令和6年1月1日16時10分
震源地 : 石川県能登地方（震源の深さ約16km 地震の規模M7.6）

各地の震度

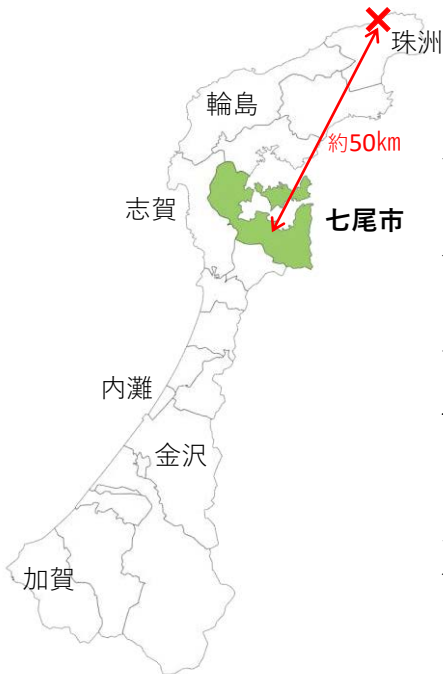
- 震度7 (石川県) 志賀町、輪島市
- 震度6強 (石川県) 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
- 震度6弱 (石川県) 中能登町
(新潟県) 長岡市
- 震度5強 (石川県) 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
(富山県) 富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村
(福井県) あわら市
(新潟県) 新潟中央区、三条市、柏崎市、燕市、糸魚川市、妙高市、刈羽村ほか
- 震度5弱 (石川県) 白山市、津幡町、内灘町

津波警報

- 1月1日 16時12分 津波警報発令（石川県能登、石川県加賀）
- 16時22分 大津波警報に切り替え（能登）
- 20時30分 津波警報に切り替え（能登）
- 1月2日 1時15分 津波注意報に切り替え（能登、加賀）
- 10時00分 津波注意報解除（能登、加賀）

2.被災実体験と被災状況（石川県七尾市） 市川 一絵

(1) 被災実体験



「その時わたしは
夕食の支度に
とりかかろうと
していたところでした」

子供たちに覆いかぶさり
必死で揺れが収まるのを
待った。

大津波警報
ガスの元栓を閉め、
ブレーカーを落とし、
上着を着て、車で高台へ

1/1夜 津波注意報に
切り替わり、自宅へ戻る
布団と水を積み車中泊

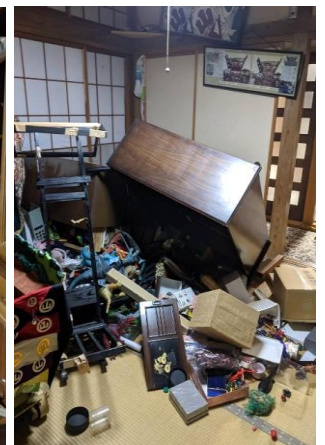
寒くて眠ることができず、車のガラスが
凍るほどの氷点下となった夜だった

おせち料理とストックの水
とりあえず食べるものには困らなかった

断水
トイレは家庭菜園用のタンク水
毎日、水の確保が日課

断水で水の確保や食事の用意が
億劫になり、一日2食の生活

1/3新聞が届き、少しほっとした
1/4一本杉町の事務所に初出社



1月1日夜 自宅内の様子



給水で確保した水

1/25子供の学校再開
2/7学校給食再開
(コンビニおにぎりやパン)

2/7町内の断水解消
(飲料水にはまだ使用できず)

(2) 七尾市内の被災状況



↑ 魅力ある和の空間ガイドブックで紹介した「明治の館」



3. 石川県の被災状況と活動について 山田 文恵

(1) 被災状況と活動 (令和6年6月18日現在 出典：石川県災害対策本部会議資料)

人的被害 (人)		住家被害 (棟)		ライフライン被害	
死者	260人	全壊	8,063棟	断水	約11万戸
行方不明者	3人	半壊	16,720棟	停電	約4万戸
負傷者	1,207人	一部破損	58,537棟		(ピーク時)
死者には災害関連死30名を含む		その他	11棟		

応急危険度判定 (件)		
実施件数	31,600件	(割合)
うち 危険 ■	21,615件	39.9%
要注意 ■	8,790件	27.8%
調査済 ■	10,195件	32.3%

県からの要請により、建築士会など建築関係団体が参画し、応急危険度判定が実施された。
(調査期間：1月4日～1月21日)

その後、住宅相談の要請もあり、会員が参画した。役場に相談に訪れる被災者から状況を伺い、アドバイスを行った。お話をお伺いすること自体が被災された方にとって不安を和らげるという支援となっていることを実感した。

(2) 輪島市門前の様子

令和4年5月に女性委員会総会で訪れた『総持寺祖院』と国指定重要文化財『旧角海家住宅』



令和4年5月 総持寺山門前にて



令和6年1月 地震後の総持寺



令和6年1月 地震後の総持寺

[上] 平成19年能登半島地震から14年をかけて復興した総持寺祖院
長年復興に取り組んでこられた副住職の案内で見学

[下] 国指定重要文化財「旧角海家」
こちらも平成19年の地震被害から復興した矢先の被災でした。



令和4年5月 旧角海家



令和6年1月 地震後の旧角海家



総持寺通りの様子

(3) 珠洲市の様子

2月上旬から珠洲市内のお客様宅の応急修繕を行った女性委員会メンバーは、自主避難所に宿泊し、工事にあたった。



5月中旬の様子



がけ崩れ脇を通り現場へ通う



1m以上隆起した漁港



災害ごみの仮置き場

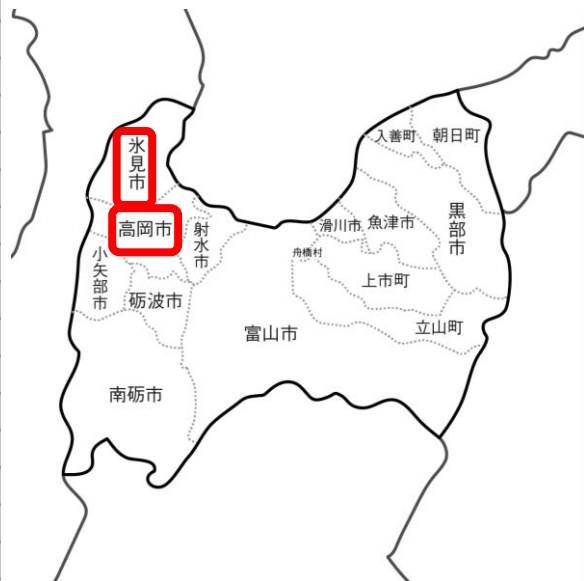
お客様宅の工事は、「一日でも早く不自由のない生活をしたい」との思いで着手し、近隣での最初の修繕工事となった。資材運搬車両の確保が難しく、道路状況も悪いため、途中でパンクして現場まで辿り着かないことも。1週間分の食材と炊事用具を持ち込み、職方の食事を作りながらの工事だった。

- 2月 金沢から珠洲へ向かう車はほぼ無く静寂そのもの
- 3月 倒壊して道路を塞いでいた家屋が撤去される（経路確保）
- 4月 人も車も、少しずつ動きが出てきた。
- 5月 工事車両も多く見かけるようになる。地元商店も再開し始め

3.富山県の被災状況と活動について・・・・・・・・・・・・・・・・富樫 久美子

(1) 被災状況

	全壊	半壊	一部破損	未分類	計
富山市	2	43	2,544	126	2,715
高岡市		150	4,519		4,669
魚津市			79		79
氷見市	220	475	5,453		6,148
滑川市			179	1	180
黒部市			201	3	204
砺波市			149	3	152
小矢部市	10	36	1,482	34	1,562
南砺市			209		209
射水市	13	52	2,583		2,648
舟橋村			25		25
上市町			135		135
立山町			49		49
入善町			70		70
朝日町			122	7	129
合計	245	756	17,799	174	18,974



住家被害 富山県HP令和6年能登半島地震に係る県内被害状（人的被害・住家被害等）より

(2) 活動の状況

① 応急危険度判定士の派遣実績

(公社) 富山県建築士会

1. 実施期間

令和6年1月3日（水）～令和6年1月16日（火）

2. 延べ参加判定士数

324人〔県市町村：179人 民間：145人〕

(内 建築士会会員128人)

3. 判定結果〔調査済（緑） 要注意（黄） 危険（赤）〕

行政名	調査済	要注意	危険	各市計
高岡市	422	466	178	1,066
氷見市	1,028	689	425	2,142
小矢部市	14	34	9	57
射水市	69	23	7	99
計	1,533	1,212	619	3,364

② 国宝勝興寺の被害

2023年11月11日

高岡市伏木 国宝勝興寺見学会

By女性委員会

耐震補強も併せて施工された「平成の大修理」が令和3年に終了。

令和4年 本堂・大広間が国宝に指定される。今回の地震で本堂にある4本の柱の表面に裂け目が見えたほか、式台門が石の土台から約2センチずれるなどの被害があったそうです。



③高岡伏木地区の応急危険度判定

1月6日（土）JR伏木駅周辺の地区を担当。勝興寺のふもと調査日はボランティアの方々による土砂の掻き出し作業が行われていた。



④氷見地区の応急危険度判定



1月7日（日）氷見市役所に参集
市役所の天井が一部崩落していた。
市民へのブルーシート配布が行われていた。
調査を担当した地区は地震被害が少なかった。

○住民の方からお聞きしたお話

こちらへんは古くから人が住んでいたところです。
氷見市内で大きな被害が出ている地区は
昔の沼地や田んぼを住宅地にした場所で、
元々の地名は「水」に関連する名称がついています。

⑤石川工業高等専門学校の（仮）応急危険度判定

1月3日（土）実施。私の同級生が先生をしている縁で声が掛かった。
冬休み明けの授業が開始できるか、1月末に予定している推薦入試が実施できるかの判断材料を集めるために調査に入った。町外れの丘陵地を切り開いた場所に学校施設が立ち並んでいる。



屋外階段の滑動



調査の様子



テニスコート
正面敷地内通路の崩落状況

【石川高専】令和6年能登半島地震における本校の被災状況及び授業の再開等について - 発災1カ月が経過して -
独立行政法人国立高等専門学校機構のプレスリリース (value-press.com) 当時の校長：嶋倉先生による報告

4.福井県の被災状況と活動について・・・・・・・・・・・・・・・・本岡 美由希

福井県内の震度

震度5強 あわら市
 震度5弱 福井市 坂井市
 震度4 大野市 勝山市 鯖江市 越前市 永平寺町 越前町 敦賀市 小浜市 高浜町 おおい町 若狭町
 震度3 池田町 南越前町 美浜町

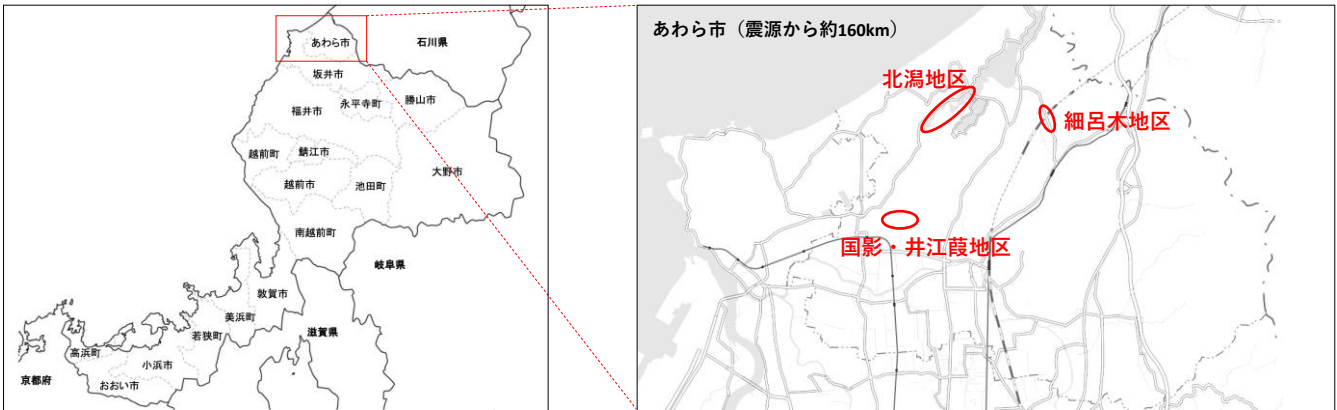
被害状況

人的被害				住家被害					
死者 行方不明者	重傷者	軽傷者	合計	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部損壊	合計
0人	0人	6人	6人	0棟	12棟	0棟	0棟	752棟	764棟

2024年6月4日14:00時点/内閣府HP

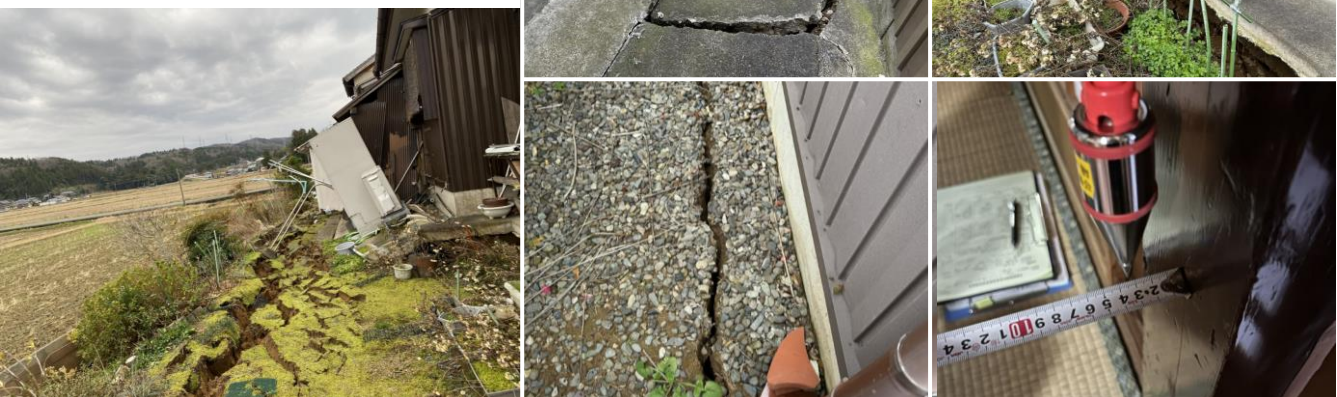
被害の例 福井市 天井パネル脱落 / あわら市・坂井市 道路陥没・漏水・液状化による不動沈下

応急危険度判定実施状況



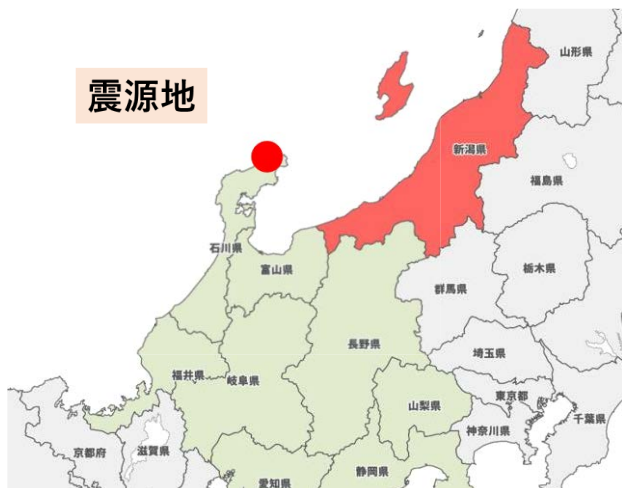
判定結果	木造	S造	RC造	計
赤 (危険)	6	0	0	6
黄 (要注意)	13	0	1	14
緑 (調査済)	16	1	1	18
合計	35	1	2	38

判定実施日：令和6年1月3日
 実施体制：4班8人
 体制内訳：福井県6人、あわら市2人
 判定総数：38棟



新潟県建築士会 被災地報告

「能登半島地震」県内被害と新潟県建築士会の動き



令和6年1月1日16：10分、最大震度7を観測する「能登半島地震」が発生しました。

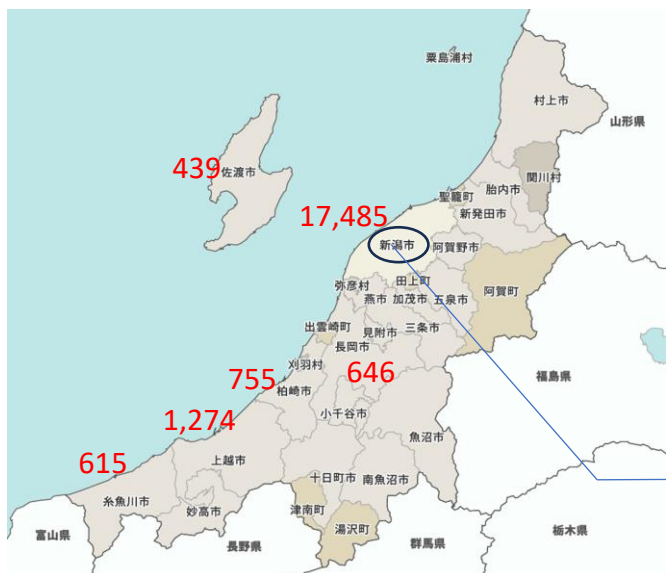
新潟県でも、長岡市で震度6弱の揺れが観測され、沿岸部には津波も押し寄せました。また、新潟市西区を中心として、液状化による甚大な被害が起きました。

被害状況
(新潟県災害対策本部発表R6.05.27現在 県HPより)

住宅に限定しての建物被害（一部破損以上）の棟数は、全県で23,481棟と発表されています。

主だった市町村の被害棟数ですが、新潟市が17,485棟と全体の75%近くを占めています。

その被害のほとんどが液状化によるものとなっており、西区というエリアに集中して発生しています。



ここからは、大きな被害の出た新潟市西区内における液状化被害の状況と、建築士会の動きについてお伝えしたいと思います。

1. 液状化による被害状況



新潟西郵便局 駐車場



県道：新潟亀田内野線沿線



新潟市西区内

上記写真のような駐車場などの屋外被害と同時に、家が傾く被害が多数出ています

2. 地震発生後の建築士会の動き

応急危険度判定

●1月2日に応急危険度判定の実施状況等に関わる第一報が、県建築士会HPに掲載されました（新潟県建築士会のHPにアクセスしていただくと確認ができます）。

↓

正月（祝日）時期にもかかわらず、日頃の行政との連携が生かされ、スピーディな情報の発信が行われました。

・平常時における行政との連携、交流は非常時に生かされ重要

●1月5日、新潟県から、新潟市、糸魚川市での応急危険度判定の応援要請が建築士会にありました。

↓

事務局は人員の確保、連絡業務に多くの時間を要した。

応急危険度判定士の更新をしていない（忘れていた）人が多数いた。

判定は2人1組で行われたが、はじめて判定に行く人たちの組み合わせに不安と効率の悪さがあった。

・経験者と未経験者を組み合わせる工夫が必要であること、応急危険度判定士の日頃の学習、意識の更新と連携が必要ではないか



実績

- ・ 応急危険度判定（1/6～1/10）
- ・ 新潟市 派遣人数／会員56名、会員外15名
- ・ 糸魚川市 派遣人数／6名
- ・ 悪天候、液状化による足元の悪い中での判定には、危険が伴うことの認識も必要
- ・ 会員数の減少や高齢化していることが、人員の確保に影響

被災住宅相談窓口

●1月10日、新潟市より1月15日から開設される「被災住宅相談窓口」での相談員派遣の要請が建築士会にあり、県建築士会HPに告知が掲載されました。

当初1月31日までの予定だった新潟市の相談窓口は結局3月31日まで延長されました。

↓

ここでも人員の確保、連絡業務に多くの時間を要し、相談員の情報の共有に試行錯誤が行われました。

・災害時に有効なネットワーク、情報共有システムの構築が必要ではないか



1月15日～3月31日までの相談窓口派遣人数は44名、相談件数は562件でした。

相談業務実施結果報告書によると、

「家が傾いてしまった、どう直せばいいのか」「傾いた家を直すにはいくらかかるのか」といった補修の可否、修繕方法に関する相談が圧倒的多数を占め、次いで駐車場などの宅地内の補修に関する相談が続きました。

そして、上記の相談内容と同時に多かったのが「復旧に関する工事全体を見て相談できる工務店の斡旋」への希望でした。

相談者の多くは、建築した会社がすでに存在していなかったり、建築時の業者との縁がなくなっておらず、誰に現場を見てもらって復旧方法を相談すればいいのか、路頭に迷う状態だったのです。

窓口では、「新潟市建築組合連合会」を紹介し相談をおすすめしていましたが、その後の後追い調査はされていません。

・大きな課題ではありますが、信頼のできる施工業者を紹介ができるシステムや、他の団体との連携の強化が求められているのではないかと感じます。

セミナーの開催

液状化による被災状況と 家屋復旧対策（沈下修正工事）セミナーご案内

主催：公益社団法人 新潟県建築士会
共催：一般社団法人 新潟県建築士事務所協会
後援：新潟県（予定）・新潟市（予定）・住学

日時：令和6年 3月10日 [日曜] 定員150名
13時30分～16時30分頃（受付13時～）

会場：新潟県立生涯学習推進センター ホール
（新潟市中央区女池南3丁目1番2号）

参加費：無料 ※被災者以外の方も参加可能

このたびの令和6年能登半島地震では、新潟市西区を中心に、液状化現象による甚大な被害が発生しました。被災された家屋の復旧、復興、今後の地震対策のための沈下修正工事セミナーを開催します。基礎ごと傾斜してしまった家屋を原状復帰させる工事の工法を紹介する他、今後の復旧に向けたアドバイスなどを具体的に解説します。ぜひご参加ください。

講演者：

- ◎グランダートユニオン代表 酒井 盛幸 様
- ◎曳家岡本親方 岡本 直也 様


内容：

- ①能登半島地震による新潟市への影響
- ②沈下修正工事方法のご紹介
- ③東日本大震災・熊本地震での液状化被災からの復旧に向けた経験
- ④液状化被災からの復旧アドバイス
- ⑤質疑・応答

液状化に関する知識や技術をもっと深く学ぼうというセミナーが、2月6日、新潟県内の建築関係任意団体「住学（すがく）」主催で開催されました。多くの建築士会会員もこのセミナーに参加。液状化で被災された家屋の復旧、復興のための沈下修正工事について学びました。

建築士会はこのセミナーの重要性を認識し、建築関係者、被災者へのさらなる学習の機会を作る、として建築士会主催でも同セミナーが企画され実施されました。

「住宅相談窓口」に来られた相談者の方々に案内チラシを配布しました。

下記に必要事項をご記入の上、(公社)新潟県建築士会へ FAX: 025-285-2911または右記QRコードよりお申込み下さい		
●お名前	●緊急連絡先(携帯) (任意)	
●メールアドレス(任意)		
●当日、沈下修正について各専門家に質問したい事項がありましたら、ご記載ください。 ※頂きましたご質問、全てにお答えできませんが、積極的に取り入れさせていただきます。 ()		

- 申込・お問合せ先 (公社)新潟県建築士会
〒950-0965 新潟市中央区新光町15-2 県公社ビル
TEL: 025-378-5666 FAX: 025-285-2911 mail: kensikai@025arc.net
- 頂きました連絡先は、開催前の連絡・開催後の連絡など、事務局より必要な連絡事項お伝えがある際に、利用致します。開催終了後、頂きました連絡先については、丁寧に破棄致します。
- お申込み頂きましたら、当日会場へご来場ください。



参加人数133名（建築士64名、一般67名、他2名）

被災された一般の参加者が多数あり、質問なども出て有意義なセミナーとなりました。

このセミナーの動画が県建築士会HPにアップされています。

<https://www.025arc.net/arc/seminar.html#anq1>

- ・他団体との日頃の交流が生き、共同で有意義なセミナーが開催できた。
- ・会員間だけではなく、被災された一般の市民のかたに呼びかけることができた。

3. まとめ

震災後、建築士・建築士会に求められたことと、その対応から見てきたこと

- ・日頃の行政や他団体との連携、関係を作っておくことは重要
- ・通常業務に加えての災害対応を事務局が行うことにはかなりの負担がある
- ・応急危険度判定や相談窓口など、人員派遣のシステムづくりが必要
- ・被災した地元の会員は、自分の抱えている対応に追われてしまう
- ・技術的な相談の場で、責任あるアドバイスをするためのスキルアップの必要性
（市民からも社会的な役割を期待されている）
- ・情報を共有する仕組みづくりや、工事業者のリスト化、または関連団体との関係強化が求められる
- ・建築士会事務所に、複数相談、質問の電話があった→技術的な質疑への電話対応も求められている
- ・一般市民に届く活動を続けることの重要性

今後も、災害は地震だけではありません。

新潟県は過去に大きな地震だけでなく、水害も数回起きており、常に災害と隣り合わせであるという危機感を持っています。

また、未知のウィルスによる感染症対策が必要とされることもあるかもしれません。

常に備えるための活動をしていくことが求められています。

6 活動報告

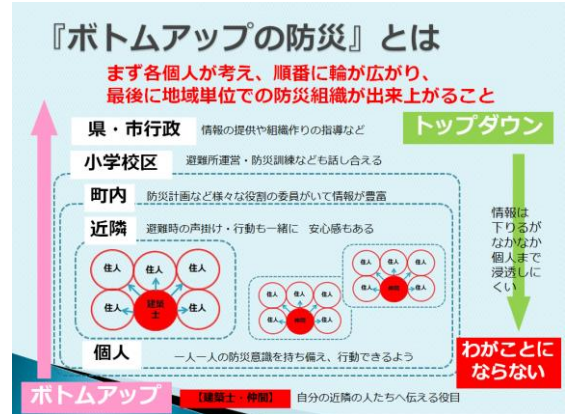
繋がりをもつこと ～災害後6年目の現在地～
岡山県建築士会 渡辺 睦



繋がりをもつこと ～災害後6年目の現在地～

(一社)岡山県建築士会倉敷支部／災害対策委員会／女性部会 渡辺睦

2018(平成30)年7月の西日本豪雨災害から6年が経ちます。その後も毎年のように各地で起こる豪雨災害は、全国どこに住んでいても他人ごとではなくなってきています。建築士としての倉敷市真備町被災者支援からの繋がりと、また地域住民・個人として防災減災啓発に取り組む中での繋がりとその活動をご報告します。2019年「被災地報告」の際に考えていた『ボトムアップの防災』を実践し、今すぐ役立つ備えの情報と共に、20年後には自助・共助の体制ができていくことを目標に、「一人一人がわがごととして、災害をイメージし備えるなど危機意識や防災減災意識の向上」を目指して取り組んでいます。



2020年(令和元年)全国女性建築士連合協議会 東京大会被災地報告での資料

I. 岡山県倉敷市真備町の現在

■町・住宅・暮らしについて

2024年6月現在、時折訪れる真備町内の町並みは新しい住宅(平屋も増えている)が目立つこと以外は、災害前とほとんど変わらず、商業施設や学校病院等も日常に戻り一見して復興がなされたかに感じられる。日々の暮らしも住人でない私から見る限り以前と変わらないように見える。また「真備・船穂総おどり」も予定されるなど町の繋がりを深めるイベントがより活発に行われていると感じられる。災害後6年、様々な事業や支援の終了を向かえる節目の時期、真備町の新しいスタート地点なのかと思う。



写真出展：被災者見守り・相談支援等事業報告書より

■高梁川付け替え工事完了・真備の復興防災公園「まびふれあい公園」7月3日開園について

付け替え工事を済ませた道路や小田川の土手を車で走る、ハード対策の一応の区切りが見られる。



写真出展：高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 2024年3月23日現在

■被災者支援体制について

倉敷市保健福祉局健康福祉部被災者見守り支援室、倉敷市真備支え合いセンター(倉敷市社会福祉協議会)は2024年3月末終了し、通常の行政社会福祉協議会業務に移行する。

Ⅱ. (一社)岡山県建築士会での活動と繋がり

【活動までの流れ】設計事務所勤務後独立、自宅にて設計事務所主宰。住宅設計と共に木造住宅耐震診断員として耐震業務を行う、2018年7月西日本豪雨災害を機に、より積極的に防災減災啓発活動へ取り組む。

■岡山県建築士会倉敷支部／2018年～ ⇔ 被災者、行政、社協、民間団体、NPO他 と繋がる

□**おかやま水害住宅建築相談窓口**：2018年7月30日～2021年3月（～2023年3月）

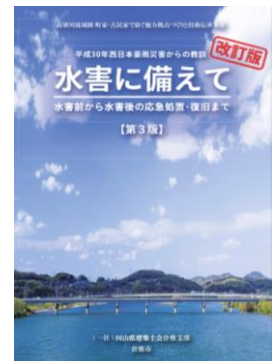
岡山県建築指導課、倉敷市建築指導課、おかやま建築5会まちづくり協議会（倉敷市建築指導課、倉敷支部のみ）
電話・窓口・現地で、被災住宅についての建築的な相談を実施する 約500件/県内全数

□**「応急対応シート」「水害に備えて」の作成**：<初版版> 2019年3月発行 <改訂版> 2020年9月発行

(一社)岡山県建築士会倉敷支部、倉敷市

時間の経過とともに、相談内容は変化していて「もっと早く正しい情報を伝えることができていたら…より多くの被災者の皆さんの力になれたのではないかな」の思いから、企画作成発行を行う。

データは倉敷支部ホームページよりダウンロード可能
2019年以降に発生した他地域の水害対応の一助に。
令和5年3月発行の公益社団法人日本建築士連合会「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」にも一部掲載



□**り災住家等長期居住者アドバイザー事業**：2020年2月～2023年3月（終了後も随時対応～現在） 約40件
倉敷市保健福祉局健康福祉部被災者見守り支援室、倉敷市真備支え合いセンター（倉敷市社会福祉協議会）

□**見守り相談支援事業における多機関ミーティング**：2020年2月～2023年3月 約30回

支援室、支え合いセンター、岡山県社協くらし復興サポートセンター、ケアマネ、弁護士、行政書士、FP、NPOなど

□**被災者の生活再建に向けた自治体連携会議**：2022年4月～2023年3月 計8回

岡山県、市町村、社協、岡山県社協くらし復興サポートセンター、被災者見守り・相談支援ネットワーク

被災者支援では、災害によってそれまで見えていなかった多種多様な問題が顕在化する。問題解決には福祉関連の情報を含め、様々な専門業種が一体となって支援していく体制が必要であることを経験した。このことを各団体が改めて認識し、今後の災害に備えて平時から顔の見える関係を作り、連携を深めて協働していくことが大切である。

□**伝建地区防災マップ作製事業**：2024年度予定 倉敷市まちづくり推進課、建築士会倉敷支部、地域住民他
多くの観光客が訪れる倉敷川畔特別美観地区「重要伝統的建造群保存地区」における防災マップ作り実施予定
地域住民・観光客の安全確保と建造群の保存を目的に防災マップを作製し、防災減災の情報を共有する

■岡山県被災者支援士業連絡協議会／2022年～ ⇔ 士業（専門家）、行政、被災者と繋がる

□**岡山県被災者支援士業連絡協議会**：2022年1月14日設立 福祉系、技術系、法律系の士業7団体が参加

岡山弁護士会、岡山県司法書士会、岡山県土地家屋調査士会、公益社団法人岡山県不動産鑑定士協会、公益社団法人岡山県社会福祉士会、公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部、一般社団法人岡山県建築士会
今後、岡山県との災害協定締結を目指す。また顔が見える関係と協働を視野に入れ、年6回程度の協議会を実施

■岡山県建築士会災害対策委員会／2023年～ ⇔ 建築士会会員、行政、参加者と繋がる

□**マンション防災（マンション探検ツアー）他**：2023年～

岡山市市民協働企画総務課・住宅課、技術士会
マンションの維持管理は防災にも大きく関わる為、協働事業として実施。今年度も事業継続し「マンション探検ツアー」を実施する、また「マンション防災マニュアル」の作成を目指す。

□**岡山県建築士会内の組織の構築**：2024年～



Ⅲ. 地域での活動と繋がり

【活動までの流れ】2016・2017年に小学校PTA三役となり保護者として学校・地域と関わりを持ち始める、翌年2018年に防災士を取得し地域防災へ参加する。同時期に西日本豪雨が発生し小学校体育館が2次避難所として開設されるも自主防災組織はなく不安を持つ。また2022年に17年ぶりの町内会役員当番にあたる、自分や家族が一番関わるであろう町内会の防災体制他しくみを知るために2023・24年は町内会副会長を受け、町内会や地域コミュニティへ積極的に参加している。

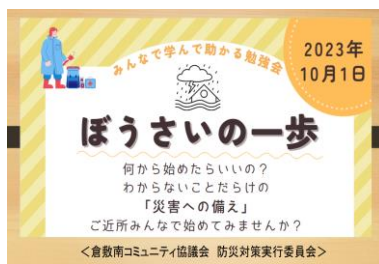
■コミュニティ協議会／2018年～ ⇔ 地域住民、コミュニティ協議会メンバーと繋がる

□自主防災組織準備委員会：2018年～ コミュニティ協議会（6つの町内会からなる小学校区）

以前よりある準備委員会活動の地域文化祭防災コーナーなどでの防災啓発活動を行う。またコミュニティ誌に啓発記事を掲載するなど、地域住民の防災意識向上を目指す。

□防災対策実行委員会：2023年～ コミュニティ協議会（2024年現在、3906世帯・人口8946人の小学校区）

自主防災組織設立と防災減災活動実施を目的として設立される、委員長となりイベントなどを計画実施する。



■PTA防災減災クラブ／2019年～ ⇔ 児童、保護者、学校、クラブメンバーと繋がる

□「やってみよう！ぼうさいげんさい」発行：2019年～

児童と一緒に子育て世代の保護者にも読んでもらえるように興味関心を持てる工夫（計13号）

□ウォークスルー防災：2020年～（コロナ禍に配慮）

保護者懇談の日程を利用して、昇降口に防災啓発の情報パネル展示やアンケートを実施（計4回）



■小学校支援地域本部（学校支援ボランティア）／2022年～ ⇔ 児童、学校と繋がる

□「みんなでぼうさいげんさい」作成放映

2022年～（計10回）児童への防災減災啓発のため、学校給食時間に放映
PTAクラブでの活動を通じて、学校への支援につながった



■高齢者支援センター（小地域ケア会議）／2023年～ ⇔ 地域高齢者、支援者と繋がる

□町内会防災まち歩きに参加：2023年

支援センターは高齢者が可能な限り地域において自立した日常生活を送れるよう、保健師・社会福祉士・ケアマネジャーが介護だけでなく、保健・医療・福祉に関する総合的な支援を行う。そこに防災も絡めて実施した。



IV. 仲間（OKAYAMAお片づけチームmomo防災部）との活動と繋がり

【活動までの流れ】設計士だけど片付けが得意でない自分を見直すため、2015年ライフオーガナイズという思考を学ぶ。コロナ禍で自宅片づけを進めるうち、防災について何も備えていないことに気がついた仲間より「防災って何から取り組んだらいいのかわからないから、私たちに教えて!」の依頼から、OKAYAMAお片づけチームmomo 防災部がスタートする。

■ 防災部／2020年～ ⇔ 参加・来場者、イベント主催・出展者と繋がる

- 防災サークル&YouTube**：3カ月間で、防災の備え（考え方）を一通り学び実践する2週間に1回オンライン講座と宿題効果で、一人ではなかなかできない悩みを解決する仕組みで全6回。現在、6期開催 一緒に取り組めるようYouTubeとしても発信する
- イベント出展**：子育てイベントやマルシェにブース出展し 防災へのハードルを下げて忙しい世代にも必要性を伝え興味を持ち、生活に取り入れてもらう工夫をする



■ 公民館講座／2023年～ ⇔ 参加者、企画担当者と繋がる

- 公民館講座**：主に岡山市公民館との協働をスタート。地域特性に応じたハザードなど防災情報の解説と共に、参加者の興味に合わせた内容（片付け・子育て）を盛り込み、日常に取り組みやすい内容で発信する。2023年度は7カ所開催、2024年度も計画



■ メディア／2021(2024)年～ ⇔ 視聴者、担当者と繋がる

- TV取材・出演**：イベントや講座開催時の取材から始まり、TV番組の防災コーナーでメンバーの備えなどを紹介。担当者との情報交換などを行い、視聴者に情報を届ける
- 誌面掲載**：生活者へ届ける地域情報誌の防災記事協力。主婦・子育て世代といった同じ目線での発信を、編集者と共に心がける。
- ラジオ出演**：2024年1月より放送スタート。FM岡山 fresh morning OKAYAMA 「暮らしの防災知恵袋」防災コーナー5分(毎週水曜日)を防災部メンバーで担当するDJ森田さんも防災士であり、短時間でも繰り返し伝えることより視聴者に防災減災・備えについて、日常生活と共に意識してもらうことを目指して発信している。



※平成30年西日本豪雨を経て、岡山県内のメディア・企業は防災への取り組みが進んでいるが、一般にはやはり時間の経過とともにその意識は薄れてしまっている。啓発したいメディアとの協働で、より多くの人に伝わることを目標に活動に取り組んでいます。



V. 繋がりをもつこと ～災害後6年目の現在地～

- 「建築士として関わることができた被災者支援活動、また今後進めていく事業で一緒する皆さんとの繋がり」
- 「地域住民として関わっているコミュニティ協議会・町内会・学校・PTA・小ケア会議で、出会えた皆さんとの繋がり」
- 「仲間との活動の中で、参加していただいたり、共感していただき協働することができる皆さんとの繋がり」

この数年間で、とても多くの方々と繋がることができていること、そして巡りあわせに大変感謝しています。この災害を通じて、人の命を守り・生き続けていくためには一人では無理で本当に多くの人の手が、繋がりが必要なことを学びました。また災害時だけでなく平時にもその繋がり（助け合い）は、煩わしいと感じる人がいるのも理解したうえで、今後の少子・超高齢化時代において大切で必要不可欠なものとなっていくと感じています。

5月被災者支援士業連絡協議会でお会いした福祉関係者の方との会話中、「お話を聞いていると建築の設計というお仕事は、まるでカウンセリングのようですね。だからきっと被災者に寄り添う傾聴で、建築相談もうまくできたのでしょうね。」と言われました。相談のみで問題を解決することは出来なかったですが、確かに「専門家の意見が聞けて安心しました。」などのお声や訪問先では「女性の建築士さんが来てくれて、話しやすくてよかった。」などの感想もいただき嬉しかった思いが無力感を軽くしてくれた日々を思い出します。

将来高齢になり自分自身の避難にも支援が必要な時が訪れる、また子どもたちが大人になり大切な家族と暮らしているかもしれない、そんなときこの繋がりに助けられお互いに困難を乗り越えられたらと願い、5年、10年、15年…先を見据えて、一步一步防災減災活動に取り組んでいきたいと思い、6年目の現在地を報告させていただきます。

7 分科会

A分科会 来年は山形県開催！「魅力ある和の空間ガイドブック」 part6

B分科会 インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」

C分科会 「民家の土塀修復・保存の取り組み」

D分科会 「変えていく！建築士会」～バージョンアップへの道～

E分科会 すまい学習をサポートします あれから

～続・兵庫県建築士会住教育支援チームの取り組み～

F分科会 女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について

G分科会 未来につなぐ環境建築への取り組み

～地方の建築技術者が出来ること～

A分科会プログラム

■テーマ 来年は山形県開催！ 「魅力ある和の空間ガイドブック」 part6

■分科会の趣旨

連合会女性委員会では、2016年から『和の空間』をテーマに取り組み、「魅力ある和の空間ガイドブック（WEB版）」を同委員会HPにて公開しています。昨年の全建女石川大会ではガイドブックの冊子を大会参加者に配布し、今年は掲載されている施設にようやくお届けできる事になりました。過去5回に渡りセッションや分科会で掲載施設を紹介して来ましたが、第6回目となる今回は、来年の全建女開催地である山形県を取り上げます。

山形県は世界有数の豪雪地帯であり、出羽三山や最上川をはじめ雄大な自然に恵まれています。また日本海側は北前船が行き交う要衝の地でもありました。多様な暮らしや文化、食を背景に、各地に受け継がれる商家や料亭、茶室など歴史的な建物をご紹介します。自然、歴史、文化、美食、温泉と山形県の魅力を見て、聞いて、来年はぜひお越しください。お待ちしております！

■司会 齊藤 裕美（北海道建築士会） アシスタント 吉田 幸恵（北海道建築士会）

■コメンテーター 三浦 仁恵様（山形県建築士会）

発表建物：清風荘-宝紅庵・料亭 四山楼

山形では、市街地から里山にかけて、土蔵や古民家が風景に調和して点在しています。散歩や運転をしているときに見かけるこれらの建物は、美しい自然と一体となり、日々新しい発見に満ちています。この発表を通じて、山形の素晴らしさを伝えられたらと思います。

■コメンテーター 古川 美紀様（山形県建築士会）

発表建物：上杉伯爵邸・公益財団法人本間美術館 清遠閣・鶴舞園

これらの建物は、地域社会の整備・経済の発展と文化・教育の育成などに大きな影響を受け、当時の精神を今に伝える事ができる歴史的価値のある建造物です。他にも、価値ある建造物がいくつもあり、歴史を紐ときながらご紹介します。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00～9:05
2. コメンテーターによる報告	(30分)	9:05～9:35
3. コメンテーターによる報告	(30分)	9:35～10:05
4. 質疑・意見交換	(40分)	10:05～10:45
5. まとめ	(15分)	10:45～11:00



清風荘は池廻り遊藝庭園（古庭園）として有名な【もみじ公園】の中に建つ市の施設である。秋には見事に色づいたもみじが言葉には尽くせないほどで、さながら京の都を思わせる美しさである。もみじ公園は時の城主松平下総守忠弘が、真言宗の巨剎宝幢寺の庭園を江戸の庭師と共に山形城本丸庭園の余石と吉野のもみじを用い手を入れた庭とされている。池は心の文字をかたどったことから【心字池】と名付けられている。清風荘は明治維新以前は宝幢寺（真言宗）の寺院であり大書院であったが、1956（昭和31）年跡地が市により買収され中央公民館分館《清風荘》として開館した。1979（昭和54）年には数寄屋造りの粋を集めて造られた公共のお茶室《宝紅庵》が併設され、ともに純和風の施設として芸術文化等の諸活動や国際交流などにも広く利用されている。



見どころ

《清風荘（せいふうそう）》

閑静な住宅街のなかにある市民公園【もみじ公園】があり、その中に《清風荘》は建っている。もとは最上義光の庇護により1370石の寺領を持つ大寺院となった宝幢寺の書院であった。創建当時の建物は400年ほど前に焼失し、1862（文久2）年再建された。2001（平成13）年には国の登録有形文化財に登録されている。最上のお殿様が必勝祈願にお寺にお出でになった際のお控え処として造られた本格書院造りの和室は、落ち着いた雰囲気の中にも荘厳さを秘め緊張感の漂う不思議な空間を感じ取ることができる。

《宝紅庵（ほうこうあん）》

1979（昭和54）年、数寄屋建築の第一人者【中村昌生】博士の設計により建設された本格的な公共の茶室である。《宝紅庵》は宝幢寺の「宝」、紅葉の「紅」から名付けられた。京都北山杉を用いた建物は、小間・広間・鞘の間・水屋・寄付・立礼席などからなり山形と京都の文化の交流から創り上げられた本格的な茶室となっている。特に立礼席は流派を超えて管理・活用しており、通年を通しお点前を体験できる。受付時にお願いをすればお茶室の見学も可能で、施設の方が丁寧にご説明してくれる。（お抹茶・お菓子：¥500）



建物名称	清風荘・宝紅庵
建築年	清風荘：1862（文久2）年再建 宝紅庵：1985（昭和54）年
構造・様式	木造平屋建
所在地	山形県山形市東原町2-16-7
電話	023-622-3690
H P	https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shisetsu/bunkasports/1008032/1005881.html
開館時間	8:00～22:00（見学は17:00迄）月曜・年末年始休館
アクセス	山形駅発県庁行・東原3丁目バス停より徒歩約3分
備考	

料亭 四山楼

りょうてい しさんろう

山形県山形市



見どころ

【開放的な大広間のある主屋】
1911(明治44)年建築、木造2階建て寄棟造り。和風建築だが1階中央に洋風の部屋があり、その両側に客室が並ぶ。洋室は明治期に洋食を提供する場として使われていた。



2階は大広間で、北端に大振りの床の間、南端に舞台が配されている。東側一面の開放的なガラス戸からは庭が一望でき、晴れた日には庭木や近隣のビルの間から奥羽山脈の山々を眺めることができる。



【重厚な蔵座敷】

1891(明治24)年建築、土蔵造り2階建て切妻造り。1階に座敷20畳と前室8畳が並ぶ。座敷は北向きで南面に銘木を用いた床、床脇、押入を配する。天井は格天井を張り、庭側は黒漆喰塗りの掛け子塗り土戸で重厚に見せている。前室北面の杉戸には秋草が描かれている。銘木を用い意匠を凝らしたつくりは、山形県内の豪商や地主層の屋敷に見られる蔵座敷の典型と言われている。



【伊藤博文公命名の老舗料亭】

1873(明治6)年に創業(1876年より現在地)。1879(明治12)年に初代首相で当時内務卿だった伊藤博文が訪れ、山形県の四方を囲む山々にちなんで「四山楼」と命名したという。1911(明治44)年5月の山形市北大火によって主屋を焼失するなど大きな被害を受けたが、幸い蔵座敷は焼失を免れた。太平洋戦争中は2年間営業を休止、陸軍の宿舎として使われた。戦後の混乱期やその後の経済危機など時代の変遷を乗り越え、山形の料亭文化を今に伝えている。

【文化・娯楽の拠点】

山形市中心部の繁華街に位置し、西側は飲食店が連なる七日町仲町通りに、東側は数件の老舗料亭が点在し山形舞子発祥地と言われる繁華街「花小路」に通じる紅花通りに面している。北側は旭銀座と呼ばれた商店街(現シネマ通り)があり、明治初期に芝居小屋として創業した旭座(のちに県内初の映画館 シネマ旭2007年閉館)を中心に文化・娯楽の拠点となった。

【四季折々の眺め】

塀と古い庭木に囲まれた屋敷は、近隣の街並みとは一線を画す落ち着いた外観で、敷地北東部の庭を囲むように中央やや西寄りに主屋、南側に茶室や離れ、蔵座敷が配され、四季折々の景観を楽しむことができる。開放的な大広間や静かな小部屋など多様な客室が連なり、明治期以来の華やかな料亭文化と往時の賑わいを感じさせる。



【格調高い会食の場】

地元の食材を用いた旬の日本料理を味わえる格調高い会食の場として、法事や会合、結婚式などに利用されている。また料亭の他に長唄や小唄、お謡いなどの古典芸能、踊り初めや浴衣ざらい、初釜などお稽古事の発表の場としても使われており、伝統文化を伝える貴重な役割を担っている。



建物名称	料亭 四山楼
建築年	1891年(明治24年)
構造・様式	主屋：木造二階建て 寄棟造 蔵座敷：土蔵造二階建て 切妻造
所在地	山形市七日町2-6-4
電話	023-622-0043
H P	https://www.shisanro.jp
開館時間	12:00~22:00 不定休
アクセス	JR山形駅から徒歩21分 タクシー8分
備考	登録有形文化財(建造物)見学のみは不可

A

A
分科会



上杉伯爵邸は1896年（明治29年）上杉茂憲 伯爵の本宅として造設される。設計は米沢出身の建築家中條精一郎である。鶴鳴館（かくめいかん）と称された。1919年（大正8年）米沢大火で焼失したが1922年に再建が始まり1924年に完成した。設計は中條氏、施工は名棟梁江戸栄蔵である。銅板葺き総檜の入母屋造りの建物と、東京浜離宮に依って造園された。1945年、第二次大戦後米軍将校宿舎として使用される。1950年、米沢市が上杉家より譲渡される。

1979年、上杉記念館と称し市内観光の中核施設として開放され、郷土料理の提供、米沢郷土料理の原点・鷹山公の「かてもの」を食べる唯一の館である。米沢藩の「質素儉約」の意通りの簡素な造りではあるが、全てが洗練されていて昔ながらの建物の良さと、浜離宮を倣って造られた庭園と池の鯉を見ながら頂ける郷土料理は素敵である。春は上杉神社のお堀の桜は見事。桜の季節が終わると新緑、夏のお堀での花火や蓮の花、秋は落葉樹の紅葉、特にみじの赤は素晴らしい。神社の杉とお堀に落葉する葉、水面に映る満月、渡る風、冬は雪灯籠祭りの夜の暗がりに揺らめく灯は幻想的であり、光と影の雪の中での体験は格別である。四季を通じて美しい環境の中に佇む空間。昔からそしてこれからも、米沢市の歴史を伝承する「上杉伯爵邸」は未来に引継ぐ米沢の宝である。

見どころ

NHKの大河ドラマでも有名な上杉謙信。「為せば成る 成らぬは人の為さぬなりけり」でも有名な米沢藩9代藩主上杉 鷹山公の礎。米沢市の観光の中心地、上杉神社の南隣に位置し元米沢城二の丸後に上杉14代茂憲（もちのり）伯爵邸本宅として建てられ、かつての上杉家の住居として皇族の御宿所ともなった。鷹山公からの郷土料理や、米沢織の着付体験や着物を着て上杉神社散策も楽しめる。また国（文化庁）の登録有形文化財に各棟、門を含め9か所登録されている。



「かてもの」

主食に混ぜて炊くものの意・飢饉による凶作から飢えを救う食物(ウコギ「棘の生垣」等)



建物名称	上杉伯爵邸
建築年	1925年（大正14年）
構造・様式	木造二階建
所在地	山形県米沢市丸の内一丁目3-60
電話	0238-21-5121
H P	info@hakusyakutei.jp
開館時間	10:00～17:00
アクセス	JR米沢駅より車で10分
備考	登録有形文化財



本間美術館は江戸時代は豪商、明治以降は日本一の地主として知られた【本間家】が創始者となり昭和22年に開館した美術館である。公益の祖として地域に貢献してきた本間家が、敗戦後の人々に美術・文化に接することで元気とゆたかな人生を取り戻してほしいとの意見に賛同した人々との共同作業により実現した。庭園《鶴舞園》は鳥海山を借景として四季折々の風情を織りなし、別荘《清遠閣》の京風木造建築の美しさ、北前船によりもたらされた素材と芸術品の数々は、自然・歴史・芸術が融合する美術館となっている。庭園を通り抜けた先にある本間美術館新館では、本間家に伝わる諸藩からの拝領品の他、古美術から現代美術まで国内外の多種多様な作品を展示紹介している。



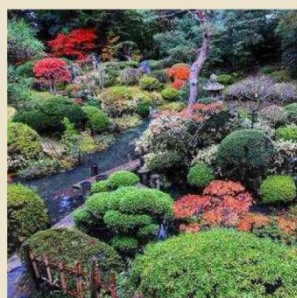
見どころ

《清遠閣（せいえんかく）》

藩主酒井侯の領内巡視の際の休憩所としてつくられ、京風の精緻な造りと手すきの硝子、随所に建築に携わった職人たちの心意気が見て取れる。館内の大正ロマンを偲ばせる数々の調度品は酒田にも度々滞在した詩人で画家の【夢二】の世界を彷彿とさせる。又、酒田の迎賓館としても使用され、昭和天皇が東宮殿下の頃にご宿泊された。光と影を巧みに計算しつくした設えは思わずため息が出るほどである。匠の技と庭園のコラボレーションを是非その目で！

《本間氏別邸庭園：鶴舞園（かくぶえん）》

1813年、四代：本間光道築造の池泉回遊式庭園。池の中島に鶴が舞い降りたことから藩主酒井侯により鶴舞園の名を賜ったとのこと。庭園の整備には港で働く人々の冬期間の失業対策事業として行われた。地域貢献を祖先以来の方針としてきた本間家、その精神は今でも【公益の祖】として市民にたたえられている。庭石には北前船が運んだ佐渡の赤玉石や伊予の青石などが配され、新緑から秋の紅葉、冬の雪景色など風情豊かな庭園となっている。



建物名称	本間美術館：清遠閣-鶴舞園
建築年	文化10年（1813年）
構造・様式	木造二階建て・池泉回遊式庭園
所在地	山形県酒田市御成町7-7
電話	0234-24-4311
H P	http://www.homma-museum.or.jp
開館時間	9：00～17：00（入館は16：30迄）
アクセス	J R酒田駅より徒歩5分（駐車場有）
備考	

B分科会プログラム

■テーマ インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」

■分科会の趣旨

室内の防災対策である家具転倒防止策・家具固定策について、2011年からの家具転倒防止策・固定対策に関する様々な活動の紹介、住まいの作り手であるインテリアコーディネーターや関係者向けにまとめた「JOL防災」の内容やその小冊子の制作経緯、又、家具のレイアウトや動線計画、下地対策などプランニングの視点から出来る事、家具固定の現状等含めてご紹介します。

「防災を優先すると残念なインテリアになる」という諦めの声を聞くことも多く、理想の暮らしと室内の安全を両立させるにはどうしたらよいか。単に固定をと呼びかけるだけでなく、住まいや空間の作り手として具体的に出来る事を共有し実践していく事で少しでも室内の防災対策が浸透していく事を皆さんと共に進めていきたいです。

■司会 鈴木 深雪（福島県建築士会） アシスタント 菅野 真由美（福島県建築士会）

■コメンテーター 柏原 民（大阪府建築士会）

生まれ育った大阪から夫の転勤で2009年より千葉県浦安市に転居し、当時周囲の人たちが家具の横で普段から寝ている事に驚きつつ、阪神淡路大震災からの家具転倒防止対策の必要性はあまり浸透していないと実感しました。3.11後からの少しずつの活動や、所属した一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会ですら立ち上げた「防災とインテリア研究会」での現在に至るまでの活動内容やセミナーでの内容をご紹介します。（2020年に大阪に転居し活動を継続中）

防災と室内空間・インテリアの両立を目指す未来のイメージは、安全性の確保はもちろん、家具の転倒防止策・固定対策に悩むことなく、自由に楽しく暮らせる空間に、素敵な空間にしていくことだと考えます。住まいを作り提供する側として、又インテリアや室内空間を提案し施主と共により良い暮らしを作っていく立場として、どうすればいいか。家具のレイアウトや空間計画から取組む事、家具固定の為に出来る事等のご紹介や様々な活動を通じて得た課題について、建築士向けの内容や解決に繋がる糸口をご紹介します、皆さんと意見交換や共有を図りたいと思います。

■分科会の進め方

1. 進行説明、コメンテーター紹介	(05分)	9:00～9:05
2. コメンテーターによる活動報告	(70分)	9:05～10:15
3. 質疑応答及び意見交換	(30分)	10:15～10:45
4. まとめ	(15分)	10:45～11:00

インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策 「JOL防災」

1. icon『防災とインテリア研究会』での活動
2. 『JOL防災』の内容について
3. 地震時の被害やデータ解説
4. 固定対策について
5. 家具固定を取り巻く様々な課題 と これから

1. icon『防災とインテリア研究会』での活動

01：活動のきっかけ と 研究会立ち上げ

地震時の家具転倒防止策について活動するきっかけは、大阪から首都圏に転居して、阪神淡路大震災の教訓が伝わっていないと実感したからです。2011年秋の東京ビッグサイトでのインテリアコーディネーター（以下IC）の各県団体からの3.11被災報告会で自分が普段行っている対策を紹介しました。集中収納や避難ルートの確保などのレイアウトは、その後自分のブログにも載せていきました。

千葉県IC協会や千葉県建築士会市川浦安支部に所属していたので、3.11後は家具転倒防止セミナーを開催したり、イベント等で一般の方に向けて相談会等を行い、対策の必要性や様々な家具転倒防止策を伝えていきました。

同時に様々な課題に気付き、活動内容を自身で見直すタイミングも有り一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会（通称：icon（アイコン））に入会し、2013年に防災とインテリア研究会を立ち上げました。会の主旨は、「安心安全であり美観にも優れたインテリア空間を誰もが楽しめる社会の実現にむけて」

02：2013年～2016年の活動

icon会員（IC）同士の勉強会や一般生活者向けの啓蒙セミナーを開催していきました。2014.3月の池袋の明日館（重要文化財）でのセミナーでは宮城・茨城のICを招き室内の被災体験等を交えた内容をトーク形式にして開催し好評を頂きました。

03：2015年度から「レガシー共創協議会」に参画

セミナー等行いながら抱いた課題の解決には外部の力を借りたいと思い、三菱総合研究所の「プラチナ社会研究会」が主催・募集していた「レガシー共創協議会」のコンセプト「社会課題を複数企業で解決する」に賛同しエントリー。当時は2020年東京オリンピックに向けてのテーマが多い中、家具転倒防止固定対策の普及のカギは美観品質だと掲げ、具現化に向けて模索していきました。

活動の一環で大規模マンション団地の管理組合防災委員会と協働して住民モニター宅の調査・発表セミナーを行い、好評を得ました。ただ、美観という定性的な品質を安全というエビデンスを必須とするテーマに当てはめ短期で成果を出す事は中々難しかったです。『これは君達にしか発信できない』と言われ大変励みとなりました。

04：私たちに出来ること と 防災での立ち位置

「防災を優先すると残念なインテリアになる」とICや住まい手は思い、各々関連業界からはこのテーマ（家具転倒防止固定対策）の必要性は分かる、けれど「ボクらの領域では無い」ということで、ダブルスタンダードな状態であると感じました。

活動の方向性もセミナーでの啓蒙か、1件ずつの固定作業を美観に反して行うのか、固定方法に特化して深堀りか、仕組み作りに向けて等々、様々な検討が有りました。ICとして安心安全な住まいを創る立場から実践に繋げていくために、又、様々な情報が飛び交う中で私達から本当にオススメできる対策は何か、を考え、セミナーで伝えきれない事も含めて、冊子という目に見える形にして広く伝えていこう、となりました。

活動 年表

- 2009年春 千葉県浦安市に転居 設計事務所自営
- 2011年秋 家具転倒防止策・レイアウト策 発表
(千葉県インテリアコーディネーター協会)
- 以降 同協会や千葉県建築士会市川浦安支部にて活動
- 2013年春 (一社)日本インテリアコーディネーター協会 (icon) 防災とインテリア研究会 立ち上げ
- 2015年 三菱総研「レガシー共創協議会」参画
- 2019年6月 『JOL防災』冊子発行
- 11月 IFFT (公社) インテリア産業協会ブース 「インテリアと社会的ウェルネス」展示
- 2020年春 大阪府池田市に転居(大阪府建築士会に所属)
- 2021年8月 福島県建築士会福島支部女性委員会 と JOL防災オンライン勉強会セミナー開催



2011.11.10
インテリア
フェスティバル



2014.3.4 後悔しない住まいの防災減災



2015.11.29 住民向け勉強会



2016.2.18 レガシー共創協議会にて

B
B分科会

2.『JOL防災』（ジョルぼうさい）について

01：JOL防災 というコンセプト

室内の防災対策は必要だけど、美観や暮らしの楽しさは諦めたくない。防災とインテリアって本当に対立するコトなんだろうか？暮らしを楽しむ事や日常過ごす住まいやインテリアを整えたり、目を向けていくことが防災にもつながることではないだろうか？という考えがありました。防災もインテリアも実は地続きである、ということメンバーで再認識し、それらを広く伝えていくためのワードとして、『JOL防災』とし、コンセプトに決めました。

JOL：Joy of Living =

暮らしを楽しむ、住まう喜びを追求すること

02：小冊子の制作 について

コンセプトが定まり、今までのセミナー内容を冊子に落とし込む作業のつもりでしたが喧々諤々でした。主旨をメンバー皆で共有しICによるICの為の仕事に役立つ冊子を、といっても実際のアウプットに向かってイメージの擦り合わせは難航し、試作版まで出来てイチから作り直したりしました。予算も厳しく会費だけで成り立っている団体ゆえ、単に研究会の希望だけは作れませんでした。

2016年に試作版、2017年に再検討に入り2019年6月の発行までメンバー10名が入れ替わりながらも得意を生かしながら乗り切りました。発行後は販売を兼ねたセミナーやコンセプトを伝える為の勉強会等をIC向けに行っていました。同年11月のIFFT（東京国際家具見本市）の（公社）インテリア産業協会ブースにて、「インテリアと社会的ウェルネス」として紹介展示もされました。

03：『JOL防災』 内容について

IC（インテリアコーディネーター）が仕事やお客様との打合せで使える事を想定し、コンセプト・各空間での考え方やレイアウトのポイントなどに多くの頁を割き、インテリアアイテムのヒントや固定対策の概要、トークに使える様々なヒントなども紹介しています。

住まいの各空間を集、眠、働、と分け、従来からの部屋別ではなく、ヒトの動きや行動で分けて、家具のレイアウトや動線計画、インテリア計画につながるよう図を交えて解説しています。

今回は冊子の中からピックアップして当日ご紹介します。

集：リビングダイニングなど集まる空間

ヒトもモノも集まるのでスムーズな動線が避難ルートに、集まる場が安全スペースになる

眠：寝室など休息の空間 は家具ゼロが理想

枕元は家具ゼロにするためのレイアウトや空間計画が大事、と間取り図で紹介

働：キッチンやワークスペース等、モノも集まる空間

動線計画や収納計画が必須で安全は無空間として固定対策を紹介

これら内容は「なんだ、普段から仕事でやってる」と振り返りとなったり「もう1歩進めて計画していけば出来そう」と発見もあるようです。そうなんです、普段の空間創り住まい作りを丁寧に考え実践していくと、それが防災対策に繋がる。その基本的な考え方や進め方を一冊に体系的にまとめて見える化したのが、この冊子です。

—インテリアと暮らしの視点から考える—『JOL防災』



【コンセプトイメージ】
家具転倒防止策の従来イメージを払拭し
良いイメージに見せる事も意識した



i c o n
防災とインテリア
研究会



インテリアコーディネーター(IC)の為の冊子作り。パース等入れた試作版はイメージの固定化を懸念し作り直しへ



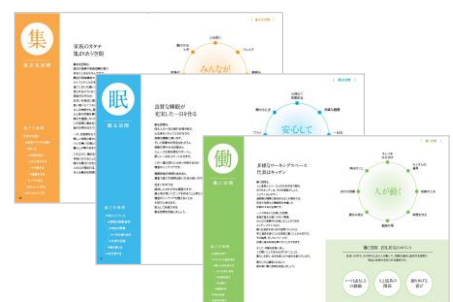
2019.11/20-23
IFFT
(東京国際家具見本市)

(公社)インテリア産業協会
『インテリアと社会的ウェルネス』展示



購入URL
動画
紹介URL

2019.6 冊子発行
A5版64頁のカラー冊子



3. 地震の被害 や データ解説

過去の地震による室内の被害については、セミナーで紹介している内容について、少し解説いたします。

生活者向けのセミナーでは、データに関係なく、いつどのような地震や状況になるか分からないので、家具固定やレイアウト対策は必要です、と伝え、何のために行うのかの意義を共有しています。

- ・避難する時間稼ぎのために
- ・すぐ復旧できて日常に戻りやすくするため
- ・避難生活を自宅で過ごしやすくするため
- ・安心して毎日を過ごせるために
- ・家族の安全を守り、ケガしない為

4. 固定対策について

家具のレイアウトや空間創りで対応できない場合、やはり固定対策が必須となります。今回はJOL防災の冊子やセミナーで伝えている内容や研究会での話を紹介します。

01：東京消防庁から公表されている転倒防止対策器具と効果

メリットデメリット、使い分けについて。

02：固定の仕組み

壁面+家具+固定金物のそれぞれを考え対応していく事が大事。

03：壁面の下地補強について

一般的な方法や最近の商品紹介（Mクロスボード、下地留め金具等）や課題、防火仕様等の注意点や解決へのヒント、代替案等、住宅の作り手側で出来るようにするためのヒントを提示します。

04：固定する金具 について

固定金物の基本の構成や現状の課題、固定手法等や、最近の商品など、固定のためのヒントをお伝えします。

金具・器具の構成は【壁側の部材+連結部材+接地面部材】と留め付け部材（ビスや粘着素材等）の構成になっています。様々な課題や目指す方向により選択が変わってきます。

05：家具・家電について

家具の固定についての現状や課題を紹介します。家電の固定についても、冷蔵庫や電子レンジはレイアウトやプランニングで対応できない場合は固定が必須と言えます。住まい作りで出来る事、住まい手に促す事など提示します。

06：高層マンション等での対応

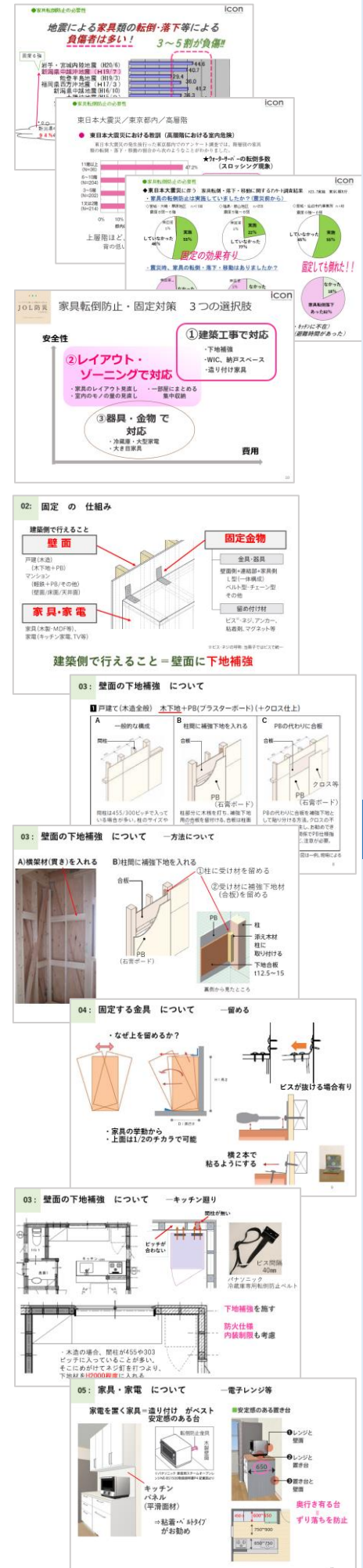
横滑りする為、家具の固定は必要です。戸境壁への固定は出来ないため、事前の計画が必須です。

07：賃貸の場合

退去時の現状復帰ルールなどが固定に寛容になると良いですが、現状では個別交渉の範疇で簡易な留め方しかないようです。

08：固定対策 まとめ

補強下地を入れること、プランニング時から家具レイアウトを想定し、下地箇所を決めたり図面に記載する等、空間計画から考えていく事が、建築や住まい創りに携わる私達に出来る事と思います。補強下地が要所に入っている物件が標準である、という流れになっていくと、固定対策を取り巻くモノ・コトなどの改善・進歩に繋がっていく、と考えています。



5. 家具固定を取り巻く様々な課題 と これから

家具固定対策（当テーマ）に関する活動を通して、見えてきた課題を紹介します。皆さんで共有できれば前進への一歩になります。

01：意識の面 まずは建物を創る側から

このテーマは建築下地、器具金物、家具家電の各分野だけでは完結し難く、『にわとりたまご』問題とも言えます。下地が無いから留められないという建築下地の課題は、まずは私達建築側から、補強下地を積極的に入れていく方向で解決に繋げましょう。「下地は有るよ」と間柱を探して留める方法は、留める立場・住まい手側からは「下地は無い」に近く、固定対策を難しくしています。

02：様々な選択肢以外に『基本』を確立させる

JOL防災では、固定する前に家具レイアウトや空間創り、造り付け家具等での対応を勧めています。又、モノを減らす事やモノに執着しない世代には固定対策は不要かも知れません。様々な選択肢や解決方法があるからといって基本の固定対策が現状のままでは進化がありません。基本となる固定の仕様を確立させていくことが必要です。

03：固定方法の仕様決め、固定までの仕組みづくり

固定作業は大工さんの経験値などの技術や各種情報から、合板とビス・金物を選び固定していますが、固定に関する仕様が明確に定義されては無いようです。色々有る、は迷いにもなります。標準仕様やルールを決めたり、オープンに仕様を共有していく事で、コストの見える化やビジネス化につながり、下地補強を提供しやすくなるはず。その為のエビデンスも必要でしょう。

04：各分野（建築下地・器具金物・家具家電）横士の連携がより良い『固定』に

主要な箇所に補強下地が入っている住まいが増える事で、固定するビスや器具・金物、家具・家電といったモノの作り手・供給側にも、固定しやすい工夫が生まれると想定されます。現状の自社完結型商品「傷つけません、置くだけ」の簡易型とは別に選択肢が広がります。補強下地を入れる事が標準化することで固定施工のしやすさへ繋がり、コスト・手間・技術の明確化となり、より良い固定へと各分野横通して連携を図り、進化進歩へ繋がり、「もう悩まない」対策へと昇華されるでしょう。

05：賃貸や高齢者向けの対策、既存住宅への対応は、制度整備や福祉と連動

賃貸の供給側として、レイアウトを想定し建築時に補強下地を施す事で、固定可能という差別化や優位性のある仕様となる事は可能でしょう。制度としての退去時の現状復帰等ルール決めも、戸建て・分譲での補強下地の標準化普及化が進めば、より明確化や前進することと思われれます。

高齢者の住まいへの固定対策や既存住宅への対策も、仕様やコストが明確になるとサービス提供もわかりやすく補助しやすくなります。家具の移動や処分サービスと併せて固定対策サポートが進みます。

06：家具固定対策についての専門所管は無い

家具転倒防止策は防災対策の一環として1995年の阪神淡路大震災以降、内閣府や関係省庁による専門委員会の中で検討・提案など進められてきました。家具転倒防止策は生活者向けへの啓蒙(自助)が主で、建築業界、家具などの業界への呼び掛けは初期には有ったようです。東京消防庁が力を入れているのは災害時に救助出来ないからという理由からであり、固定の専門では有りません。

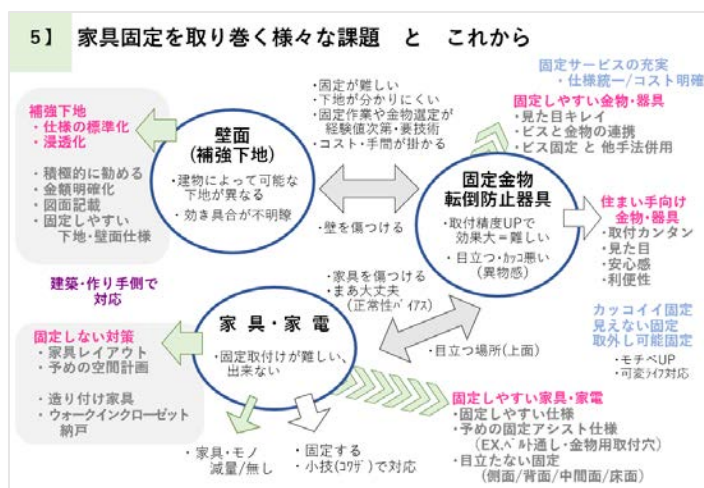
このテーマ自体は防災という分類に属しますが、細かくみると、固定という物理的に緊結するという施工的建築的な分野だったり、固定サービスや福祉サービスと絡む事、室内の美観や家具というインテリア分野など多岐に関わります。自分達作り手側で出来る事を積極的に行いつつ、声を上げて連携を図っていく事がこのテーマをスムーズにスマートにしていく事に繋がります。

07：やる気につながる美観やデザイン性の不足

防災対策の効果は被災しないとわかりません。費用対効果が見えずらく、作業は面倒で費用も掛かるのに「残念な感じ」から抜け出せません。固定を自慢したり家族や友人にも勧めたり、固定したい、と思わせる見た目（EX.見えない固定）にはまだまだ遠い現状があります。見た目品質の向上には、基本の固定が普及する事、固定仕様を確定させることで、発展の道が開かれると思われれます。

◆まとめ◆ 事前の空間計画、住まい創りの段階から家具レイアウトや動線計画等、空間全体から考え、必要な下地補強を施していくことが、室内の防災対策を押し進め、素敵な空間への両立にも繋がります。

以上



はらいがわ

菟川土塀修復再生プロジェクト

(ひいひいおじいちゃんの土塀 110年目の再生)

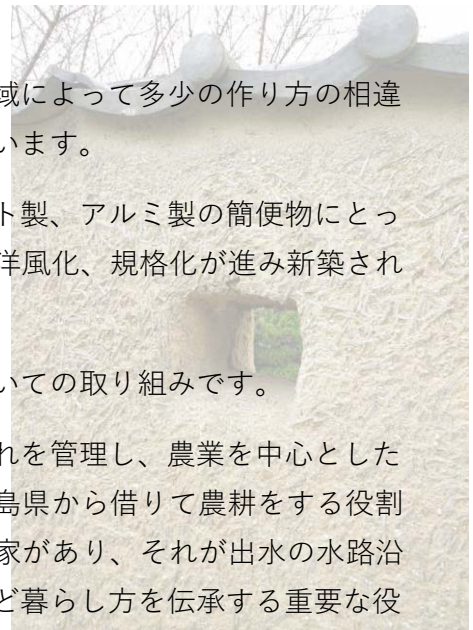
土塀は かつては日本のどこでも見られたきわめて基本的な塀であり、日本の風景の一部になっていました。

伝統的な技術を有する職人によって時間をかけて造られ、地域によって多少の作り方の相違は見られるものの、基本的な方法は似たような工法で造られています。

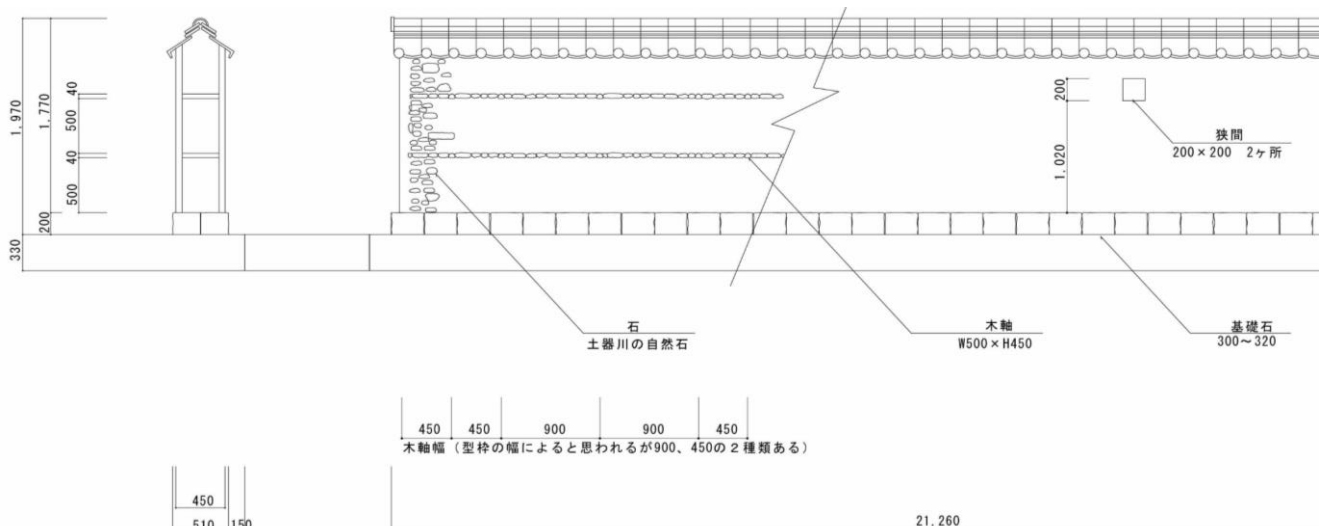
しかし近年、安価で施工性の良いブロック塀や、コンクリート製、アルミ製の簡便物によって代わりつつあります。また左官職人の減少や住居デザインの洋風化、規格化が進み新築されることが少なくなってきました。

そのような状況でいかにして土塀を有効に残していくかについての取り組みです。

本活動の地域は、大きな特徴として出水（湧き水）がありそれを管理し、農業を中心とした暮らしをしていたこと、農作業の重要な家畜として借耕牛を徳島県から借りて農耕をする役割の牛飼いの家があったこと、農作業に従事する専属の働き手の家があり、それが出水の水路沿いに3軒ならんで残っていることと 土塀が或ることの意味など暮らし方を伝承する重要な役割を考えつつ保存再生についての取り組みです。



既存の土塀





- 工程1 古い劣化した表面の土をケレン棒で剥す



- 工程2 瓦を降ろして再利用するために洗う



- 工程3 躯体だけになった壁をブロワーで埃を飛ばした後に水洗いをする

活動予定

- 大正3年建設（築110年）の土器川の自然石（玉石より形も大きさもバラバラ）を使用した土塀の修復を通して建設の時代背景を推察し、作られ方、自然石を使用した理由、塀に狭間が開いている意味を時代から読み取る。
- また体験を通して土の特性を知り土塀制作の楽しさや左官技術を体験するワークショップを月に1回程度実施予定。
- 近隣住民とコミュニケーションを図りワークショップへの参加を促しその家の思い出、昔話を聞く。



- 工程4 上端部にバラ板を取り付け天端を均すための土を塗る



- 工程5 下塗り、中塗り、上塗りをして表面を仕上げる（各塗りは1か月以上の間隔をあげしっかりと乾燥をさせる）



解体した土の練り直し



棕櫚繩を張り巡らせる



藁切



竹釘作り（敷地内の竹を取り半年以上乾燥させた竹を削ります）



完成した竹釘（円錐形や尖り過ぎた物は使えない）



塀に打ち込んだ竹釘

生まれつつある効果

- ・ 土塀ワークショップ参加者の新築住宅の一部の壁を塗り壁に計画変更しみんなで塗りに行きました。
- ・ 最初は 近所の人たちが「早よ壊しまい、ええとこ知っとるで 言うてあげようか？」と解体を薦められていましたがTVニュースに放送されてからは「何がでっきょんな？ テレビ見たで！」「ほんまじゃ 穴が開いとるがな」といつまでもTVの話をしてのぞきに來ます。
- ・ お隣のおばさんが 「今日はなんしょんな」といっていつも野菜をいただいています。コロナ時は山盛りのイチジクを取らせていただいで作業にならないほどの人気でした。
- ・ このように少しずつ近所さんとのコミュニケーションが始まり、興味関心を持っていただけるようになりました。
- ・ 登録文化財所有者が修復に興味をもってワークショップに参加の希望を申し出てくれています。

今後について

- ・ 土塀修復チームを構成し調査 診断 修復 保存に繋げる。
- ・ 活動を継続し 工法、技術の継承と 景観の保全につなげる。
- ・ 讃岐平野の古民家、出水文化（水門）を残し建物と共に水を取り巻く環境も含めた保全、保存を薦める。
- ・ 色々なコミュニケーションが生まれつつあるので息の長い活動にすることが大切だと思います。

D分科会プログラム

■テーマ 「変えていく！建築士会」～バージョンアップへの道～

■分科会の趣旨

建築士会を取り巻く環境が変わり、バージョンアップをしていく必要性を感じている方は多いのではないのでしょうか。会員数の減少、年齢構成の変化、建築を取り巻く様々な環境の変化などに対応していくためには、これまでの経緯を理解しつつ、過去にとらわれ過ぎることなく、先を見据えた改革をしていかなければなりません。

昨年実施した「会員拡大に向けてのアンケート」の結果（連合会女性委員会HP参照）には、現状の課題、そして今後を考えていく上でのヒントがたくさん潜んでいるのではないかと思います。それらをもう少し深く掘り下げるとともに、取り組みの事例として、愛知建築士会の会員拡大の取り組みについてお話いただきます。学生を対象とした特別準会員制度やファミリー会員制度の創設に至った経緯や、動き始めた学生会員との協働の取り組みについてもお聞きしたいと思います。参加型のワークショップも織り交ぜながら、私たちの建築士会について語り合い、この先の可能性を探る機会としたいと思います。

■司会 矢尾 志津江（石川県建築士会） アシスタント 坂上 ゆかり（石川県建築士会）

■コメンテーター 杉原 尚子、丹羽 哲矢（愛知建築士会）

公益社団法人愛知建築士会の会員制度について、会員増大推進特別委員会の2022年度からの取り組みについて、その後立ち上がった青年委員会学生部会の活動などお話しさせていただきます。

杉原尚子(常務理事, 会員増大推進特別委員会担当役員, 女性委員会)

丹羽哲矢(常務理事, 会員増大推進特別委員会担当役員, 学生コンペ委員会) 静岡文化芸術大学教員

■分科会の進め方

- | | | |
|------------------------------|-------|-------------|
| 1. 司会挨拶、コメンテーター紹介／進行説明 | (5分) | 9:00～9:05 |
| 2. 会員拡大の取り組みについて事例報告（愛知建築士会） | (30分) | 9:05～9:35 |
| 3. 質疑応答、意見交換 | (20分) | 9:35～9:55 |
| 4. ミニワークショップ | | |
| ・グループ討議 | (30分) | 10:00～10:30 |
| ・プレゼンテーション | (20分) | 10:30～10:50 |

テーマ①『建築士会をアピール！』1分間コマーシャルorキャッチコピーをつくろう！

テーマ②『予算5万円！ 魅力ある事業を提案』

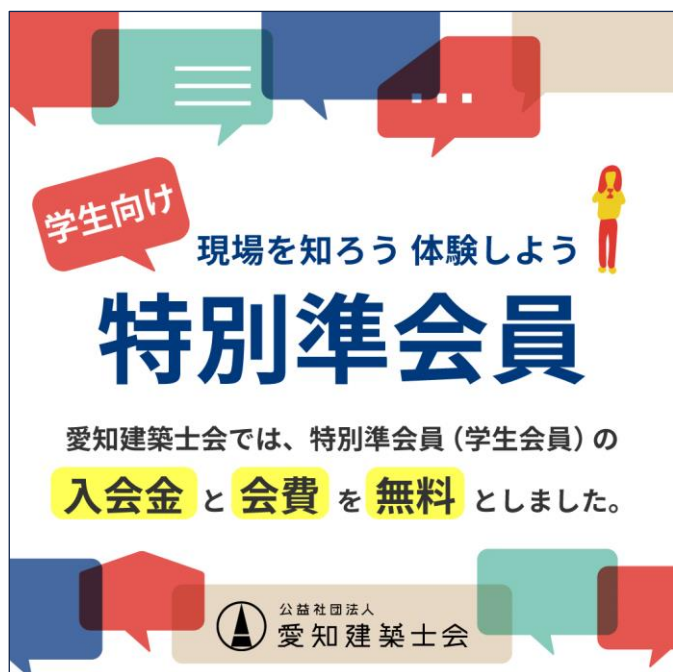
テーマ③ ワンテーマディスカッション

バージョンアップのために必要なもの。そのためにはどうすれば良いか。

- | | | |
|----------|-------|-------------|
| 5. 全体まとめ | (10分) | 10:50～11:00 |
|----------|-------|-------------|

特別準会員(学生会員)の入会金・会費無料、 ファミリー会員対象拡大について

—愛知建築士会—



学生向け
現場を知ろう 体験しよう

特別準会員

愛知建築士会では、特別準会員(学生会員)の
入会金と**会費**を**無料**としました。

公益社団法人
愛知建築士会

入会金は1,000円
年会費は3,600円 を無料に

↑会誌配布をPDF版に
変更して費用削減

約20年続けてきた学生コンペで培った
教員との人脈を使って周知活動を行う

新たに学生部会を立ち上げ企画立案
事務手続きは正会員がフォローする

ファミリー会員の対象を同居の親族から同じ所属の正会員が いる40歳未満に拡大



対象拡大
職能のつながりを広げよう

愛知建築士会ファミリー会員

愛知建築士会では、若い世代の建築士の入会を促進するため、ファミリー会員の対象を拡大しました。

これまで、ファミリー会員は正会員(終身正会員を除く)と同居する親族だけに限られていました。
今回、正会員(終身正会員を除く)の所属する会社・事務所に属する40歳未満の建築士が、新たにファミリー会員として入会できるようになりました。

愛知建築士会には設計事務所やハウスメーカーで働く人や、現場監督、大工、行政職員、教員等の幅広い職種の人々がいます。

この機会に多くの建築士と出会い仲間になって、将来のことを一緒に考え、スキルアップしてみませんか。

入会金 1,000円 (正会員は3,600円)

年会費 9,000円 (正会員は18,000円)

入会申込は
こちらから



ホームページは
こちらから



※会報誌は送付しません。その他、会員種別に関する詳細はホームページでご確認ください。

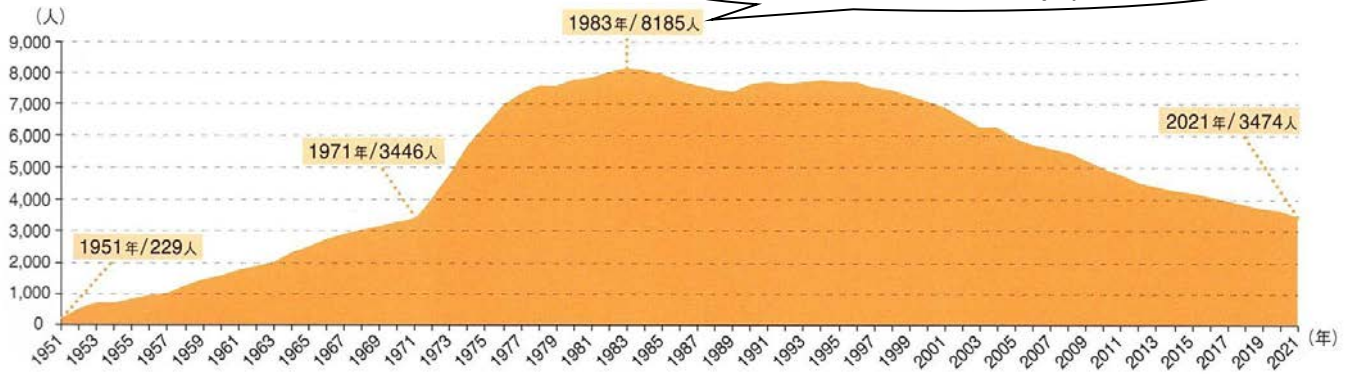
会員の種別で提供するサービスに差をつけている

令和6年5月21日

※2023年の修正部分は、_____線部分となります。

	正会員				準会員		賛助会員		
	正会員	ゴールド会員	終身正会員	ファミリー会員	準会員	特別準会員	団体	一般会員	
入会費	¥4,000			¥1,000	¥3,000	¥0		¥1,000	
年会費	¥18,000		無料	¥9,000	¥14,400	¥0	¥30,000	¥9,000	
	建築士	70歳以上	40年在籍 70歳以上 功績者	建築士 正会員と同居する親族 又は正会員が所属する 会社・事務所の40歳未 満の建築士	将来建築士を目指す方 試験合格者 社会人		建築に興味があ る学生	団体	個人 建築士以外 行政職員
申込方法				Googleフォーム		Googleフォーム +学生証メール			
総会出席	○	○	○	○					
役員立候補	○	○	○	○					
委員会参加	○	○	○	○	○	○	○	○	
委員長就任	○	○	○	○					
支部参加	○	○	○	○	○	○	○	○	
支部長就任	○	○	○	○					
会員証	○	○	○	○	○	× 番号のみ	○	○	
会誌「建築士」の受取り	○	○	○		○		○		
会誌「愛知の建築」の受取り	○	○	○		○	×	○	○	
講習会の情報提供・会員割引	○	○	○	○	○	○	○	○	
レジャー施設への優待	○	○	○	○	○	×	○	○	
一部美術館・博物館への優待	○	○	○	○	○	×	○	○	
日本旅行の利用優待	○	○	○	○	○	×	○	○	
一柳葬具利用優待	○	○	○	○	○	×	○	○	
書籍の郵送販売	○	○	○	○	○	×	○	○	
法律相談の利用	○	○	○	○					
WEB「会員専用サイト」の利用	○	○	○	○	○	○			
WEB「賛助会員ニュース」掲載							無料	無料	
WEB「バナー広告」掲載							会員価格	会員価格	
建築士定期講習受講									
既存住宅状調査技術者講習受講	定価	定価	定価	定価	定価	定価	定価		
監理技術者講習受講									
heritage マネージャー養成講座受講	定価	定価	定価	定価	定価	定価	定価	定価	
メールマガジンの受取り	○	○	○	○	○	○	○	○	
Twitterによる情報発信	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	
Instagramによる会員作品の発信	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	
広告掲載(会誌・メルマガ)	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	
建築総合展出展	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	
会議室の利用	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	会員価格	
講師派遣		講師					講師		

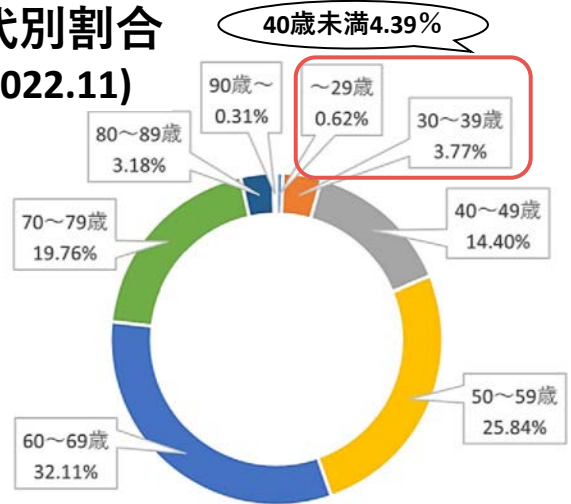
会員数の推移



10年間の会員数推移



年代別割合 (2022.11)



ファミリー会員関連の約款改訂

- 第9条 会員は、本会の行う事業及び各支部が行う事業に参加することができる。この事業は、会誌「愛知の建築」に掲載することにより広報する。なお、事業に参加する場合の経費の負担等は、それぞれの事業の定めによる。
- 第10条 会員は、会誌「愛知の建築」に投稿することができる。
- 第11条 会員が本会の行う講演会、講習会、見学会、その他これに準ずる事業に参加し、又は図書を購入する場合については、定款に定める会員と同等の会員とみなし、優遇措置を講ずる。
- 第12条 会員が定款に定める会員になる場合において、定款細則に定める入会金についての優遇措置については理事会の承認により講ずることができることとする。
- 第13条 この規則による会員には、建築士会が定める定款第12条1項(4)は適用しない。
- 第14条 この規則の施行について必要な事項は、理事会の承認を経て別に定める。
- 第15条 この規則の設定、変更及び廃止は理事会の決議により行い、総会の議決を要する事項については総会の承認を得るものとする。
- 第16条 この規則の会員が正会員(終身正会員は除く)と同居する親族でなくなった場合、正会員(終身正会員は除く)が所属する会社・事務所に属する建築士が40歳を迎えた場合、または、所属する会社・事務所に正会員(終身正会員は除く)が不在となった場合には、当該会員の申し出により、速やかに正会員への変更の手続きをとり、正会員となるものとし、当該年度の次の年度から、正会員の会費を支払うものとする。

附則

(施行期日)

この規則は、理事会において議決された日より施行する。

令和3年5月14日 理事会制定
令和5年6月15日 理事会改定

とができる。この事業は、会誌「愛知の建築」に掲載することにより広報する。なお、事業に参加する場合の経費の負担等は、それぞれの事業の定めによる。

- 第10条 会員は、会誌「愛知の建築」に投稿することができる。
- 第11条 会員が本会の行う講演会、講習会、見学会、その他これに準ずる事業に参加し、又は図書を購入する場合については、定款に定める会員と同等の会員とみなし、優遇措置を講ずる。
- 第12条 会員が定款に定める会員になる場合において、定款細則に定める入会金についての優遇措置については理事会の承認により講ずることができることとする。
- 第13条 この規則が施行された日以前の正会員は、ファミリー会員へ変更は認めないものとする。
- 第14条 この規則による会員には、建築士会が定める定款第12条1項(4)は適用しない。
- 第15条 この規則の施行について必要な事項は、理事会の承認を経て別に定める。
- 第16条 この規則の設定、変更及び廃止は理事会の決議により行い、総会の議決を要する事項については総会の承認を得るものとする。

附則

(施行期日)

この規則は、理事会において議決された日より施行する。

令和3年5月14日 理事会制定

学生・教員との交流企画

アートで街おこしをする佐久島訪問



学生部会発足企画（オリエンテーション・企画立案ワークショップ）



学生コンペ：地元大学教員10名で一次審査



E分科会プログラム

■テーマ すまい学習をサポートします あれから

～続・兵庫県建築士会住教育支援チームの取り組み～

■分科会の趣旨

平成18年（2006）、住教育支援チームとして結成された活動について、平成26年（2014）、第24回の全建女で発表させていただいた後も、毎年継続して小・中・高校等での家庭科・総合学習などの授業でゲストティーチャーやカリキュラム相談を行ってきました。チームとしての活動を18年継続してきた中で思いがけないパンデミックや社会の変化もありましたが、この間の活動で『変わったこと・変わらなかったこと』について共有させていただけたらと思います。

■司会 山本 規子（奈良県建築士会） アシスタント 畠中 みか（和歌山県建築士会）
有賀 芳子（兵庫県建築士会）

■コメンテーター 八木 景子（兵庫県建築士会）

来年には阪神・淡路大震災から30年となります。大震災を経験し、その時の被害状況や復興の中で、建築、法律、消費者問題、経済、情報などの多岐にわたる分野による対応が必要なことが分かりました。その中で「生きる力」の一つとしてのすまい学習の必要性に至り、自分自身の生活環境をデザインする能力は誰にでも必要なもの、その知識を平等に得る機会が得られる場所は授業の中ではないかという結論になりました。そのことから、学校現場での住教育の実践を行うことになり、実践母体として結成されたのが住教育支援チームでした。私自身は、結成前のモデル授業段階から参加してきました。

現在、どのような実践授業をしているのか、授業をしている中で支援チームとして、建築士としてかかわることの意義と日頃どのようなことを心掛けているかなど、授業プログラムの内容を紹介しつつ住教育支援チーム会代表世話人として、お話をさせていただきます。

最後に、全国でも同様の活動を長く実践されている団体や個人の方がいらっしゃいます。皆様と意見交換をしながら、続けるコツや授業プログラムについてのご意見をいただくと嬉しく思います。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00～9:05
2. 活動報告	(80分)	9:05～10:25
3. トークセッション&質疑応答	(25分)	10:25～10:50
4. まとめ	(10分)	10:50～11:00

すまい学習をサポートします、あれから

～続・兵庫県建築士会 住教育支援チームの取り組み～

(公社)兵庫県建築士会 住教育支援チーム 八木景子

(公社)兵庫県建築士会住教育支援チームは、1995年1月、発生の阪神淡路大震災での体験がきっかけで結成されました。その、背景と概要・活動概略を簡単に記述します。

1, チーム設置の背景と概要

阪神淡路大震災の経験 → 市民の住意識向上の必要性

- ・平成7年(1995年)1月17日 阪神淡路大震災
死者 6,434人 倒壊家屋(全半壊) 249,180棟
- ・被災者の住宅再建のため相談所<神戸住宅復興メッセ>を開設
市民からの住まいに関する相談業務が始まった中で「住」への基礎知識の不足による相談等が多くあり、市民が自ら安全な住まいを選択できる知識を得る環境の必要性が明らかになりました。
- ・平成12年(2000年)神戸市すまいの安心支援センター「すまいるネット」開設
住にかかわる建築、法律、消費者問題、経済、情報等多岐にわたる分野のワンストップ施設となる一方「住」への解決の一つとして、平成14年(2002年)から学校・民間・行政の連携による住教育の取り組みを考えるための住教育ワーキンググループが結成され、兵庫県建築士会も参画しました。ワーキンググループの目的は、学校における住教育の普及を進め、主体的に「すまい」について考えられる将来の生活者育成を図ることでした。ワーキンググループでは、住教育の現状・問題点や具体的な授業内容等について議論・意見交換を行うとともに、住教育を効果的に広めるため現場教員を交えて、モデル授業実施を繰り返しました。この、モデル授業実施に建築士として参加を始めたことが支援チームの結成につながっていきました。
- ・平成18年(2006年)1月 公開ディスカッション「防災教育で伝えること、学ぶこと」を開催
県内で実施されていた防災教育や建築にまつわるプログラムを紹介し、意見交換を行いました。防災への地域力向上の視点から、震災を実体験していない子どもたちへの防災教育が必要であること、そして建築の専門家として積極的に関わっていくべきであるとの共通認識が示されました。その後同年12月に有志の研究会として「住教育支援チーム」が発足し現在に至ります。

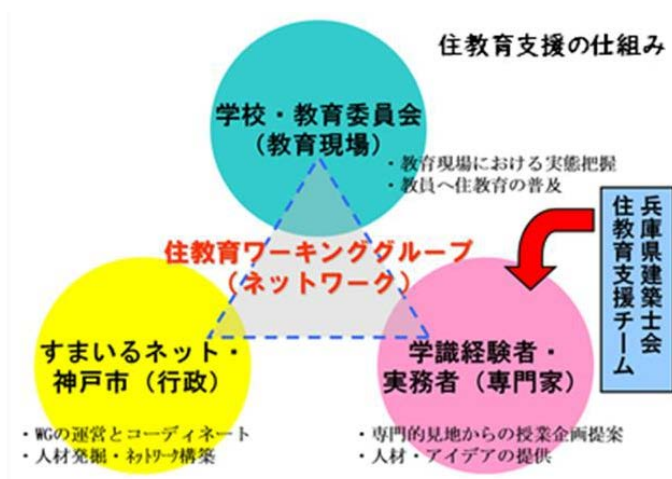
2, チームの活動内容と概要

住教育ワーキンググループでの学校教育での住教育の現状と課題の把握

- ・2002年、学校教育での住教育の実践に向け、**教育委員会**(教育現場)、**すまいるネット**(行政)、**専門家**(教育学、住居学、建築士)による<住教育ワーキンググループ>を設置
- ・「家庭科教育」の中での取り組み課題を共有するとともに、神戸市内の小中学校でモデル授業を実施

住教育支援チームによる住教育の実践

- ・すまいるネットのコーディネートにより、神戸市内の小・中・高校での「家庭科」「総合学習」授業のゲストティーチャーの派遣やカリキュラム相談に対応



3、学校現場での住教育の目的

「生きる力」の一つとしての住まい学習が必要

- ・自分自身の生活環境をデザインする能力は誰にでも必要なもの
- ・「住意識向上」の機会を平等に提供する必要性は大きい → 学校教育で住教育の実践

4、住教育が広がるために

- ・教師だけでも住教育の実践が可能なよう、「住教育実践集」〈2007年発行〉や副読本、教師対象の研修会などでプログラムを公開
- ・「神戸市家庭科・技術家庭小中学校教育課程基準（神戸スタンダード）」（2010年設定）に織り込まれる

5、授業への建築士としてのかかわりを考える・・・すまい学習の拡大に向けて

- 指導要綱を踏まえた提案・・・教科書にしっかり記述されているが、先生は不得手
- 建築士ならではの提案・・・実際の社会状況・生活に即して
- 最終目標は教師一人で実践できること・・・そのために支援できることは何かを常に意識する

以上のことをふまえて、「すまい」について、子供たちが自ら考え行動できるための「生きる力」を身につけ防災、安全・安心な住まい方を目指せるようなプログラムを、家庭科の教育課程に添った内容で組み立てた授業を、建築の専門家・生活者・震災の体験者として「学習面」や「生きる力」を得る一助になるように、心がけて授業を行うこととしています。

長く活動する中で、専門家としてできることを生かし、地域に貢献するとともに社会的な要請に応える一つの形として活動させてもらえる環境にあることに感謝しています。

6、活動内容・・・授業例抜粋 プログラム及びワークシート（別紙及びHP参照）

★地震に備えた住まい方（中学校：50分）

実践例 中学校・家庭科

地震に備えた住まい方



- ・地震に強い建物を作るには・・・
- ・耐震補強の種類としくみを知る
- ・実際の耐震事例を知る

- ・地震はもう来ないのか？
- ・どんな地震が予想されるか。
- ・地震のときの建物の揺れ方は？
- ・耐震基準が新しくなった年も知ろう！

実践例 中学校・家庭科

地震に備えた住まい方




- ・建物さえ丈夫ならよいのか？
- ・同じ建物の、上階と下階によっても被害は違う
- ・室内にあるものが、地震の時凶器になる事を知る

- ・牛乳パックビルの揺らして、建物の耐震について知る。
- ・なぜ、耐震改修が進められているのか？
- ・各地に避難所がある事を知る。

実践例 中学校・家庭科

地震に備えた住まい方



- ・家具の配置や固定の必要性
- ・家具の並べ方、固定のための器具の紹介
- ・家ではどんな工夫をしているか？

Q. 正しい家具固定の方法はどっち？

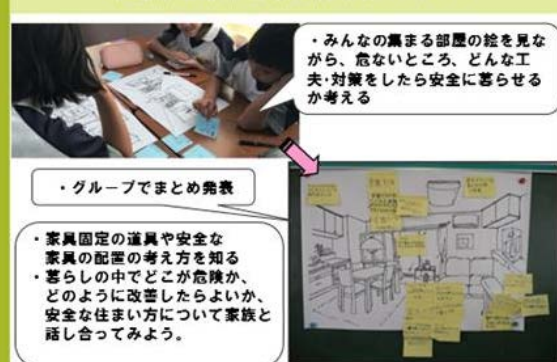
手前 奥

- ・先生による、震災での体験談
- ・家具配置で生死を分けることへの気付き

★安全に住むための工夫を考えよう（小学校：50分）

実践例 小学校・総合学習

安全で安心な住まい方を知ろう！！



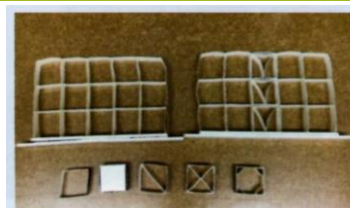
- ・みんなの集まる部屋の絵を見ながら、危ないところ、どんな工夫・対策をしたら安全に暮らせるか考える

・グループでまとめ発表

- ・家具固定の道具や安全な家具の配置の考え方を知る
- ・暮らしの中でどこが危険か、どのように改善したらよいか、安全な住まい方について家族と話し合ってみよう。



【実験用】家具固定グッズ
 ファイルボックス、
 ジュースたんす、
 つっぱり棒（模型）、
 発砲スチロールの箱、
 ダンボール（高さ調整用）
 すきまマット
 （くさび用まるめた新聞紙）



【実験用】
 牛乳パックビル
 補強グッズ共

★ 快適な室内環境 ～換気～ (小・中学校：50分)

実践例 中学校・家庭科
快適な室内環境～換気～

住まいの中で換気が必要な場所について考える。

換気が必要な場所は？		
洗面(キタツク)	必要	湿度・温度の上昇 におい 燃焼によるCO ₂ 不完全燃焼による有害なガス
浴室	必要	湿気(カビ) ほこり、カビ、ダニはアレルギーの原因にもなります。
トイレ	必要	におい
玄関(リビング) 寝室	必要	呼吸から出るCO ₂ ほこり 湿度・温度の上昇(カビやダニ) 家具などに含まれる化学物質

カビやダニの種類や育成条件などについてのビデオを視聴

実践例 中学校・家庭科
快適な室内環境～換気～

Q. 教室で換気をしなかったら二酸化炭素濃度が**生命の危険(70,000ppm)**に達するのは何時間後？

- 12時間後
- 21時間後
- 72時間後

「授業開始前」「閉め切った教室で授業を行い30分後」「換気後」の3段階での二酸化炭素濃度、温度、湿度を計測して比較する。

二酸化炭素の濃度を知るには？

二酸化炭素用検知管

今の教室の温度を測定してみよう！

換気をしなかったら、どのような影響が出るのかをクイズを交えながら紹介。

実践例 中学校・家庭科
快適な室内環境～換気～

Q. いちばん効果的な換気方法は？

- ①片側の1箇所を開ける
- ②対面の2箇所を開ける
- ③対角線上に2箇所を開ける

一人ずつ線香を持って、ドアや窓を実際に開けた時の空気の流れを観察

換気には、ドアや窓をどのように開けるのがもっとも有効なのかを予想し、...

◆二酸化炭素検知器

ガス採取器

二酸化炭素用検知管

今の教室の二酸化炭素濃度を測定してみよう！

- ◆ 持参準備物：説明・実験用
 ・温度計・湿度計・線香・灰受皿・ポインター
 ・火消し用水入りコップ(各班)・ライター・ろうそく

★ 快適な室内環境 ～音～ (小・中学校：50分)

実践例 中学校・家庭科
快適な室内環境～音～

ゲームのルール

- ・左手に「青」、右手に「赤」を持つ
- ・心地よいな、好きだなと思う音は「青」嫌だなと思う音は「赤」をあげる。
- ・必ずどちらかをあげる。(両方や分らないはダメ！)
- ・目をつぶって、自分の感じたとおりにあげる。
- ・聞いている途中で札をかえてもOK!

日常生活での一般的な騒音レベル

騒音レベル [dB(A)]	起こる場所	うるささの目安
140	ジェットエンジン近く	騒音の限界
120	オートバイ加速時の近く	騒音の限界
100	自動車のクラクション、急ブレーキ時のエンジン音	非常にうるさい
90	大声、木の板を落とす	うるさい
80	音楽を聴いた時、地下鉄の車内	うるさい
60	静かな歩道、テレビ、トイレ	普通
50	一般歩道	静か
40	静かな住宅地、深夜の市内、図書館内	静か
30	寝静む場所、真夜中	静か
20	本が読めるほど静か	静か
10	ほとんど何も聞こえない、呼吸音	静か

「音調ベゲーム」
 ・同じ音でも、人によって感じ方が違う
 ・同じ種類の音でも、大きさによって感じ方が違うことを知る。

実践例 中学校・家庭科
快適な室内環境～音～

学校などの建物内での音を出さない工夫を知るとともに、生活での騒音トラブルを防ぐには、仕組みだけでなく、住まい方も大事であることを学ぶ。

Q.どこが工夫されている？

厚手のカーテン

音の伝わり

箱を家に見立てて

身近な騒音トラブル
 ～どんな工夫をすればいいだろう？～

実験① 床材による音の違い
 どの床がひびきにくく
 床の素材による音の響き方の違いや、密閉した場合の音の伝わり方を実験で確かめる。

★ 安心・安全で暮らしやすい住まい方 (中学校：50分)

実践例 中学校・家庭科
安心・安全で暮らしやすい住まい方

家庭内事故と交通事故

年代	家庭内事故	交通事故
0～4歳	136人	32人
5～9歳	15人	53人
10～14歳	26人	27人
15～19歳	187人	650人
20～24歳	416人	826人
25～29歳	1,679人	1,377人
65歳以上	12,111人	3,283人

年代によっては、家庭内事故死が交通事故死よりも多くなっている。

身体機能の「違い・変化」

家庭内事故の方が交通事故で亡くなる方より多い
 安全対策を考えることが大切

実践例 中学校・家庭科
安心・安全で暮らしやすい住まい方

住まいでの対策を見直す

安全・安心で暮らしやすく住むために

- ①身体機能の変化や違いに対応
- ②整理・整頓・清掃
- ③誰もが安全に暮らせる 道具・家具・空間

住まいの中の対策

⑤階段・廊下

手すり

段差なし

自動で電気を消す照明

障りなし

ユニバーサルデザイン Universal Design, UD

Barrier ...
障がい、障害、妨げ

Free ...
取り除く、ない

誰もが安心・安全で暮らしやすい住まい方をするために、考えること・考えられている事

ユニバーサルデザイン Universal Design, UD
 すべてに共通の、普通の Design ...
設計、計画、デザイン

◆授業プログラム一覧



地震に備えた住まい方(100分・50分)

地震に備え、建物に対してできる対策、住まいの中で自分たちができる対策について考えます。
(対象:中学生・高校生)

家具固定の方法について実物を見せて紹介



安全に住むための工夫を考えよう

地震に備え、住まいの中で自分たちができる対策について考えます。
(対象:小学校高学年)

皆で集まる部屋の絵を見ながら、危ないところは?どんな工夫・対策をしたら安全に暮らせるか?考え、発表



快適な室内空間~換気~

室内には空気を汚す物質が存在することを知り、健康に過ごすためには、換気がいかに大切かについて学びます。
(対象:小学校高学年)

線香を使った換気実験 窓の開閉による煙の動きで教室内の空気の流れを実感する



快適な室内空間~音~

身近にあふれる音は、人によって感じ方が違うことを知り、快適に過ごすための工夫をゲームやクイズを通して考えます。
(対象:小学校高学年)

さまざまな音を聞いて、気持ちのいい音は赤、不快だと思う音は青のカードをあげる



安心・安全で暮らしやすい住まい方

家庭内事故の現状を知ったうえで、住まいの中の危険について学び、身体状況の違いや変化に応じた安全で暮らしやすい住まい方の工夫についても考えます。
(対象:中学生)

住まいの中で不便なところ、不都合なところはなにか考える



~その他のプログラム 「快適な室内環境~明かり~」「住まいの役割」~
※プログラムの内容を先生と協議しながら変更や新規作成を重ねています。

7, ちょっと紹介

神戸市すまいの安心支援センター
(すまいるネット)



F分科会プログラム

■テーマ：女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について

■分科会の趣旨

岡山県建築士会女性部会では、1995年から活動報告として女性部会情報誌「フフ」の発行を行ってきました（年4～6回）。情報誌の発行経緯及び内容について紹介します。

また、SDGsへの取り組みが進む中、目標のひとつである「ジェンダー平等を実現しよう」という世界的な流れの中で、我々は部員を女性に限定する意味について昨年度一年をかけて部会内外で考えてきました。社会に果たす役割が女性だから、男性だからと限定されることが減り個々が役割を自由に選択できる機会が多くなっています。家庭を守るのは女性の役目だから、家事をするのは女性だから、女性が建築について考えるのが女性建築士の目線なのか、それとももっと根本的な、持って生まれた本能で考えるのが女性建築士の目線なのか。会員減少（役員等の後継者不足）、ジェンダーフリー、多様性社会などを背景に、「そもそも女性部会としての存続意義はどこにあるのだろうか？」と部会内外で協議を重ねている道程を全国の女性建築士と共有したいと思います。

■司会 高源 真由美（徳島県建築士会）

■コメンテーター 日野 緑（岡山県建築士会）

1975年生まれ。土木業界から建築の世界に入り、工務店で働きながら二級建築士となり、結婚、出産を経て現在は土木業界に戻り建設コンサルタントで公共構造物の設計に日々精進中。中学生の娘と、猫4匹と毎日楽しく過ごしつつ、まだまだ男性の多い職場環境で、女性の立ち位置について考えながら仕事をしています。

■コメンテーター 渡辺 睦（岡山県建築士会）

2004年より女性部会に在籍。10年弱の設計事務所勤務を経て結婚を機に設計事務所を設立し自宅一室で住宅設計に従事。出産子育ての時期は情報誌「フフ」の編集に携わることで社会や女性部会との繋がりを感じ、社会人・建築士としての居場所を得ていたと振り返る。

女性の働き方は、ライフステージにより大きく変化を強いられる場合がある。それでも生き生きと働き輝く先輩方を目標に、これからも自分らしいスタイルの建築士でありたいと思う。

■分科会の進め方

9：00～9：05	挨拶、趣旨説明
9：05～9：20	グループ作成 グループ内の自己紹介 リーダー決定
9：20～9：40	フフの30年間（報告：渡辺）
9：40～9：50	部会のありかた、女性建築士集団としての今後（報告：日野）
9：50～10：20	グループディスカッション
10：20～10：40	発表
10：40～10：45	まとめ

女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について

岡山県建築士会女性部会 日野緑 渡辺睦

■女性部会の発足と女性部会情報誌「フフ」の発行経緯と内容

1995年6月、有志10人程度の役員（会員数112人）で、岡山県建築士会女性部会が発足しました。女性部会の規程には、以下の記述があります。

（女性部会の目的）女性部会は、本会の目的に基づいて会員相互の親睦と知識・技術の向上に努め、地域社会との連携を深めて、女性建築士の社会的地位の向上を図り、本会の発展に寄与することを目的とする。

発足当時から現在まで、会員相互の親睦と知識・技術の向上に努めるという志は部員の共通認識として同じ思いで活動を続けていますが、女性建築士の社会的地位の向上、という言い回しは、昭和50年前後うまれの私達の世代には少し違和感があります。しかし、部会規程にそのような記述があるということは、発足当時のメンバーにとっては、女性建築士は社会的地位が低いと感じられる環境であった、ということです。

また、発足した年の7月から部会の活動報告として情報誌の発行を始めました。会報誌の名前は「フフ」。初代部長の発足時の思いは、「男性の会員からは厳しい意見も出るなど嵐の中の船出だった、でもみんなで頑張ろう、フフフ・・・」。

月に1回開催する会議の中で記事内容について決定し、各自で記事を用意して担当者が編集、原稿を作成して会議をしながら印刷、発送まで行います。参加者でわいわいおしゃべりをしながらの発送作業で、とても楽しい時間です。

発送先は、現在は岡山県建築士会に所属している女性の方、及び理事の方にしてしています。桃色の用紙に印刷し、桃色の封筒に入れて、郵送で発送します。内容は、参加した勉強会や会議の報告、個人的な旅行記、部会からのお知らせ、そして、ホッとひといきという名のコラム等々、部員だけでなくさまざまな方に声をかけて記事執筆にご協力頂いています。

■女性集団としての存在意義

内閣府男女共同参画局作成の女性活躍・男女共同参画の現状と課題（令和6年6月）という資料によると、男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、社会全体でみた場合には、「平等」と答えた者の割合が14.7%、「男性の方が優遇されている」とする者の割合が78.8%（「男性の方が非常に優遇されている」14.0%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」64.7%）となっているそうです。また、日本において女性議員の比率や民間企業の管理職相当の女性割合について、上昇しているものの諸外国に比べると低い比率になっていることはよく知られた話です。



個人的な意見になりますが、女性部会の部長に就任してからの1年間、女性部会として女性だけで集まることの意義についてずっと考えてきました。学生の時期には、男女平等というワード自体を意識することなく過ごしました。男性が多い環境でしたが、対等だと思っていましたし、実際に女性だから不利益を被ることはなかったと記憶しています。そして現在土木分野で働いており、仕事の同僚や客先もほぼ男性という環境で日々仕事をしています。その中で、女性だから優遇されたと思ったことは確かにあります。しかし、不利益を被ったと感じたこともあります。

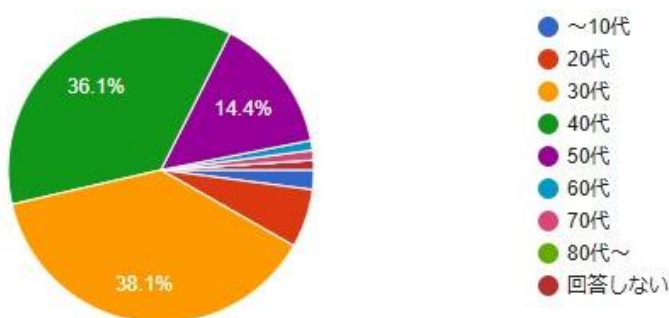
現在、岡山県建築士会の中には4つの部会があり、その中の3部会（青年部会、地域づくり部会、女性部会）が年齢や活動内容によってそれぞれ別れて活動しています。青年部会、地域づくり部会には所属するための年齢制限がありますが、性別の制限はありません。女性部会は年齢制限はありませんが、女性限定の部会です。岡山県建築士会全体の会員が減少している中で活動を継続していくにあたり、このような制限に意味があるのか、そもそも女性部会を解散するべきか、ここ数年抱えてきた課題について昨年1年間部会内外で議論を重ね、女性という制限をなくし、活動内容に興味がある人に対して広く門戸を広げることを決めました。

先日、6月8日に、「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック広島大会」が開催されました。その際に地域実践活動報告会で、「情報誌「フ」の発行と岡山の女性建築士」というタイトルで発表を行いました。発表の終盤で、参加者に簡単なアンケートをお願いしましたので、現状で集まっている回答について以下に掲載します。

世代の差なのか、自分たちが思っているよりも軽やかな意見に驚きました。すでに現状を担っている、そしてこれからどんどん活躍していく世代の人達の意識は確実に私たちとは変わっていると感じます。次世代の女性集団の在り方について、参加者の方々と議論できる場にしたいと思います。

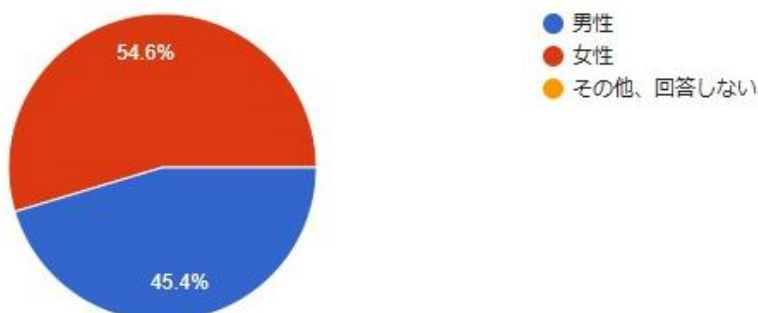
Q3：年齢は？

97件の回答



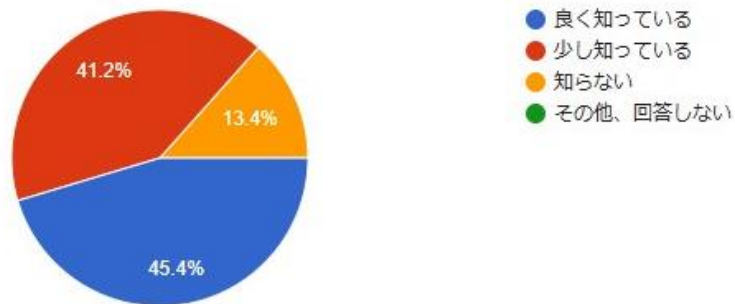
Q4：性別は？

97件の回答



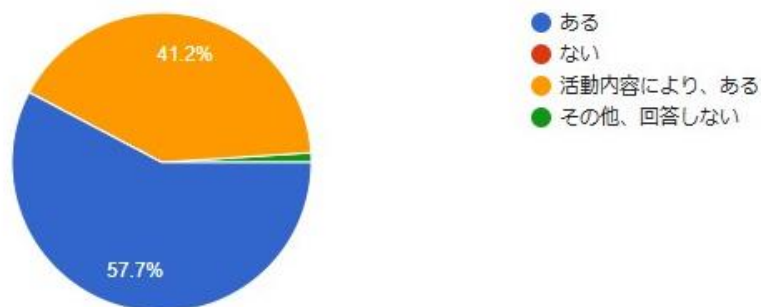
Q5：自県の女性委員会・部会の活動内容を知っていますか？

97 件の回答



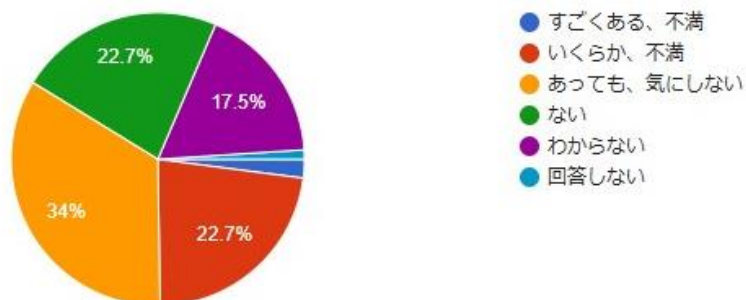
Q6：上記活動に男女の境なく参加できるとしたら、興味はありますか？

97 件の回答



Q7：今現在、建築士（業界）の働き方・役割など、性別の違いで不公平だと感じることはありませんか？

97 件の回答



Q8：今後、女性委員会・部会の在り方や活動について**変化が必要**だと思いますか？

コピー

97 件の回答



G分科会プログラム

■テーマ 未来につなぐ環境建築への取り組み ～地方の建築技術者が出来ること～

■分科会の趣旨

2050年までのカーボンニュートラルの実現や2025年からの省エネ基準の適合義務化を踏まえ、各県では環境建築への取り組みが行われています。

前半は、日射遮蔽や風通しの良い住まい、内外の境界を上手に使うことで環境調整を行う技術が発達して来た沖縄県の設計手法をご紹介します。

後半は、大分県建築士会が大分県より委託されて行なっている「建築物グリーン化促進事業」の技術者への啓発や県民への意識醸成に関する取り組みをご紹介します。

■司会 高橋 由美（大分県建築士会） アシスタント 盛高 麻衣子（熊本県建築士会）

■コメンテーター 松田 まり子（沖縄県建築士会）

1977年生まれ。沖縄県那覇市出身。一級建築士。

2000年東京都市大学(前:武蔵工業大学)工学部建築学科を卒業。
沖縄・東京で建築を学ぶ。

2010年NPO蒸暑地域住まいの研究会、理事長就任。

沖縄の気候風土にあった省エネ住宅の研究・普及活動を行う。

2019年松田まり子建築設計事務所設立。1児の母。



■コメンテーター 板場 奈美（大分県建築士会）

大分県大分市育ちで大学卒業後に広島組織事務所勤務、その後環境に配慮した木造建築等手掛けている東京の個人事務所に勤務していました。2015年後半に大分に戻り、一級建築士事務所もりのわ設計室を開設し、活動しています。令和4年度より建築物グリーン化促進事業小委員会の副委員長となり、大分県の方や他の小委員会のメンバーと共に活動を行っています。



コメンテーター 登壇時の様子

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00～ 9:05
2. コメンテーターによる活動報告	(40分)	9:05～ 9:45
休憩	(05分)	9:45～ 9:50
3. コメンテーターによる活動報告	(40分)	9:50～10:30
4. 質疑応答	(25分)	10:30～10:55
5. まとめ	(05分)	10:55～11:00

沖縄型気候風土適応住宅の特性を考える

(公社) 沖縄県建築士会 松田 まり子

1.はじめに

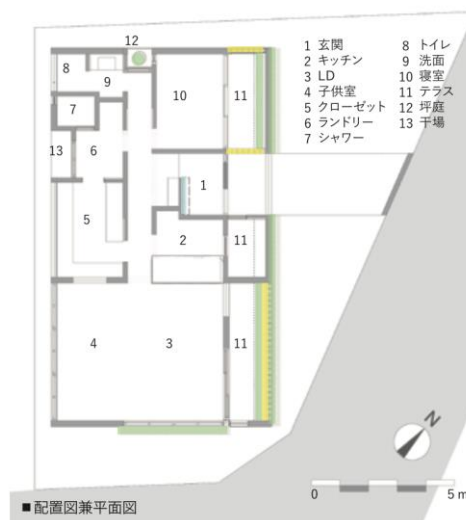
沖縄県では2022年4月に気候風土適応住宅認定基準を定めました。沖縄は、強い日射、年間を通して吹く強い風、高い湿度、台風による暴風という気象条件があり、日射による熱が建物に伝わる前に遮蔽したり、内部の熱を風によって逃がすなど、内外の境界を上手につくることで、環境を調整する技術が発達してきました。沖縄県の気候風土適応住宅認定基準では、これらの技術を用いた住まいを緩衝領域型住宅と呼んでいます。今回は沖縄の気候風土適応住宅についての考えを取り入れた住宅をご紹介します。

2.設計事例紹介

この住宅は低層住宅地の中で少し丘になったところで、風が通りぬけやすい場所にあります。過去の気象庁統計データによると一般的に快適温度とされる18°C以上28°C以下に日平均気温が記録されなかったのは、1月の17.6°C、8月の28.5°Cの2カ月だけでした。つまり空調をなるべく使用しなくても生きていける、暮らしていける外部環境があります。但し沖縄自体強烈な台風の常襲地でもあり、紫外線の強い場所ですので、風や日差しから守る必要があります。また雨水には海からの塩分も含まれており塩害が著しい地域でもあります。

温熱環境評価についても、断熱外皮の考え方が本土とは異なります。コンクリートの熱容量など特性を考慮すると、放射温度の検証が重要です。

所在地：沖縄県沖縄市
用途：一戸建住宅
規模：構造 RC造
階数 地上1階建
敷地面積 188.66㎡
建築面積 103.22㎡
延床面積 80.20㎡





①花ブロック、遮熱ブロックの評価

ここでは、ゾーニングプランによる輻射熱への対応、白色塗料、外壁に日射が直接当たらないようにする工夫である花ブロック壁や、遮熱ブロックを採用しました。

また西日を利用して洗濯物を乾かす、トップライトを設けて昼光利用やカビを生えにくくするなど太陽の恵みも大切に考えました。先人から受け継がれてきた花ブロック技術、また地下水をろ過する際に排出する副産物となる炭酸カルシウムペレットを活用した遮熱ブロックを採用し、沖縄におけるあたりまえの技術をきちんと評価することで、未来への継承を促すと考えました。

花ブロックは強風から守り、涼風を誘い、快適性をもたらします。さらには3大エネルギーである照明負荷の低減にも繋がります。開放的な住まい方で外気温との差を縮めることは、夏型結露の発生頻度を減らすこともできます。花ブロックを通した光は季節ごとに刻一刻と形を変え、生活に豊かさをもたらします。家族の声、テレビの音、料理の香り、夜になると室内からの灯りが花ブロックを通して地域へ漏れます。生活の気配は地域のコミュニティ形成、防犯につながります。日が暮れて暗くなっても、この建物の前を歩くと、ほっとするような優しい光を放っています。



②塩害対策・耐候性・材料選定・デザインの選択

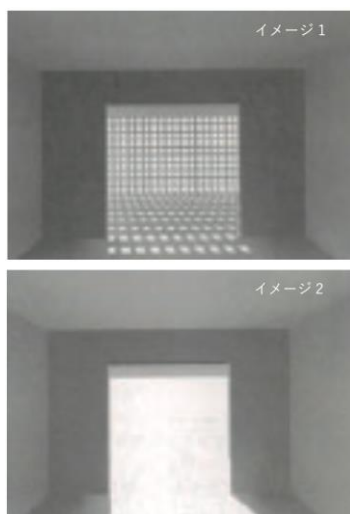
塩害対策として、雨風がなるべく当たらない位置に設備配管をし、耐候性を考慮した材料選定を行いました。耐候性の検証や災害時における入手可能性などを考慮すると地元の材料で、単純な構成とすることが持続的に有利だと考えました。建物の外観においても普遍的で合理的なデザインを採用することで長く愛される建物を目指しました。

③ 8地域に相応しいエネルギー消費量の削減

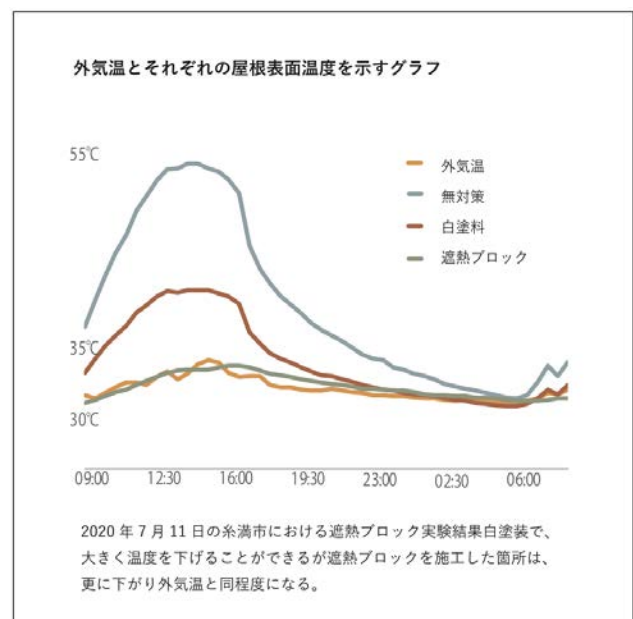
暖冷房が主要な使用エネルギー消費量である日本全土と比べ、蒸暑地である沖縄では単に外皮性能を高め冷暖房エネルギーを削減するだけでは、省エネ住宅とは言えません。沖縄における3大消費エネルギーは、冷房・給湯・照明エネルギーであり、バランスよく削減させていく必要があります。給湯に関しては高効率給湯を採用し、将来的に太陽熱温水器を設置することを考え、屋根に風除けとなるパラペットを一部高くしました。内外の照度差が大きいために昼間の照明を使いがちであることに對してハイサイドやトップライトを活用し昼光利用を可能としました。花ブロックは、光を拡散して室内に取り込むので、照明エネルギー削減にも貢献します。

■外皮性能 UA値 3.41 η AC値 8.6 一次エネルギー消費量73.7GJ/戸・年 BEI: 0.79

■未評価技術効果算入後 UA値 2.93 η AC値 2.8 一次エネルギー消費量57.6GJ/戸・年 BEI: 0.73

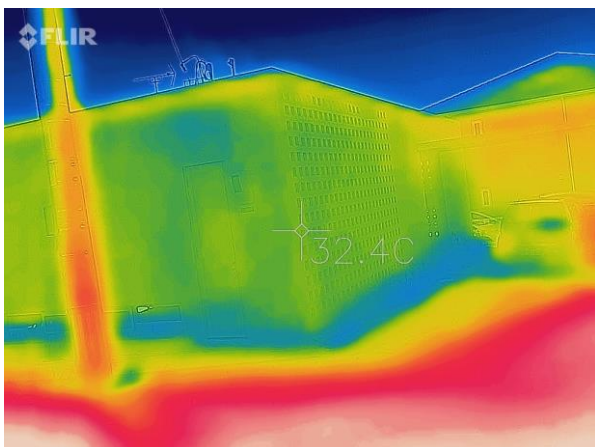


イメージ1・2 花ブロックを介して光を取り込むと拡散し、輝度分布が一定になり、明るく感じる。



④未評価効果の算出における削減エネルギー量

外皮断熱ではなく、外皮に熱が伝わらないようにする遮熱の考え方は、歴史的に沖縄建築設計者が多様な方法で行われてきました。花ブロック、遮熱ブロック、遮熱塗料、さらに壁面緑化も気化熱による遮熱の一種と言えます。現在未評価である日射遮蔽技術を省エネ評価することで、培ってきた技術や文化を継承することに繋がることを願っています。



建物を白く塗装し日射反射することで建物自体の表面温度を抑えることができる。

⑤ 24時間換気義務化の免除

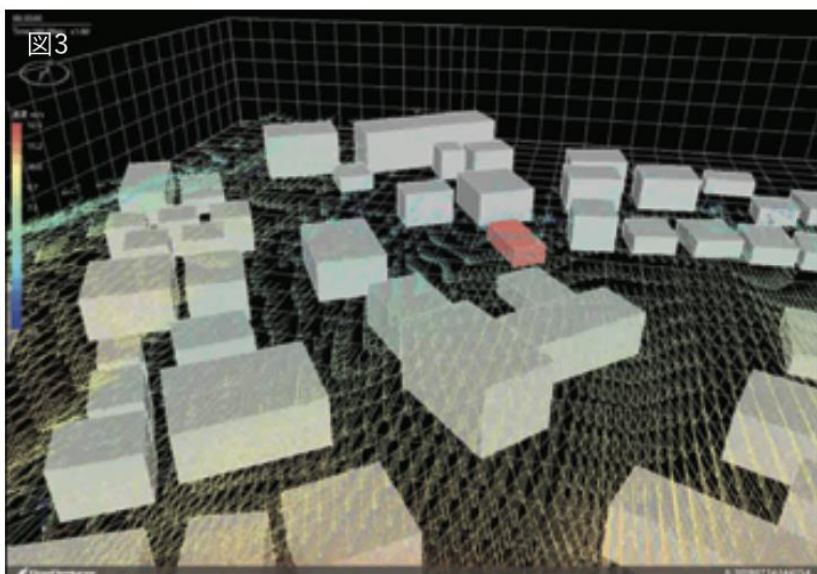
沖縄の住まい方を考えると、いわゆる省エネ住宅の基本である高气密高断熱の仕様の1択ではなく、別の選択肢も有り得ます。例えば、逆に気密を低くし、常時開放窓を設け、家全体の空気が隙間から流れることは、換気を含め空調設備に依存せずに穏やかに暮らす沖縄の住まいのあり方の一つだと考えました。たとえ災害時、真夏日に数日停電が続いたとしてもエネルギーに依存せずに木陰のような涼しさの中、暮らしていける形を目指しました。

■断面図



⑥土間断熱効果・湿度対策

あえて床下は設けず、地熱による冷却防止のために全ての室内床土間にシロアリ対応の断熱材を施工しています。土間断熱効果は、感覚的には良い結果をもたらすことが分かってきましたが、今回はその効果を可視出来るように半外部空間にボーダー状に配置しサーモカメラで効果がわかるように施工しています。土間床の温度を地熱から断熱することで夏型結露が原因であるカビの発生頻度を減らす効果を期待しています。また室内で発生する水蒸気とともに屋外から流入する熱と湿気の動きを踏まえ、CFD解析を行いゾーニング検証して設計に取り入れました。



卓越風がなく各方位から通風が見込める。また一日から数日をかけて風向きは一周することがわかった。

3.おわりに

昨今、木造を主体とし考えられた省エネ住宅の推進が国によって先導されていますが、沖縄の建築物のストックは9割がRC造です。このRC文化の発達により、沖縄は災害被害から命を守る地域になりました。今後はシェルターとしての機能を保ちつつも、健康に暮らせる快適性を検証・評価することが必要なのではないかと考えています。

大分県建築物グリーン化促進事業の取り組みについて

(公社)大分県建築士会 板場 奈美

1. 建築物グリーン化促進事業とは

2050年までのカーボンニュートラルの実現や2025年からの省エネ基準の適合義務化を踏まえ、各県で環境建築への取り組みが行われている中、脱炭素社会に向けた省エネ建築物の普及促進のための事業となります。

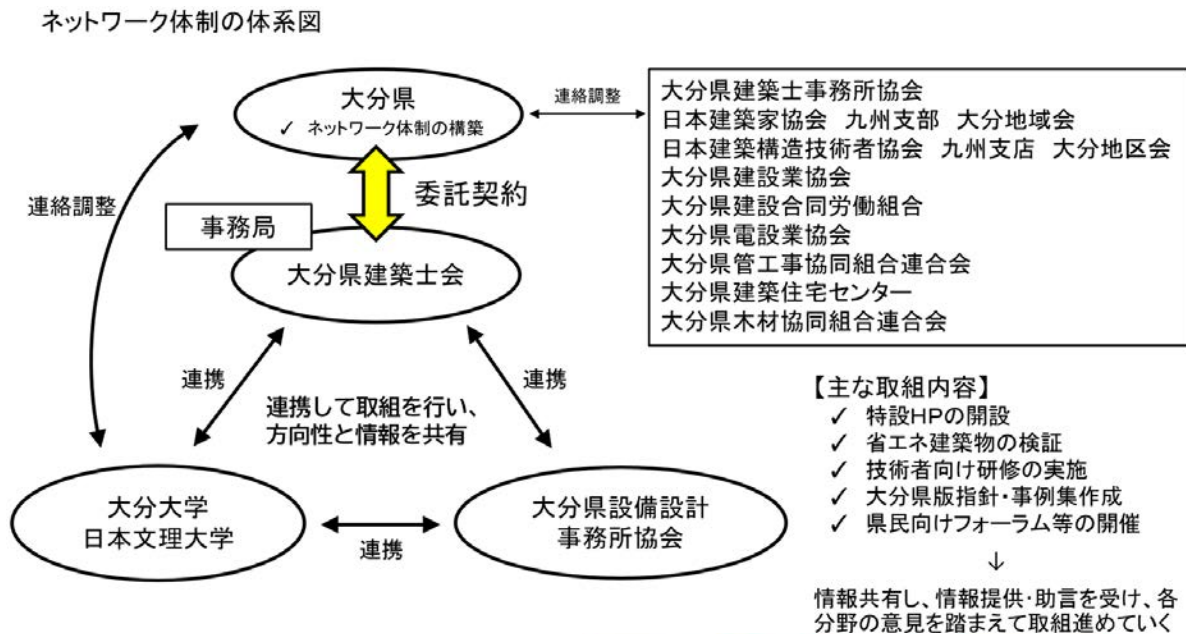
2. 建築物グリーン化促進事業の概要

省エネ建築物の普及促進への体制を整備し、住宅・建築物の環境品質の向上を目指すものです。

内容は①ネットワーク体制の構築、②省エネ建築物の検証、③技術者への啓発、④意識の醸成となります。令和4年度、5年度の活動内容を紹介していきます。

3. ネットワーク体制の構築

まずは大分県建築士事務所協会等をはじめとする建築関係団体、建築教育団体等の団体でネットワークを構築しました。このネットワーク団体の代表を集め、令和4年度、5年度共2回ずつネットワーク会議を開催しました。そこで情報を共有し、助言を受け、各分野の意見を踏まえて取組を進めていきました。



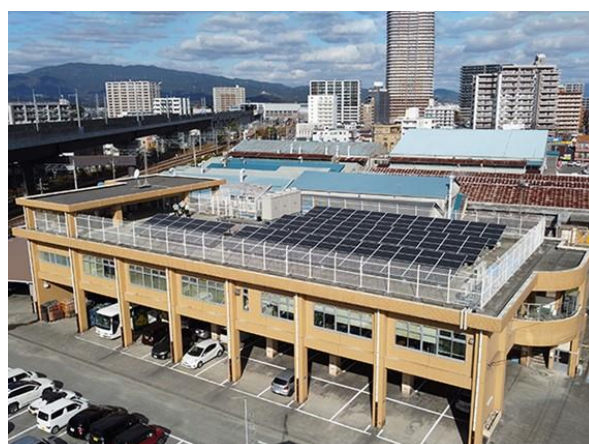
ネットワーク会議の様子

4. 省エネ建築物の検証

はじめに大分県内省エネ建築物状況を調べるところから始めました。ZEBの実績（令和4年8月時点）はZEB：3件、Nearly ZEB：3件、ZEB Ready：1件となっています。ZEHの実績（令和2年（一社）環境共創イニシアチブ）については、ZEH：1243戸以上、Nearly ZEH 74戸（新築住宅総数6352戸）新設住宅に占めるZEHの割合約19%という状況でした。まずはZEB建物の実態を把握すべく、現地視察を行いました。左下が大分県内初のZEB建物である日本電工本社ビル、右下は大分県内に改修ZEBの事例がないため、久留米市まで足を運び、視察させて頂いた、久留米市環境部庁舎です。



日本電工本社ビル



久留米市環境部庁舎

現地視察等で集めた情報を元に、省エネ建築物事例集概要版をA3の2つ折の冊子を作成、詳細版は大分県建築住宅課の建築物グリーン化促進事業の特設ホームページ内にアップしました。

5. 技術者への啓発

技術者への啓発として、上記の省エネ建築物事例集作成の他、①技術者向け研修会の開催、②特設ホームページの作成、③大分県版省エネ住宅設計指針の作成等行いました。①～③について具体的に説明していきます。

①技術者向け研修会

令和4年度第1回目は建築物グリーン化促進事業の内容について、2025年省エネ義務化に向けた動向、上記の日本電工本社ビルの事例紹介を行いました。2回目は主に非住宅建築物を対象とし、講師の(有)ZO設計室 柿沼整三氏に「中小規模建築物の最新の省エネ事例について」、講師の(一財)大分県住宅センターの方には「省エネ適判申請の留意事項」について講義をして頂きました。



令和4年度第1回目技術者向け研修会



令和4年度第2回目技術者向け研修会

令和5年度は住宅を中心に研修会を組み立てました。第1回目は講師のMs建築設計事務所代表取締役三澤文子氏に「既存住宅を改修して住み継ぐこと」、県内事業者による「改修事例紹介と講師による講評」の内容で行いました。第2回目は講師の住まいと環境社代表野池政宏氏に「内部結露に関する基礎知識」、県内事業者による「省エネツール活用事例と講師による講評」という内容で行いました。



令和5年度第1回目技術者向け研修会



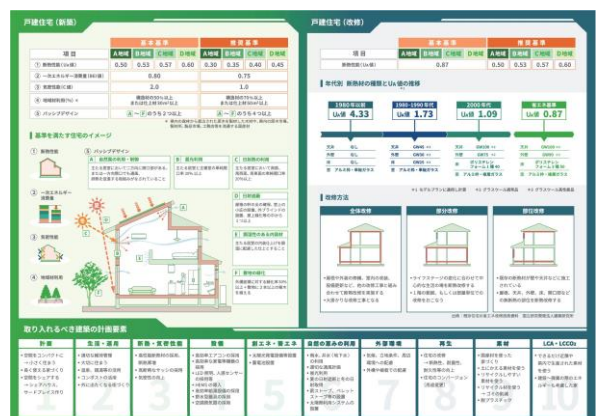
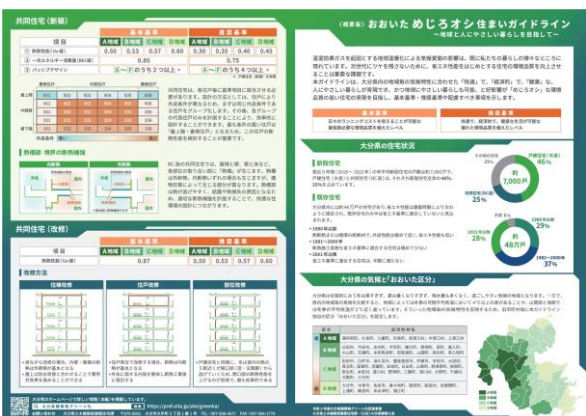
令和5年度第2回目技術者向け研修会

②特設ホームページの作成

令和4年度に建築物グリーン化促進事業の特設ホームページを作成し、令和5年度初めにアップしました。内容は①補助金・減税・融資、②講習会、③事例集、④用語集、⑤相談窓口、⑥リンク集になります。「大分県建築物グリーン化」で検索して頂くとホームページを閲覧出来ます。

③大分県版省エネ住宅設計指針の作成

令和5年度に大分県版省エネ住宅設計指針の作成を行いました。ネーミングは「おおいためじろオシ住まいガイドライン～地球と人にやさしい暮らしを目指して～」です。対象は、戸建住宅（新築・改修）と共同住宅（新築・改修）となります。特徴としましては①日々のランニングコストを抑えることが可能な最低限必要な環境品質を備えたレベルの基本基準、快適で、経済的で、健康な生活が可能な優れた環境品質を備えたレベルの推奨基準を設けたこと、②大分の地域区分は5～7地域に該当していますが、冬の最低気温の差と山間部と海側での標高による気温差を調査の上、旧市町村毎に本ガイドライン独自のA～D地域からなる「おおいた区分」を設定したこと、③断熱性能だけでなく、気密性能、地域材利用、パッシブデザインに関しても基準を設けたことにあります。本ガイドラインの本編は特設ホームページ内で公開予定です。下のA3の2つ折冊子の概要版は建築技術者に配布し、本ガイドラインの普及・促進に努めます。



おおいためじろオシ住まいガイドライン 概要版

6. 意識の醸成

意識の醸成については技術者というより県民に広く脱炭素社会に向けた建築の取組について理解してもらうために行った事業です。主な内容は①県民向けフォーラムの開催、②啓発チラシの作成等になります。①と②について具体的に説明していきます。

①県民向けフォーラムの開催

令和4年度は「からだの家計にやさしい住まいの省エネセミナー」と題し、大分市内で開催されました。第一部は講師に近畿大学副学長の岩前篤氏に「住宅と健康」という内容でご登壇頂き、第二部は前段の岩前氏他、住宅金融支援機構の方、大分大学教授、大分県内の工務店の方にご登壇頂き、トークセッションを展開してもらいました。

令和5年度は「住まいから考えるわたしたちと地球にやさしい暮らし」と題し、別府市と臼杵市の2回開催されました。1回目の第一部は講師のみかんぐみ共同代表の竹内昌義氏に「脱炭素社会の建築」という内容でご登壇頂き、第二部は前段の竹内氏他、県内設計・施工従事者、うちエコ診断士、建築学生にトークセッションを展開してもらいました。2回目の第一部は講師の住宅技術両論家南雄三氏に「子ども達の幸せな未来とお年寄りの健康長寿を求めて」という内容でご登壇頂き、第二部は臼杵市内の小学生10名による省エネに関する発表会を開催しました。



令和4年度県民向けフォーラム

令和5年度県民向けフォーラム

②啓発チラシの作成

A3の2つ折冊子を5,000部製作しました。県内のイラストレーターの方と協働作業で、イラストを多めにし、より分かりやすく伝える様に務めました。タイトルの「省エネ住宅のすゝめ」の「すゝめ」は、大分県出身の福沢諭吉の「学問のすゝめ」からとりました。啓発チラシは建築士会員をはじめ、令和5年度の県民向けフォーラムの際に配布しました。

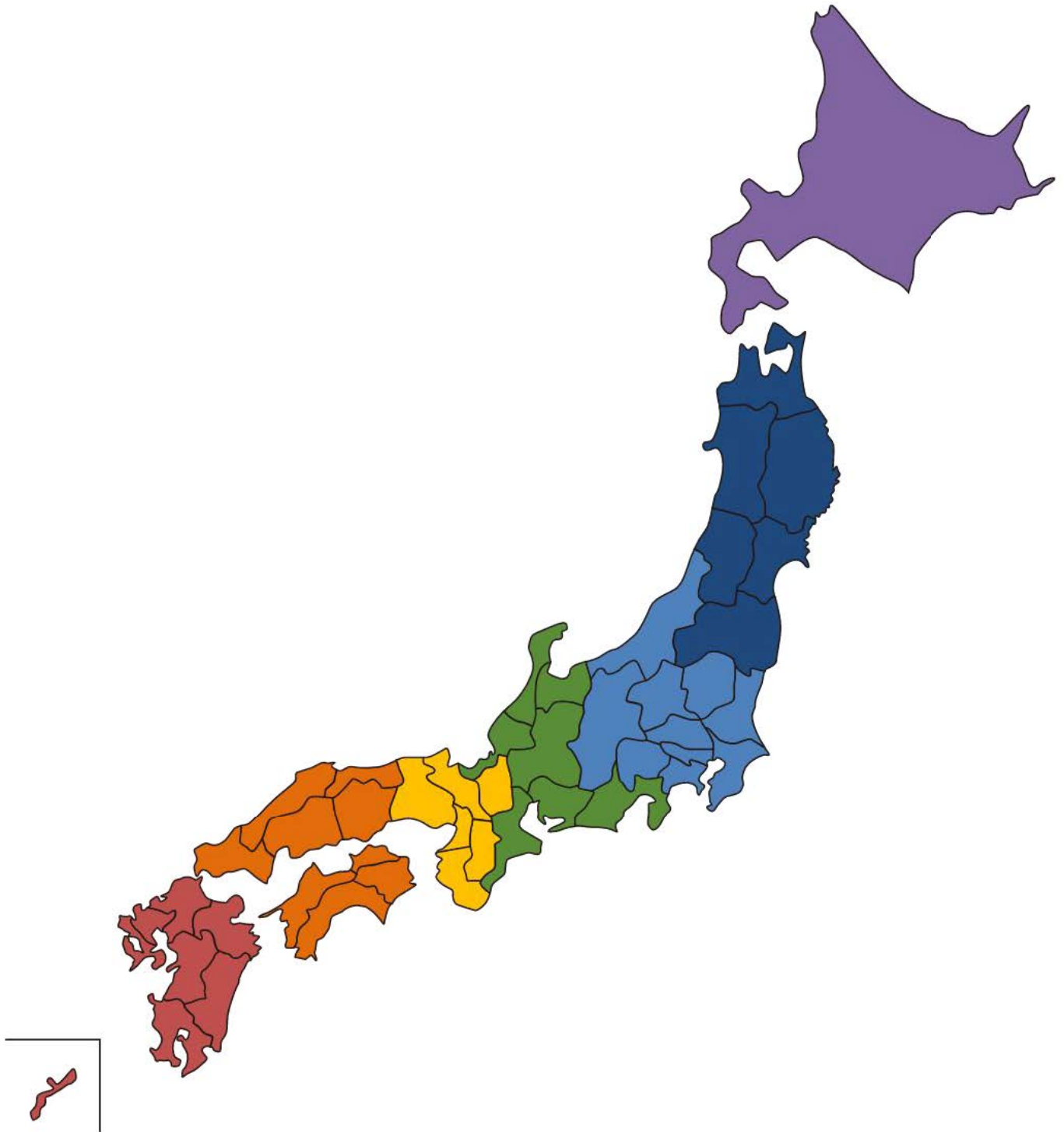


啓発チラシ「省エネ住宅のすゝめ」

8. 最後に

令和6年度で3か年に渡り行ってきました建築物グリーン化促進事業は終了する予定です。ですが建築物の脱炭素化に向けた取り組みは未来の子供たちの環境を守るためにも継続していく必要があります。これまで建築物グリーン化促進事業を通して培った知見を元に今後も何かのかたちで建築士会員一丸となり取り組んでいきます。

8 女性委員会（部会）活動報告・アンケート集計



北海道

全道女性建築士の集い

- ・開催日程 9月30日(土)・参集規模 33名参加
- ・内 容 小樽北運河界限まち歩きを開催しました
(UNWIND HOTERU & BAR 石塚和彦氏から古いホテルをスクラップ&ビルドするのではなく、既存の良さを再現した改修のお話を聞きました
また、同じように古い建物を生かした、小樽百貨UNGA、『和の空間』にも掲載されているCafé White(旧岡川薬局)の見学と解説を聞く事が出来ました
- 全道大会(北空知大会) A分科会の企画・運営
- ・開催日程 9月2日(土)・開催場所 深川市・参集規模 25名
- ・テーマ 「新田舎暮らしは暮らしやすいまち」
- ・内 容 行政の方、地域おこし協力隊の方、移住者されてきた方々を招き「新田舎暮らしは暮らしやすいまち」をキーワードに全員参加のディスカッションで私たちが住む北国の魅力を再発見する機会になりました

青 森

令和5年度は、東北ブロック会あおり大会(令和5年9月16・17日)の企画準備が活動メインになりました。大会は市民参加型の会場で開催し、市民や地元高校生も参加しました。内容は地元若手建築デザイナーの基調講演・各県活動報告トークセッション、展示は各県の活動動画・女性建築士の横顔(仕事)インタビュー動画を放映。青森県の活動報告は「魅力ある和の空間」2物件の建物&見学会の様子を紹介した解説付き動画、インタビュー動画は若手女性建築士と女性建築士で書家として活動の会員を取材(子育てと仕事の両立などにも触れた内容)。今後、動画は建築士会女性委員会を知ってもらうきっかけに活用します。他に庭園見学会も開催しました。今年度は新規会員の要望を積極的に取り入れ、若手中心に時代に合った発信&活動へとシフト出来るよう進めて行きたいと思えます。

岩 手

【令和5年度活動報告】

4月:講演会(会場:田野畑村思惟創館)及び見学会

思惟創館改修工事の監理を担当された、雷設計事務所 雷氏にご講演いただきました。「思惟創館」を見学し、次の日には「道の駅たのはた思惟の風」(古谷誠章+NASCA)、「旧田野畑中学校寄宿舎」(早稲田大学穂積研究室)などを見学しました。

11月:「ダンボールハウス」WS+「魅力ある和の空間」パネル展

盛岡市内のイベントスペースをお借りして親子向けのWSと「魅力ある和の空間」パネル展を開催しました。

【令和6年度活動報告・予定】

4月:講演会(会場:住田町イコウエルすみた)及び見学会

「住田町役場庁舎」(前田建設工業)、「大船渡消防署住田分署」(SALHAUS)等の施設を見学後、住田町役場建設課 田畑耕太郎氏に「住田町の木造公共施設から、発注者の職能を考える」と題してご講演頂き、次の日は、陸前高田市内の「普門寺三重の塔」、「旧吉田家住宅主屋」改修工事現場を見学をしました。今後の予定としては、7月に「ダンボールハウスWS」+「魅力ある和の空間」パネル展を北上市内で開催予定。同イベントを盛岡情報ビジネス専門学校デザイン科と共同開催予定です。

<p>宮 城</p>	<p>『角田市郷土資料館（旧氏丈邸）：魅力ある和の空間掲載』災害復旧工事見学会（東日本大震災による復旧後、2021年福島県沖地震で再被災） 『語ろう学ぼう木の建築講座（継続）』（WEB研修会）年4回の開催 『記憶の中の住まい』冊子（クラウドファンディング 支援金約140万） 多くの建築士の皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。 『お泊まり研修会（継続）』子供3名参加（感覚ミュージアム・寒梅酒造等見学 温泉宿泊） 『東・西和食文化の相違から眺めた建築』 『建築と私（継続）』（仙台支部女性部会ほか共催）「天守のナゾを解く-白石城の変遷-」と ミニ畳づくりワークショップ（畳でおもてなしプロジェクト実行委員会）+懇親会 次年度企画 上記（継続）と記載の事業のほか、（仮）仙台市内古地図で散歩や青年地域実践活動「（仮）多賀城南門を段ブロックで作ろう」への協力予定</p>
<p>秋 田</p>	<p>『令和5年度活動報告』コロナが終息、また、あきた大会も無事終了し、延期していた「親子体験学習・気持ちのいい家つくろう」の活動が再開。初めて能代山本地区で待ちに待った現地開催が行われた。女性委員13名、青年・親会から12名の参加協力を得て、9家族・19名の親子の制作補助にあたることができた。この事業も16回目。今回で県内8地域すべてにおいて地域貢献できたことは嬉しいことである。9月東北ブロックあおもり大会は17名で参加。2月第3回学習会は、メンバーの体験学習として金属工芸に初挑戦。年度末、女性委員会だよりを発行。 『令和6年度活動計画』第1回学習会は、「秋田の酒の魅力」と題して発酵文化について聴講。また、10月には、R4年あきた大会にて、「国際教養大学図書館の見学」に募集が殺到し東北の方々を泣く泣くお断りしなければならない経緯がありそのお詫びを込めて、図書館を含む見学会「東北ブロック見学会inあきた」の開催に向けて準備活動中である。</p>
<p>山 形</p>	<p>[令和5年度活動報告] ・東北ブロック会参加・全建女石川大会18名参加 ・緑のカーテン写真コンテスト ・第5回建築女子フォーラム・・・～歴史的風致探訪「国指定史跡 松ヶ岡開墾場」自然と歴史を感じて～・・・講演会「酒井家19代 酒井忠順」歴史ある藩祖と藩校「致道館」から明治維新を経て松ヶ岡開墾に至るお話から、今現在そして未来へ向けてどのように伝承していくべきか興味深い内容でした。由緒ある家柄、土地、家、当主自らの講演でとても面白かったです。もちろん！その後のランチも地元の大学の教授が設計したワイナリーレストラン！美味しく、素敵でした。 ・女性委員会広報誌「あれこれ」3回発行 ・みなさん！来年は全建女「山形大会」です。「自然・食・酒」共に「素敵・旨い・嬉しい」が揃ってます。ぜひ皆様いらして下さい。お待ちしております！</p>
<p>福 島</p>	<p>令和5年度活動報告 【第34回女性建築士のつどい】R5年11月11日（土）福島市 コラッセふくしま 対面+WEB開催 午前はまち歩き、午後から基調講演や活動報告など、通常開催した。 【次世代育成プロジェクト】R5年6月24日（土）郡山市にて「おはなし会」を開催。青森県建築士会 常務理事兼まちづくり委員長、南黒支部相談役 筧 正明氏より、ご自身が行ってきた活動について、昼食をとりながらお話を伺った。 ※年3回の女性委員会会議は、Zoomを活用しつつ開催した。 令和6年度活動計画 【第1回 福島県 建築士のつどい】 R6年9月20日（金）・21日（土）檜葉町 Jヴィレッジ他 20日～21日AM：エクスカージョンとフィールドワークで周辺地域の施設等見学、21日PM：青年委員会と合同でつどい開催予定。原発視察など、リアル参加重視の観点から、WEB配信はしない方針。※年4回の女性委員会会議は、Zoomを活用しつつ開催して行く。</p>

茨 城	茨城の女性委員会活動ですが、わくわくセミナーとラブアークセミナーを計15回開催しました。内容としましては「補助金活用で省エネ化」「シーリング材について学ぶ」「蓄熱の考え方を知る」「快適省エネ住宅のセミナー」など計8回のセミナーを開催、施設見学会を2回、ワークショップを3回。それから毎年恒例となっている「わくわくの企画会&新年会」と「ラブアークの企画会&新年会」を開催いたしました。それから、ひたちなか支部では地域のイベントで、魅力ある和の空間ガイドブック茨城版を展示しました。そのほか、建築士会会員美術展の女性委員会コーナーでは、これまでにワークショップでつくった作品や、全建女石川大会でつくった畳コースター、女性委員会20周年のポスターパネルなどを展示いたしました。ようやく通常の活動ができるようにはなりましたが、コロナ禍での自粛や行動制限の影響もあってか、コロナ前に比べると各セミナーの参加者が少なくなっているようでした。
栃 木	和の空間でもご紹介した「飯塚邸」へ見学と新年会も兼ねて宿泊研修を行いました。有形文化財をホテルにしている建物についても参考になる事例ですが、マーケティングや地域活性のための施設造りもとても勉強になりました。その他にもグリーンの勉強会やイベントへの参加など積極的に活動することができました。女性委員会で発行している広報誌「モンビュール VOL'82」を別途メールで転送します。
群 馬	群馬建築士会女性委員会の活動としては、「女性委員会の集い」、「環境講座」を開催しました。集まることに抵抗が減り、例年より多くの参加者になりました。「環境講座」の内容は、レーモンド設計の群馬音楽センター、旧井上房一郎邸双方に関わる建築も含めて、建築に至るまでの市民との関わりなど3人の講師をお招きし、様々な面から多くのことを学ぶことができました。国登録有形文化財の豊田屋旅館での昼食、建築女子ならではの視点から会員の作成によるMAP「高崎まちなか建築散歩♪」を用い、まち歩きも楽しみました。年度が変わる時期に県内各支部の女性部長にアンケートを行い、活動状況など確認しました。会員減少による活動継続の課題や、地域の建築に関心は高いものの、見学の機会がない様子なども知ることとなりました。女性委員会会議は2回開催です。県内各支部の事業も増えつつありますので、次年度の活動への期待が増しています。
埼 玉	埼玉建築士会女性委員会の活動は見学会・勉強会・新年座談会を行いました。令和5年7月15日に宮代町の「進修館」「笠原小学校」の見学会では30名にご参加をして頂きました。また、勉強会として、令和5年11月7日、埼玉の銘木「西川材」の産地飯能市にて「森と木材活動について学ぶ」というテーマで、実際の森で「森林認証について」や「山の取り組み」を学び、実際にその木材を使用した建物と建具工場の見学を行い21名にご参加いただきました。新年座談会として、令和6年1月27日東京都渋谷区の有形文化財のフランス料理レストラン「メゾン・ド・ミュゼ」にて参加者16名で行いました。尚、次年度の事業といたしまして、災害にかかわる事が何かできないかという事で実際に災害時に問題となっている仮設トイレについて取組んでいく事に決めました。災害の少ない埼玉ですが少しでも役に立てればと考えておりますのでもし良い情報などいただけたら幸いです。
千 葉	令和5年度 活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・逃げ地図ワークショップin銚子 2023.9.23 ・冊子「地震いつもの備え」建築士の日事業にて普及 2023.6.25 ・松戸市 「戸定邸・戸定邸庭園」視察 ・江戸東京たてもの園 見学会 2023.5.19 ・建築と子どもたちワークショップフォトコンテスト リハーサル 2024.3.25 ・介護講座 ステップアップ講座 3回開催 2023.8.25 2023.10.13 2024.3.8 ・介護特別講座 国際福祉機器展見学 2023.9.29

東京

2023年5月の公開シンポジウムで取り上げた山田初江さん関連でご縁がつながり、7月17日に山田初江さん設計の堀田邸が原設計に近い形で改修されたのを見学させていただきました。ちょうど委員の入れ替わりのタイミングでもあり、新旧委員が参加しました。11月15日には、清水建設東京木工場を見学させていただきました。23区内に意外なほど大きな木工場があることに驚き、職人さんが技を磨き製作に励むエリアも、大型案件の木部材の展示もあり、大変見応えがありました。東京木工場は既存施設を順次解体しながら建替が進んでおり、2025年10月にグランドオープンだそうです。12月14日と2024年2月27日の委員会では、各々の関心と今後の委員会活動の方向を絡めて話し合いました。本委員会がこれまで掲げてきた「住み継ぐ」というキーワードの他にも、昨今の世の中を反映し木材活用や、働く環境のあり方等への関心も高く、リアルな情報を集めながら、今後の活動へどのように発展させていくか、委員会として引き続き考えていきたいと思えます。

神奈川

神奈川県では令和4年に開催した小学生対象職業体験イベント「はまっこスクール」の成功体験を令和5年に新潟県で開催された青年関東ブロック大会にて発表を行いました。「新潟組」と名付けた発表チームは女性委員会と青年委員会とで構成されており、何度も打ち合わせを重ね、時に料理上手な青年委員が手料理を振舞うなど、一丸となって目標達成に取り組む事ができました。その成果があったか、新潟県建築士会のシンポジウムに招待を受けまして女性委員の有志5名で新潟県長岡市に出向き、新潟県幹部の皆様との交流を深める事ができました。将来の建築士に手綱を渡す活動として、先日は元高校教諭を交えた「高等学校における住居学」という建築士として学校教育にどう関わる事ができるかのディスカッションを行い、将来の可能性を感じたところです。「新潟組」の取組みは令和9年の全建女神奈川大会開催招致へと繋がり、神奈川県女性委員会は今後更なる盛り上がりが見込まれます。

山梨

- *6月21日・・・「住宅外皮性能計算の勉強会」
- *7月28日・29日・・・全国女性建築士連絡協議会（石川）
- *10月23日・11月6日・・・甲府工業構造伏せ図指導
- *10月27日、28日・・・建築士会全国大会（しずおか大会）
- *2月4日・・・新年会
- *2月23日・・・建築士の集い参加

今年度は甲府工業高校へ設計製図の授業の指導を2日間にわたってしてきました。構造伏せ図が書けるようになったと好評でした。また新年会を久しぶりに行い、22名の出席者があり親睦が深められました。

長野

- ① 第15回信州環境エココンテスト開催 R5年12月10日(日)
テーマ「うち来る？」友だちに見せたい我が家のゲストルーム
一次審査：書類審査 応募総数5校171名
二次審査：公開審査 一次審査通過作品（8作品）による作品のプレゼンテーション及び審査員からの質疑
ワークショップ：高校生と建築士による交流企画
- ② 第36回青年・女性建築士の集い開催 R5年2月23(金・祝)
各支部の地域実践活動発表又は支部活動報告
ワークショップ：防災クロスロードゲーム
意見交換や協力し合うことで、学生や他支部の会員と交流を深められる企画ができたと思えます。

<p>新潟</p>	<p>令和5年度活動報告 令和6年1月30日(火) 「魅力ある建築士会活動をするために、私たちに何が出来るか」を考えるシンポジウムを開催 神奈川県建築士会女性委員会様からもご参加いただき、子供向けに行った活動の成功事例についてご講演いただきました。 また、県内の各支部で行われてる活動についての報告や意見交換なども行いました。 他県の女性委員会の活動を知り、そのノウハウを知る機会になったと同時に良い交流の場になり刺激を受けました。今後の活動の参考になるシンポジウムとなりました。 令和6年5月22日(水)「魅力ある和の空間 渡邊邸・蔵春閣見学会」開催 ガイドブックに推薦した「魅力ある和の空間」をめぐる見学会の第4回目(最終章)となります。 耐震改修等の保存修理工事を手がけた施工者、ヘリマネからのガイド付きで見学会を実施しました。</p>
<p>愛知</p>	<p>① 建築総合展にて防災セミナー「みんなの「やる気」で未来へつなぐ減災」(会員・一般向け) 令和5年5月12日(金) 講師：阪本真由美氏(全国災害ボランティア支援団体ネットワークJVOAD) ② すまいのえほんワークショップ(一般市民向け・住育に関する活動) ・令和5年8月30日(水) 八事東山鳩第三子ども会出張開催 ・令和5年11月23日(火) 犬山市立図書館ブックキャンプ出張開催 ・令和6年2月7日豊田市立松平子ども園出張開催はインフルエンザ流行のため中止 ③ 見学研修会「旧川上貞奴邸萬松園・犬山城耐震改修工事解説と見学」(会員・一般向け) 令和5年11月10日(金) 講師：萬松園：現地ガイド 犬山城：犬山市都市計画課野村氏 ④ 講習会「気候変動のおはなし～私たち一人ひとりができること～」(会員・一般向け) 令和5年10月1日(日) 講師：谷口たかひさ氏(環境活動家) ⑤ その他 定例委員会12回/年、 会員向けメール配信、 会報誌・HPでの発信</p>
<p>岐阜</p>	<p>令和5年度は、見学会2回、セミナー1回、たくみ女子会1回、「らくだ」という会報誌の発刊を2回行いました。 『タイル工場見学』では、陶磁器の産地である多治見市の日東製陶所で、原料から釉薬の調合、焼き上げに至るまで、製造工程を見学しました。 『エレベーターの試験棟ソラエの見学』では、三菱電機の稲沢ビルシステム製作所を視察し、スパイラスエスカレーターやエレベーターの仕組み、安全性について説明を受けました。また、173mの試験棟の上部まで上昇するエレベーターに乗り、振動の少ない事を体験しました。 『イメージアップ講座』では、美容師さんにフェイスマッサージ、頭皮マッサージの方法などを教えて頂きました。 『たくみ女子会』は、県立国際たくみアカデミーと岐阜県建築士会が共催し、県内の女子学生と現職の女性エンジニアとの交流を図るもので、6回目の開催となりました。女性委員会の桂川さんが講師でカラー講義を行いました。その後グループトークをして学生さんたちの質問に答えたり、建築の仕事内容について説明したりしました。学生および一般求職者20名に参加いただきました。 また、『令和6年度ブロック美濃・関大会』に向けて、青年と共同で準備を進めています。</p>

三重

三重県では毎年県内の工業高校やデザイン科のある高校へ出向いて「出前授業」を行っております。将来建築士を目指す方はもちろん、進路を悩んでいる生徒さんに向けて少しでも建築士の仕事に興味をもってもらうという目的で委員の方や外部講師を招いて講義をしております。デザイン科の生徒さんは女性が多く、空間デザインの講義はとても興味をもっているようでした。毎年講師は違う方をお願いしておりますが、毎回いろんな分野のお話が聞けて私自身も参考になる内容も多く勉強になります。又、出前授業以外の活動として、昨年は女性会員の方へ向けてアンケート調査を行い、普段されている仕事の内容や女性建築士としてよかったこと、逆に困ったことなどの実情を知ることができました。同じ女性として共感できることもありましたし、勤務先により仕事の内容が異なるので回答に差があることもわかりました。ある程度年齢を重ねている方が認めてもらえるなどの意見もあり、建築士としてのキャリアも重視されていると感じました。今後も勉強会などの意見交換の場を積極的に企画したいと思います。

富山

令和5年度（2023年度） 活動報告

1) スマホカメラ講座

開催日：令和5年9月2日（土）10：00～12：00

会場：よいとこ井波、国登録有形文化財やえもんや

講師：中西優氏（フォトグラファー）

参加人数：16名（講師及びスタッフ含む）

スマホカメラ撮影のコツを知り、ワンランクアップした写真の撮り方を学ぶ。

2) 国宝勝興寺見学会

開催日：令和5年11月11日（土）13：30～15：30

会場：雲龍山勝興寺

講師：高岡市教育委員会文化財保護活用課 上村文則氏

参加人数：28名（講師及びスタッフ含む）

平成の大修理が令和3年に終了し、令和4年国宝に指定された勝興寺の見学会。

石川

昨年度、全建女石川大会を開催することができまして、準備会から会員同士の連絡も密になり、みんなで事業をやり遂げた達成感から大会後は女性委員会のメンバーロスになる会員も出るほど団結した絆ができたように思います。

その半年後に起こった能登半島地震では、発災直後から相互の安否確認やその時に使える情報の提供、現在のご自身の状況から感じていることなど、全建女準備会用に作成したメーリングがリアルタイムな会員の情報交換の場として使われました。建築士の仲間との情報交換は非常事態で混乱する中でもとても心強かったと思います。

石川県は今年は、まず被災地の復旧に私たち女性委員会として今できることが何かを検討しております。被災地の復旧復興はまだまだ先が長く、問題も大きすぎて自分たちにできうらほと思い悩んでおりますが、会員が様々な立場から見聞きしている情報を共有し、被災地の方の日々変わる問題や困りごとに寄り添っていくことを会員皆さんで考え活動してゆきたいと思っております。

福井

○見学会 丹巖洞草庵（福井市）

江戸時代後期の弘化3年(1846)に福井藩医・山本瑞庵が別荘として建てた草庵を見学しました。藩主松平春嶽をはじめ、横井小楠、橋本左内、中根雪江などがここを訪れ、密議を凝らしました。現在は料亭となっており見学のあとお料理をいただきました。

○住教育事業（2013年度より継続事業／青年部共同事業）

2024年2月4日（日） おおい町図書館（小学生12名）

2024年3月9日（土） 鯖江市立立待小学校準備会

2024年3月13日（水） 鯖江市立立待小学校（5年生99人）

○えいじゅ通信の発行

青年部が発行する「かわらばん」に女性委員会の情報発信をする「えいじゅ通信」を毎月掲載しています。

○ふくい建築情報フェスタ

2023年6月25日（日）親子工作コーナー（青年部と共同事業）

○定例会議 4回実施（対面）

<p>滋 賀</p>	<p>滋賀の女性委員会主催事業のDOシリーズNo.86は、和歌山県有田郡湯浅町の湯浅伝統的建造物群保存地区の見学研修を行いました。醤油の香り漂う町並みを散策し、湯浅町教育委員会と和歌山県建築士会とが連携して、建造物の調査や改修工事の設計監理を行うという取り組みについて学び、保存改修工事の実例を見学しました。和歌山県建築士会の方々のご協力のおかげで充実した事業となりました。</p> <p>そしてDOシリーズNo.87は、京都市の岡崎地区を訪れ、京都大学大学院 中嶋節子教授による『岡崎地区の歴史と近代建築物のリノベーションについて』をテーマにご講義いただき、教授の解説を聞きながら近代建築物群を巡りました。大規模な近代建築物がこれからどのように再生・継承されていくのか、再びDoシリーズで取り上げたいテーマとなりました。今年度も様々な視点から、くらしやまちづくりなどを気軽に学べる事業を開催したいと考えております。</p>
<p>京 都</p>	<p>京都府建築士会の女性部会では令和5年度は「お茶を通して和室を使う」というテーマのもと様々な活動を行いました。毎月行う定例部会で基本的な茶道のマナーから始まり、お茶室の事・お茶花の事・お部屋の使い方などを「プチ講座」として学びました。会議や見学会では和室にこだわった歴史ある会場を選び、見学後実践としてその場所でお茶会を催しました。そこで和室の素晴らしさを体感し、お花を飾るだけで和室の雰囲気が変わり、畳に座って見渡すお庭の美しさを再発見しました。これからも日本文化の宝庫ある京都ならではの伝統文化を学ぶ取り組みを続け、建築士として携わる様々な分野でその素晴らしさを発信していきたいと思っています</p>
<p>大 阪</p>	<p>2023年度は、本格的に青年・女性委員会として活動を開始しました。青年委員の機動力や発想力を持って企画した内容について、全委員で実行可能性を検討し、収支計画等の諸手続きは女性委員が中心となり行い、数多くのセミナーや見学会を開催しました。特に、一級建築士の製図課題であった図書館の見学会については、開催時期に限りがある中で素早く動き、未来の建築士たちと一緒にその空間を実体感することで気づきを促すことができた良い見学会となりました。さて、来年は、第67回全国大会おおさか大会（2025.09.19）で皆様をお迎えするために着々と準備を進めております。『建築からソーシャルデザインへ』とテーマを掲げ、多様化する社会において建築士に求められる職能も広がりつつあります。技術者としての能力だけでなく、広い見識とつながりを持ち、いかに社会に貢献できるかについて、食い倒れ大阪の地において語り合う機会にしたいと思っております。</p>
<p>兵 庫</p>	<p>兵庫県建築士会女性委員会は、令和5年度に設立40周年を迎えました。記念事業として①建築とまちづくり見学会「高知県土佐赤岡絵金祭り・ゆすはら・おおとよ」を7月に実施し、兵庫県14名と高知県建築士会9名の参加を得て開催しました。後日、高知県建築士会よりゲストを迎え、参加できなかったメンバーも加わり報告・交流会を開催し、YouTubeで公開しています。②建築家「津川恵理」講演会を12月に開催し、学生・一般建築士を含め約80名が参加。③40周年記念誌もWEB版で作成し、（公社）兵庫県建築士会HPにアップしています。</p> <p>今年度は近畿建築士協議会女性部会にて①近畿「魅力ある和の空間」IN兵庫県（神戸市垂水区舞子公園内の旧木下邸）②くらしとすまいを見つめる継続セミナー「公共空間の新たな価値と建築士としてのかかわり方を学ぶ」（講師：津川恵理と神戸市中央及び港エリア見学会）の開催協力を致します。</p> <p>県内外で活躍する士会メンバーとも交流を進め、様々な仕事をしている会員以外の女性建築士が参加戴けるように取り組んで参ります。</p>

<p>奈良</p>	<p>奈良県建築士会 女性委員会では、和室研究部会、福まち部会、広報部会の3つの部会を設け活動しています。</p> <p>和室部会では、ここ数年は、オンラインではございますが、伝統的民家における温熱特性を調査及び研究をされている金田正夫氏を講師にお迎えし、機械や工業材料に頼らない住まいの環境づくりについて見識を深めて参りました。</p> <p>福まち部会では、3年前より「観光バリアフリー」について取組んでおり、今年度は、これまで取組んできた高齢者や障がい者目線での取組から新たに「すべての人にやさしいまちづくり」を掲げ、子どもたちと観光地を一緒に歩く事業を企画しました。子どもたち目線は、私たちに新たな気付きをもたらしてくれる楽しい企画となりました。</p> <p>広報部会は、今年度より、会員交流のための企画をすることを新たな任務とし、早速、秋ころに建築深訪あり、散策あり、お食事ありのお楽しみ企画を考えております。</p> <p>学生のころのような楽しい部活の様な場になればと思っております。</p>
<p>和歌山</p>	<p>和歌山県建築士会女性委員会では、木工教室や木育キャラバンへの参加を通じて、子どもたちに紀州材や、山の木がどのように建物に使用されているかなどを知ってもらう木育活動を続けております。紀州材を使った木のカレンダーや時間割表の作成を親子で作業していただいたり、作成前には、木についての紙芝居を行い、林業や建設業、建物に興味を持っていただき、建築士会を身近に感じていただけるような取り組みを行っております。また、今年度は、「建築分野でのデジタルツイン活用術」というセミナーを行い、実際に活用されている自治体の方を講師に招き、実践的な手法について学びました。委員会は引き続きZOOMと対面のハイブリット形式で行い、お仕事や子育てに忙しい世代にもより参加しやすい、充実した委員会活動を行っていきたいと思っております。</p>
<p>鳥取</p>	<p>令和5年度の活動は、定例女性委員会3回、防災出前授業2回、学生デザインコンペと、見学会を実施しました。防災出前授業は中学生と地域住民の方を対象としたHUGを行いました。学生コンペは7回目を迎え22作品応募の中から予選、本選とを行い、とても盛り上がりのある事業でした。鳥取砂丘に新しくオープンした、隈研吾氏設計の「タカハマカフェ」を見学しました。実際に窓口で対応された施設の担当者に苦労された話など沢山聞いて有意義な会でした。</p>
<p>島根</p>	<p>島根県建築士会女性委員会は、島根職業能力短期大学校(ポリテクカレッジ島根)の設計外部講師、青年の中四国ブロック若手建築志交流会(島根開催)のスタッフ、若手建築士のつどい(県内地域実践活動報告会)、内藤廣先生と語る会を行いました。</p> <p>青年と合同開催の若手建築士のつどいでは、空き家発掘と活用事例、ポリテクカレッジ島根の学生による古民家コンバージョンの発表をしていただき、WSと交流会も開催することができました。また、益田のグラントワで内藤廣先生の企画展がされていたので合わせてグラントワで「内藤廣先生と語る会」を開催し、参加者から事前に質問をいただいて内藤先生に答えていただく形としました。学生の参加もあり県内多くの参加者と活発な質疑応答があり、企画展の話や設計手法の話まで多くの話をさせていただきました。</p> <p>学生の参加機会が少しずつ増えてきましたので引き続き交流を深め、ほかの学校にも広まるように活動をしていきたいと思っております。</p>

岡山	<p>私たちは女性建築士が集う意義について再考し、我々にしか出来ないこと、地域が我々に望むことを把握し、社会に貢献できるよう活動に取り組んでいます。また、我々の幅広い年齢層を生かしてあらゆる世代に向けて活動内容を発信し、自らが成長し、社会に正しい知識を伝えることができるよう、研鑽しています。令和5年度は、女性部会にとって変化の年であり、今後の活動について部内外で話し合いを持ち、在り方を考える1年間でした。今年度は、既成概念に縛られることなく幅広い意見を取り入れ、一致団結して前進したいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築見学会（令和5年度広島県厳島神社） ・地域貢献活動（勉強会・セミナー、防災減災啓発） ・一般向けリーフレット発行 ・スキルアップ勉強会・研究会（SNS情報発信活用法、防災減災 他） ・情報誌「フフ」発行季刊 年4回（郵送）
広島	<p>建設業界は需要が途切れるリスクがなく、安定した将来性のある仕事です。抱える課題は主に2つあります：人手不足と長時間労働です。これらの課題に対処するために、労働者の処遇改善や時間外労働の是正、DXを活用した業務改革などが挙げられます。</p> <p>近年、建設業界は業務プロセスと企業文化を変革し、新たな価値を創造するためにDX化に注力しています。特にドローンは建設業界においてDXを推進する上で重要なツールです。</p> <p>ドローンは撮影や測量、構造物の点検、危険な場所での測量などに活用されています。私たちは今まで継続的に取り組んできた防災活動に活用が可能なドローンに着目。ドローン部隊を立ち上げ座学、練習、地域と連携した実践練習を行い、今後それぞれの業務における活用について検討すると共に実際に使用出来る知識を習得する。互いに研鑽を積むことで新技術に対する認識を深め、お互いの意見や考案をする。今後活動に新たな価値を創造する。</p>
山口	<p>令和5年度活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会開催6回 かわら版毎月発行 県会誌の女性部コーナー執筆（偶数月） ・女性部研修会「ヘリテージマネージャーと回る下関市唐戸エリア～近代建築をめぐるレトロ散歩～」開催 昨年に引き続き場所を変え開催 ・県産材利用促進事業の一つの子供向け木育企画として「おうちバコワークショップ」を開催 昨年と同様におうちバコキットを利用。カンナくず、端材、落ち葉や木の実など木に関連する材料を使用した ・ホームズ君ミニ勉強会 インテグラルの方に講師にきていただき、ホームズ君の操作方法を一通り習った ・女性部交流会 住宅展示場を見学しながら参加者の交流をはかった ・青年部女性部合同バスツアーin宮島（青年女性委員会事業）
徳島	<p>【開催】・委員会（対面、LINEミーティング、書面）3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路島見学会（徳島支部と合同） ・新春意見交換会 ニコナル（NICONLL） <p>【参加】・新入会員歓迎お餅つき&バーベキュー（青年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島市中心市街地について考える会 徳島県製作YouTubeを見ながら県及び市職員と意見交換 ・おさまり放浪記Vol.06 徳島編（JIA 四国支部） ・2025年改正建築基準法勉強会（講師：徳島県住宅課係長） 改正建築基準法をざっくばらんに話しながら確認 ・大会・協議会等

香川	<p>2026年ブロック大会、2027年全国大会と2大会の香川開催に向け、2023年は徳島B大会、全建女（石川）、今年度は広島B大会、全建女（東京）、全国大会（鹿児島）の多数参加を呼びかけ、参加増に繋がっている。</p> <p>11月小比賀家住宅 見学 講師なしで行ったが、結果的に各参加者の専門知識と各視点の解説で参加者同士で知識の幅を広げられた会となった</p> <p>2月 直島日帰り研修旅行 1, 2級試験合格者対象で計画したが、合格者への案内タイミングが合わず会員向けイベントにシフト</p> <p>3月 合格者対象県立アリーナ現場見学会に委員長他1名参加、合格者への勧誘を行った</p>
愛媛	<p>令和5年度 愛媛県活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月 異業種交流会 「みんなで防災グッズをつくろう」 昨年に引き続き、子供と一緒に防災について学びました。防災カルタを用いて災害時の対応について考え、身近に手に入るものでランタンを制作しました。 ・11月 県内見学会 「紙のまちの建物見学会 in 四国中央市 川之江地区」 書道パフォーマンス甲子園で有名な、多くの製紙会社がある四国中央市の見学会を実施しました。魅力ある和の空間ガイドブックに掲載された登録有形文化財の「古今荘」を文化財・まちづくり委員会の方に案内して頂きました。「紙のまち資料館」でこの地で製紙が盛んになった歴史を学び、手漉き和紙作りを体験しました。 ・3月 暮らし+(プラス)勉強会 「春色トピアリー作りワークショップ」いつもの暮らしに素敵をプラス、をテーマに伊予市のなかやまフラワーハウスにて春らしい華やかなトピアリーを制作しました。この他、年度をまたいでスキルアップ講習会の準備も進めてきました。コロナ禍を抜け、集まっての活動を実施することが出来ました。
高知	<p>令和5年度 高知県活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第44回サマーセミナー 9月16日に県内で活躍されている山本長水建築設計事務所の山本長水氏をお迎えし、ご本人が設計された称名寺にて開催。講演+質問コーナーにてお話を伺った。（スタッフ含め来場者79名） ●いたわり住宅相談会 高齢者や障がいのある方への住宅新築・改修等の相談会を続けており、月1回第4土曜で今年度10回開催。 ●防災勉強会 3月9日にNPO 日本防災士会高知より講師をお迎えし、「地震に備えるための基礎知識や対処方法」のお話を伺った。 ●とさっ子タウン 小4～中3対象の「こどものまち」で「建築士の仕事」体験コーナーを担当。テーマは「車屋さん」で8月19・20日に開催。 ●居住支援研究会 3月30日に青年委員会と合同で東洋町のまるたや旅館他空き家見学ツアーを開催。 ●異業種交流会 新春会 3月8日にFP技能士の方をお迎えし30分講演のあと、懇親会形式で交流会を開催。建築士会員内外合わせて23名の参加があった。
福岡	<ul style="list-style-type: none"> ◆ものづくりワークショップ （福岡市花と緑の一人一花サミット2023への参加活動） 毎年継続参加している福岡市主催のイベントへ2日間参加し、子供たちと小さな木の家づくり体験をしてもらうイベントを行いました。小さな木の家をその場で上棟し、金づちと釘を使って壁の板壁張り体験やイスキットの組み立てワークショップを行いました。昨年度は初めて建築系の学生スタッフにも参加してもらい、学生と会員との交流の場ともなりました。コロナで自粛していた餅まきも復活し、餅まきの風習についての説明書きを貼った小餅を参加者の皆さんが楽しそうにキャッチしていました。 ◆2025九州ブロック研究集会 「建築士の集い福岡大会」準備活動 2025年度九州ブロック研究集会の福岡大会開催を見据え、改めて今の福岡市のことを知るための勉強会（福岡市出前講座「都心部のまちづくり」）を開催、その他、会場下見を兼ねた交流会等を開いています。

佐賀

九州ブロック研究集会「建築士の集い」を青年委員会と共に計画・実施。梅雨時期6月の開催であったが、懇親会を嬉野温泉駅前の広場で行い、九州各県からの参加者に楽しんでもらえる屋外イベントとなった。

また、令和4年度に引き続き女性委員会企画として「交流会」を開催。魅力ある和の空間ガイドブックに掲載した建物や唐津市役所新庁舎見学、ランチ懇親会など盛りだくさんの内容で、初参加の方も多かった。

交流会企画は女性委員会活動費とは別予算でのイベントとする事に、計画する側も余裕をもって企画する事ができ、参加者にも充実した時間を過ごしてもらえた。令和5年度は全建女参加者へ参加費や交通費の一部を補助することにより、男性を含む参加者増とする事ができ、次回も参加したいという声を聞くことができた。令和6年度も同様の取り組みを行い、今後も活動参加者増を目指していきたい。

長崎

長崎県活動報告（令和5年度）
長崎県建築士会女性委員会は現在5名で構成されています。

令和5年度の活動として、

- 住宅リフォーム推進事業 事業者向けセミナー、消費者向けセミナーの対面開催 令和6年1月 メルカつきまち会議室にて
- 住宅フェアへの参加（牛乳パックでランタン作り、パネル展示） 令和5年12月 出島メッセにて
- 無料住宅相談会の開催（長崎支部女性部会・青年部と共に活動） 毎月第2土曜日 消費者センター（長崎市）
- 「和の空間」3ヶ所を長崎県女性委員会の事業として継続 福重家住宅・梅が枝酒造・吉田屋
- 建築士の集い佐賀大会にて地域実践活動の発表 令和5年6月 佐賀県嬉野市
- インテリアデザイナー坂野秋野氏セミナー開催（長崎支部女性部会と共に活動） 令和5年7月 長崎県立図書館郷土資料センター研修室 参加者35名

以上が主な活動です。

コロナも落ち着き、対面で活動が増えました。中でもインテリアデザイナーのセミナーでは女性の企画らしく参加者にも開催側にも子ども連れが見られたのが印象的でした。このように子ども連れでも気軽に参加できる環境を考慮しながら、令和6年度も変わらず建築士としての質を高めつつ建築士の魅力を発信できればと思っています。

また女性委員会だけでなく青年部と共に活動の活性化を図り、他県（隣県）との連携を進めていきたいと思っております。

熊本

熊本県建築士会女性部会では、“できるしこ”をモットーに活動をしています。“できるしこ”というのは熊本弁で、「できる範囲で」という意味です。仕事が忙しい会員、子育て中の会員、様々な状況の会員それぞれが無理なくできる範囲のことを協力しながら行い、学びを深めていければと思っています。

【令和5年度の活動】

- 住まいづくり相談会（毎月第4土曜日）
- かわら版の発行（年3～4回程度）
- ビフォー&アフター見学会～事務所リノベ～
- 「自然災害に備えて、住まいづくりの勘どころ」勉強会
- ひなまつりランチ交流会
- SNSでの活動発信

大分

大分県建築士会では、2023年10月20日～11月19日の約一カ月間、大分市美術館にて「おおいたの推しの建築展」として展覧会を開催しました。大分市美術館より、磯崎新追悼常設展を開催するので大分県建築士会も何か展示をしませんか？と依頼があり、県本部で依頼を受け、大分市と合同で開催地である大分支部、青年女性委員会を中心とし、各支部の協力も得ながら約半年間にわたり展覧会の準備を行いました。追悼企画として、磯崎新氏の影響が様々な形で残っている大分の建築を知り、大分のまちの未来を考える展覧会を目指して「推し」というキーワードを媒介にして企画し、多くの方に会場していただきました。当展覧会の開催は、一般の方への大分の建築やまちづくり、大分県建築士会の活動の周知だけでなく、コロナ禍以降、希薄になりかけていた会員同士の関係を再確認するきっかけにもなりました。今年は、非会員の女性の方が参加しやすい企画の開催を考えています。

宮崎

宮崎県建築士会では、女性委員会が主体となって研修会を年に一度開催しています。昨年度は宮崎県唯一の有人島である延岡市の島野浦島にて、離島のまちなみを体験するまちあるき研修会を開催しました。今回は隣県合同研修会を兼ねて実施したため、県外からは鹿児島県から4名ご参加いただき、合計25名参加での開催となりました。海上タクシーでの移動から始まり、標高185mの遠見場（とんば）山のトレッキングで島ならではの大自然を一望しながら山頂でお弁当を食べた後、島づくり活動に長年携わっている地元の方から島の歴史や文化、まちづくり等についてお話していただきました。最後に住宅が集まっている地区を散策し、自然と建造物の島独特のまちなみを体験することができました。久しぶりに本格的な研修会の実施となり、会員同士の交流も深めることができる良い機会になりました。

鹿児島

鹿児島県は今年の10月に全国大会を控えており、令和5年度はその準備を兼ねた活動となった。女性部会の会員も大会の実行委員会に多く在籍しているため、所属する部会の準備状況報告会を行い、会員の情報共有や意識向上を図った。また、全国大会で実施予定の、県内各地での見学会を実際に回る「エクスカージョン試行」を行い、コースの確認や、各支部との交流を活性化させた。その他、一般市民に**住宅や建築の情報を発信するイベントである「住まいと建築展」**では、**活動パネル**の展示や、ペーパークラフトの実施、会報誌の「よかおごじょ」の配布を行い、建築士会のPRを行った。「建築を語るフリートークング会」では、建築を学ぶ学生へのプレゼンテーションを会員が担当し、その後、学生と社会人でフリートークを行った。本年度は、10月の全国大会に向けて会員増強と会の活性化を図るとともに、女性部会にできることは何か考えながら、事業に取り組んでいきたい。

沖縄

沖縄県建築士会では、「建築見学交流会 in KI HOUSE ～名建築で朝食を～」と銘打って、建築士の交流イベントを開催しました。場所は窪田勝文氏設計の海を望む住宅です。「朝日が素晴らしく綺麗」というオーナーの感想をお聞きし、見学会だけでなく、早朝ヨガと朝食会も兼ねさせて頂きました。

- 第一部（am7:00～7:30）ヨガ体験 参加者7名（主催者側3名含む）
- 第二部（am8:00～9:30）見学交流会 参加者24名（主催者側8名含む）

窪田氏の建築を実際に見て、感じて、体験して、技術や芸術性を感じた参加者も多くいたようです。実際に生活をされているオーナーへの質問も多く、活発な意見交換がなされ、満足度も高かったように思います。今後もこのような活動を継続し、建築士会活動を活発にしていきたいと思っております。

	全会員数	女性会員数	全委員会委員数	女性委員会委員数	その他の委員会の女性委員数	本会(親会)の賛助会員数	会長	女性会長	副会長	女性副会長	常務理事	女性常務	理事数	女性理事	
1	北海道	3,636	260	92	10	10	35	1	0	2	0	4	1	12	1
2	青森	877	69	105	15	5	0	1	0	3	0	6	0	8	1
3	岩手	1,214		153	19	6	12	1	0	4	0	1(専務)	0	17	3
4	宮城	729	92	104	18	0	21	1	0	3	1	0	0	25	4
5	秋田	857	68	63	14	3	113	1	0	3	0	4	0	16	2
6	山形	840	79	63	10	3	6	1	0	3	0	5	1	19	3
7	福島	1,627	76	80	14	5	6	1	0	4	1			40	3
8	茨城	1,753	156	101	10	11	143	1	0	3	0	5	0	22	2
9	栃木	1,048	85	137	18	3	161	1	0	4	1	1	1	41	0
10	群馬	1,203	115	143	42	0	4	1	0	4	0	1	1	27	4
11	埼玉	1,422	88	60	12	5	95	1	0	3	0	5	1	38	6
12	千葉	1,499	158	150	14	10	89	1	0	3	1	3	0	29	2
13	東京	5,055	672	244	19	52	246	1	0	5	1	0	0	23	4
14	神奈川	2,310	323	215	12	30	77	1	0	3	1	4	2	22	6
15	山梨	1,024	85	121	61	8	27	1	0	3	0	0	0	33	4
16	長野	2,040	180	53		2	7	1	0	4	0	2	0	29	3
17	新潟	1,727	125	69	9	7	36	1	0	3	0	1	1	27	2
18	静岡	1,164	70	164	0	10	149	1	0	3	0	3	1	9	0
19	愛知	3,249	289	435	27	44	128	1	0	4	1	4	1	4	1
20	岐阜	999	80	171	24	15	57	1	0	4	0			20	1
21	三重	716	66	82	6	3	27	1	0	3	0	0	0	20	3
22	富山	1,227	159	95	18		125	1	0	2	0	5	0	28	3
23	石川	1,255	137	168	31	21	44	1	0	9	1	10	1	25	1
24	福井	908	83	143	83	18	312	1	0	4	0	7	0	18	3
25	滋賀	740	60	134	14	14	64	1	0	5	0	3	1	35	4
26	京都	1,116	123	102	17		56	1	0	7	1	2	1	36	5
27	大阪	2,485	225		16		139	1	0	5	2	1	0	47	11
28	兵庫	1,293	109	45	10	4	34	1	1	5	1	0	0	11	2
29	奈良	688	65		15		49	1	0	5	1			21	2
30	和歌山	1,168	87	216	29	19	62	1	0	5	1	6	1	23	1
31	鳥取	992	65	61	11	5	227	1	0	3	0	1	0	26	4
32	島根			77	11	6		1	1	3	0	8	3	8	0
33	岡山	1,299	172	103		19	83	1	0	3	1	5	0	26	4
34	広島	1,625	140	165	15	23	35	1	0	2	0	3	2	26	4
35	山口	1,584	119	49	0	5	135	28	0	28	0	28	0	28	2
36	徳島	972	100	69	16		30	1	0	6	1	5	1	12	1
37	香川	1,304	138	104	7	10	104	1	0	3	1			49	5
38	愛媛	1,423	120	78	13	9	53	1	0	2	0	3	0	18	2
39	高知	856	104		27		134	1	0	3	0			21	5
40	福岡	1,927	180	135	20	11	11	1	0	6	1	1	0	9	1
41	佐賀	892	85	99	10	5	32	1	0	3	0	3	1	35	6
42	長崎	977	69	71	6	4	355	1	0	3	0	0	0	24	2
43	熊本	1,285	142	149	17	21	37	1	0	3	0	11	2	17	1
44	大分	1,055	89	151	10	10	87	1	0	4	0	3	1	31	2
45	宮崎	940	66	75	8	7	127	1		5		3		27	1
46	鹿児島	1,824	129	152	19	18	59	1	0	4	0	13	1	42	3
47	沖縄	969	107	112	25	10	83	1		4	1	2		27	2
	合計	65,793	6,009	5,358	802	471	3,916	74	2	203	19	171	25	1,151	132

	支部長	女性支部長	委員長数	女性委員長	女性が委員長を勧める委員会	その他の役職	全体予算	交通費	渉外費	活動費	その他	
1	北海道	34	0	10	1	女性委員会	監事	473,000	207,600	157,800	107,600	
2	青森	10	0	8	1	女性委員会		200,000	65,000	83,000	30,000	22,000
3	岩手	13	0	11	2	女性委員会、岩手地域貢献活動センター		100,000				
4	宮城	14	0	9	1	女性部会		375,000	0	125,000	210,000	40,000
5	秋田	8	1	5	1	女性委員会	監事・事業・まちづくり	220,000	60,000	110,000	50,000	
6	山形	9	0	7	2	まちづくり、女性委員会		550,000	50,000	250,000	250,000	
7	福島	17	1	6	2	女性委員会、会員広報講習委員会		300,000	200,000		100,000	
8	茨城	23	1	7	1	女性委員会		907,000	70,000	317,000	490,000	30,000
9	栃木	12	1	8	1	女性委員会		600,000	100,000	200,000	300,000	
10	群馬	12	0	8	2	女性委員会、建築相談委員会		470,000	80,000	160,000	220,000	10000通信費
11	埼玉	14	1	5	1	女性委員会	常務理事、支部長	350,000	150,000	100,000	100,000	
12	千葉	21	1	8	1	女性委員会		600,000		210,000	390,000	
13	東京	12	1	15	2	女性委員会、環境委員会	幹事					
14	神奈川	9	1	11	3	女性委員会、交流活動委員会、まちづくり委員会		647,000	140,000	278,000	187,000	42,000
15	山梨	10	0	5	0			400,000	75,000	120,000	25,000	32,000
16	長野	14	3	6	0							※委員会としての予算は無し
17	新潟	15	0	7	1	女性委員会						※女性委員会としてではなく事業ごとで予算を決めています。
18	静岡			8	0							
19	愛知	21	1	16	2	女性委員会 建築相談委員会	構造委員会副委員長、まちづくり委員会福祉部会長	1,127,000	200,000	337,000	390,000	200,000
20	岐阜	8	0	8	1	女性委員会		690,000	279,000	186,000	194,000	31,000
21	三重	10	0	9	2	女性委員会 防災・福祉まちづくり委員会		353,820	132,400	30,000	81,160	7,700
22	富山	6	1	9	2	広報委員会、女性委員会		301,410	50,000	140,000	111,410	
23	石川	11	0	9	1	女性委員会		800,000	183,000	96,000	471,000	50,000
24	福井	8	0	8	2	CPD・専攻建築士委員会、まちづくり委員会		200,000				
25	滋賀	8	2	10	1	女性委員会		約380,000				
26	京都	8	0	11	1	渉外交流委員会		272,129		34,470	237,659	
27	大阪			12	5	青年・女性委員会、賛助委員会、耐震インスペクション委員会、ヘリテージ委員会、建築表彰委員会		▲170,000				
28	兵庫	18	0	9	2	女性委員会、会勢委員会		733,650	27,000	46,500	590,000	60,000
29	奈良	10	0	9	1	会勢委員会、女性委員会		111,200				
30	和歌山	9	0	10	2	女性委員会、まちづくり・委託事業委員会						
31	鳥取	3	0	6	2	女性委員会 まちづくり委員会		200,000				
32	島根	11	0	7	2	総務委員会、女性委員会		450,000	200,000	50,000	200,000	
33	岡山	11	0	10	2	ヘリテージマネージャー委員会、教育事業委員会		884,400	100,000	143,400	200,000	
34	広島	7	0	11	3	教育事業委員会	常務理事	545,816	220,780	124,000	201,036	
35	山口	13	1	5	0			1,040,000	210,000	413,860	400,000	16,140
36	徳島	9	0	6	2	事業貢献委員会、男女参画委員会		660,000	30,000	300,000	330,000	
37	香川	5	1	6	1	女性委員会	監事	600,000	40,000	515,000	30,000	15,000
38	愛媛	10	0	6	1	女性委員会		780,000	218,180	350,820	211,000	0
39	高知	14	2	8	2	女性委員会、事業委員会		410,000	63,600	177,800	168,600	
40	福岡	14	1	8	0			675,000	200,000		475,000	
41	佐賀	11	2	9	3	総務財務委員会 広報委員会 女性委員会		672,720	72,720	245,000	320,000	35,000
42	長崎	10	0	8	2	広報委員会 女性委員会		96,510	84,080			12,430
43	熊本	12	0	12	1	編集委員会		300,000	100,000	100,000	100,000	
44	大分	14	0	12	1	建築士試験・登録対策委員会、CPD・専攻建築士制度委員会		1,780,000	250,000	230,000	1,300,000	※青年委員会と女性委員の合算
45	宮崎	10		11	1	女性委員会		445,000	119,000	218,000	108,000	
46	鹿児島	13	0	10	0			740,000	130,000	160,000	450,000	
47	沖縄	15		9	1	青年女性委員会女性部		360,000	360,000			
合計		546	22	408	68							

9 全国大会「鹿児島大会」参加のご案内 特集 第66回 建築士会全国大会

「鹿児島大会」への いざない

本年度の建築士会全国大会は、
鹿児島県鹿児島市で(公社)日本建築士会連合会主催、
建築士会九州ブロック会共催、(公社)鹿児島県建築士会主管により、
2024年10月25日(金)に開催される運びとなりました。
宝山ホールを主会場とし、
大会式典、記念フォーラム、大交流会、交流セッションなど
充実したプログラムが開催される予定です。
また、鹿児島県内各地を見学する地域交流見学会(エクスカーション)も
見どころが満載で離島を含む、充実した15コースが用意されています。
桜島や鹿児島湾をはじめとする鹿児島の
豊かな自然と歴史に育まれた文化に触れながら、
未来のまちづくりについて全国の建築士が集い、
熱く語り合う機会になることを期待します。



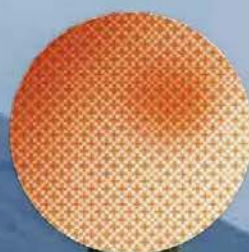
大会ホームページ



DESIGN CONCEPT

「もえの輪」の「もえ」は、本大会のメインテーマである「もえよ!建築維新」の「もえよ!」に因んでいる。

建築に対する熱い議論を交わす「燃えよ!」
若い世代が活動するきっかけとなる「萌えよ!」
鹿児島弁で人々が集まることを意味する「集(も)えよ!」



鹿児島大会のキービジュアル
「もえの輪」

「もえの輪」のデザインは、鹿児島県内に珠玉の如く散りばむ集落の輝きを結集し、一つの「円」を描くことで、一丸となり建築の未来に向けて燃え上がる志、「維新」を表現している。さらに、「円」の一点に準えられた桜島からは、たぎる熱い想いがここから吹き出し、「円」の構成は鹿児島県が日本そして世界に誇る伝統工芸品である「大島紬」「竹製品」「薩摩切子」を映し出している。また「大島紬」のように絡まり合いながら点で美しい紋様を表現し「竹製品」のように編まれて一つの形態と機能を獲得し、「薩摩切子」のように絶妙なグラデーションで深みを持たせている。



大島紬

点



竹製品

編



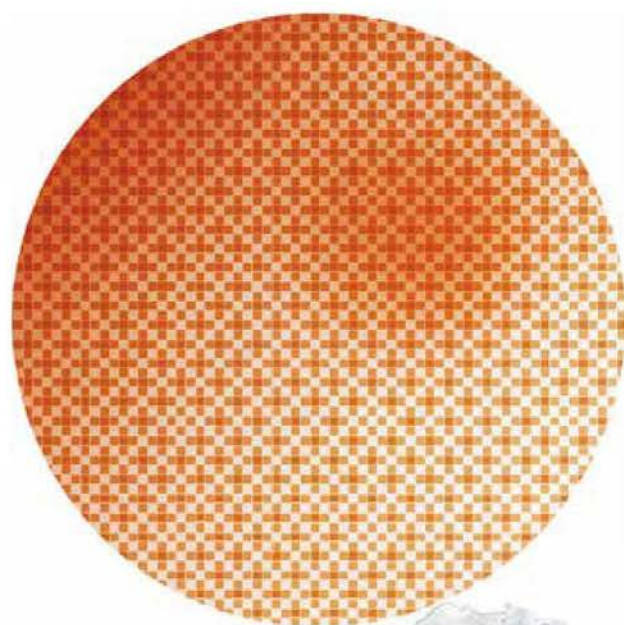
薩摩切子

グラデーション

第66回 建築士会全国大会
鹿児島大会

2024
10.25 FRI

宝山ホール
(鹿児島県文化センター)
〒892-0816 鹿児島市山下町5-3



Kagoshima Convention 2024
Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations

もえよ!
たぎる地で築くみらい
建築維新




主催 / (公社)日本建築士会連合会 共催 / 建築士会九州ブロック会 主管 / (公社)鹿児島県建築士会

大会事務局 / (公社)鹿児島県建築士会

〒892-0838 鹿児島市新屋敷町16番301号 県住宅供給公社326号室

TEL: 099-222-2005 / FAX: 099-226-2019 <https://sakurajima.or.jp/>

More Information to 



第66回 建築士会全国大会「鹿児島大会」のご案内

もえよ！建築維新

～たぎる地で築くみらい～

西蘭幸弘 | (公社)鹿児島県建築士会 会長



今年の全国大会は、1971(昭和46)年以来53年ぶりに鹿児島で開催します。

鹿児島県は九州地方の最南部に位置し、東シナ海に面する薩摩半島と太平洋を望む大隅半島、そして南シナ海へと繋がる多くの島々で構成され、温帯から亜熱帯まで南北600kmにわたり、有人島だけでも28の島が数珠のごとく連なっております。日本初の国立公園霧島、現在も活発な活動を続ける桜島、悠久の自然が残る屋久島、コーラルと照葉樹林が美しい奄美大島など個性豊かな自然に恵まれています。また、温泉地霧島や指宿のほか秘湯も多く、鹿児島市内だけでも泉源が280あり、銭湯はほとんどが天然温泉となっています。

鹿児島のまちづくりは江戸時代にその基本形ができました。江戸時代、鹿児島では武士が人口の26%(全国平均は5%)を占めていたことから、鹿児島城下のほか領内の113カ所に「麓」と呼ばれる武士の集落がつけられました。その麓の名残は現在でも県内各地に残されています。そのうちの11の麓が日本遺産に認定され、さらに知覧麓など4麓が重要伝統的建造群保存地区に指定されています。地域ごとに良質な石材が産出されたことから、麓集落の石垣や石堀のほか、世界産業遺産尚古集成館や五大石橋、石蔵などに使用され、石の文化が特徴の一つとなっています。

変化に富んだ景観だけでなく、5年に一度開催される和牛オリンピックで日本一に輝いた鹿児島黒牛のほか鹿児島黒豚、黒薩摩鶏、黒酢など食にも恵まれています。鹿

島の芋焼酎と一緒に食も堪能していただけるように準備してまいります。

鹿児島大会のテーマは、「もえよ！建築維新 ～たぎる地で築くみらい～」としました。「もえよ！」には、「燃えよ!」「萌えよ!」「集えよ!」の願いを込めています。それぞれ、元気に活動する桜島を背景に建築を熱く語る大会にしたい、草木が芽吹くように若い世代が躍動するきっかけにしたい、鹿児島では住民の寄り合いを「もえ」と言うことから多くの建築士に参加して欲しい、の3つです。

150年前の幕末から明治にかけてあらゆるものが急激に変わった頃と同じように、現在も大きな変革の中にあります。人口減少や技術革新等を背景に建築を取り巻く状況も変わりつつあります。『建築維新』をテーマに、「建築士が築く未来像とは、何か?」を議論し、若い世代の道標ともなる大会にできたらと考えています。一方、鹿児島では明治の廃仏毀釈により寺院が破壊し尽くされ、現在、伝統的な寺院建築と呼べるものは残されていません。「建築維新」には、そういった反省も込めております。

全国大会の準備を契機に多くの会員が活動に参加し、「全国から来鹿される皆様に楽しんでいただける大会にしたい。」と頑張っています。10月25日に開催する全国大会には多くの建築士の皆様に南国鹿児島においていただき、鹿児島島の歴史や文化、そして食を堪能していただきますようお願いいたします。

大会概要

テーマ

もえよ! 建築維新

～たぎる地で築くみらい～

会場…宝山ホール(鹿児島市山下町5-3)

期日…令和6年10月25日(金)

主催…公益社団法人 日本建築士会連合会

共催…建築士会九州ブロック会
(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

主管…公益社団法人 鹿児島県建築士会

後援…(予定)国土交通省、鹿児島県、鹿児島市 他



宝山ホール



鹿児島市中央公民館



カクイクス交流センター



霧島神宮



鹿児島城御楼門



田中一村記念美術館



JAXA 内之浦宇宙空間観測所



知覧武家屋敷群



甌大橋・鳥の巣山展望所



出水麓 (税所邸)



薩摩伝承館



薩摩藩英国留学生記念館



砂むし



黒酢壺畑と桜島



紀元杉



仙巖園と桜島



鶏飯



桜島大根



黒豚しゃぶしゃぶ



本格芋焼酎



きびなご



とりさし



黒毛和牛

主なスケジュール

10月24日(木) 大会前日

プログラム	時間	場所	室名
① 記者会見	14:00~15:00	城山ホテル鹿児島	4階 カトレア
② 連合会理事・士会長合同会議	15:30~17:30	城山ホテル鹿児島	2階 クリスタルガーデン
③ 全国建築士フォーラム	16:00~18:00	カクイックス交流センター*	2階 大ホール
④ 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会	16:30~18:30	鹿児島市中央公民館	1階 ホール

*2024年4月より、かごしま県民交流センターから名称を変更しました

10月25日(金) 大会当日

プログラム	時間	場所	室名
⑤ 総合受付	9:00~17:00	宝山ホール	1階 ホワイエ
⑥ 青年委員会セッション(地域実践活動発表会)	10:00~12:00	カクイックス交流センター	2階 大ホール
⑦ 女性委員会セッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	3階 大研修室1
⑧ 街中(空き家)まちづくりセッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	3階 大研修室2
⑨ 福祉まちづくりセッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	3階 中研修室2
⑩ 防災まちづくりセッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	4階 大研修室3
⑪ 景観まちづくりセッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	2階 中ホール
⑫ 歴史まちづくりセッション/第11回全国ヘリテージマネージャー大会	10:00~12:00	カクイックス交流センター	1階 県民ホール
⑬ 木のまちづくりセッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	4階 大研修室4
⑭ 第18回 木の建築賞	10:00~12:00	鹿児島県産業会館	2階 ホール
⑮ 環境部会セッション	10:00~12:00	カクイックス交流センター	3階 中研修室1
⑯ 鹿児島セッション	9:30~12:00	(集合場所 鹿児島駅前)	
⑰ 記念フォーラム	13:00~14:30	宝山ホール	1階 ホール
⑱ 大会式典	15:00~17:00	宝山ホール	1階 ホール
⑲ 大交流会	18:00~20:00	かんまちあ	
⑳ 記念展示	10:00~17:00	宝山ホール	2階 ロビー
㉑ 企業出展	10:00~17:00	宝山ホール	地階 アート・ギャラリー
㉒ 物産ブース	10:00~17:30	宝山ホール	前庭
㉓ 弁当配布(事前申込分のみ)	11:00~13:30	宝山ホール	1階 ホワイエ
㉔ 飲食ブース	10:00~16:00	鹿児島市中央公園	

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
⑤		総合受付(宝山ホール)													
⑥ ⑮		交流セッション(青年・女性・街中(空き家)・福祉・防災・景観・歴史・木のまち・木の建築賞・環境)													
⑯		鹿児島セッション													
⑰						記念フォーラム(宝山ホール)									
⑱								大会式典(宝山ホール)							
⑲											大交流会(かんまちあ)				
⑳ ㉑			記念展示、企業出展(宝山ホール)												
㉒			物産ブース(宝山ホール 前庭)												
㉓			弁当配布(宝山ホール)												
㉔									飲食ブース(鹿児島市中央公園)						

10月26日(土) 地域交流見学会(エクスカーション)

プログラム(15コース)	時間	発着場所
Aコース さつまの小京都「知覧」と蒸溜所めぐり	8:15~17:00	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Bコース 「霧島」黒酢の壺畑と桜島絶景めぐり	8:15~17:30	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Cコース 「指宿」砂むし温泉と薩摩伝承館めぐり	8:00~17:00	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Dコース 「もえる桜島」ぐるーり1周、新たな発見!めぐり	8:00~17:20	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Eコース 武家屋敷の街「出水」建築物と町並みめぐり	8:00~17:30	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Fコース 日本遺産産まち歩きと維新の足跡めぐり	8:25~17:15	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Gコース 種子島宇宙センターと古民家めぐり	7:00~18:45	種子・屋久高速船旅客ターミナル
Hコース 桜島から大隅半島縦断 温故知新の旅(1泊2日)	8:00~翌14:30	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Iコース パワースポットをめぐり霧島温泉で癒やされる旅(1泊2日)	8:20~翌14:30	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Jコース 世界自然遺産「屋久島」を堪能する旅(1泊2日)	7:15~翌16:10	種子・屋久高速船旅客ターミナル
Kコース 「奄美大島」伝統・文化・世界自然遺産をめぐり(1泊2日)	8:00~翌9:30	発:鹿児島空港国内線ターミナル 着:奄美市ホテル
Lコース 鰻の旨味と世界にひとつオリジナル焼酎づくりコース	8:15~17:00	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Mコース 「甕島」大自然のアートと絶景コース	7:10~18:50	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場
Nコース 東シナ海乗り鉄ぐるめコース	8:30~14:15	発:鹿児島中央駅前アミュ広場 着:新八代駅
Oコース 大正~令和 かごしまの「顔」今昔まち歩きコース	9:00~11:30	発:カクイックス交流センター 着:センテラス天文館

会場案内



「会場①」宝山ホール



「会場②」鹿児島市中央公民館



「会場④」カクイックス交流センター

10月25日(金) 時間別会場案内

時間	内容	会場	場所	符号
9:00~17:00	総合受付	宝山ホール	1階ロビー	①
9:30~12:00	鹿児島セッション	鹿児島市電	集合場所:鹿児島駅	⑥
10:00~12:00	交流セッション(10プログラム)	カクイックス交流センター ・青年委員会・女性委員会 ・街中(空き家)まちづくり・福祉まちづくり ・防災まちづくり・景観まちづくり ・歴史まちづくり・木のまちづくり ・環境部会		④
		鹿児島県産業会館 ・木の建築賞		⑤
10:00~17:00	記念展示	宝山ホール	2階ロビー	①
10:00~17:30	物産ブース	宝山ホール	前庭	①
10:00~17:00	企業出展	宝山ホール	地階アート・ギャラリー	①
10:00~16:00	飲食ブース	鹿児島市中央公園		③
13:00~14:30	記念フォーラム	宝山ホール(メイン会場)		①
		鹿児島市中央公民館(サブ会場)		②
15:00~17:00	大会式典	宝山ホール(メイン会場)		①
		鹿児島市中央公民館(サブ会場)		②
18:00~20:00	大交流会	かんまちあ		⑦

10月26日(土) エクスカーション受付・集合場所案内

コース	受付・集合場所	符号
A~F・H・I・L・M	鹿児島中央駅 西口バス第二駐車場	⑨
G・J	種子・屋久高速船旅客ターミナル	⑩
K	鹿児島空港国内線ターミナル	-
N	鹿児島中央駅前アミュ広場	⑧
O	カクイックス交流センター	④

アクセスマップ



10 令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会 山形大会のご案内

令和7年度 第34回 全国女性建築士連絡協議会（山形） 開催概要

日時：令和7年7月19日（土）～20日（日）

会場：山形テルサ（山形県山形市双葉町1丁目2-3）

主催：公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

テーマ 『山形から発信みらいへつなぐ木への挑戦』（仮称）
～雪・山・川がおりなす食文化と共に～

《主旨》

山形県は東北地方の日本海側に位置し、県土の約7割を占める森林は、日本一の面積を誇るブナ林など美しい景観を構成し、自然災害を防ぎ、多様な生態系を保全し、豊かな林産物を育ててきました。蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日といった日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、その雪解け水は県内の各盆地から平野を縦断する「母なる川」最上川へと流れ、日本海に注ぎます。四季折々の風景や豊かな自然、美味しい食べ物など魅力がいっぱいの地域です。

平成25年11月28日 やまがた里山サミット議長 吉村美栄子山形県知事（山形県歴代初の女性知事）は、「やまがた森林モリノミクス宣言」を提唱しました。この宣言は、森林に囲まれた里地・里山地域には、豊かな自然に育まれた「食」、「景観」、「文化」、さらには、「森林」、「農地」など、先人から受け継いだ地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として、「緑の循環システム」を構築し、オール山形で林業の振興を図り、地域の活性化に取り組んでいくことです。

私たち建築士は、県産木材の需要拡大に努め、未来の子どもたちにより良い環境をつなぐために地域と共に森と、木と向き合い挑戦していきましょう！

令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会 山形大会（プログラム案）

テーマ 『山形から発信みらいへつなぐ木への挑戦』（仮称）
 ～雪・山・川がおりなす食文化と共に～

令和7年7月19日（土）

[全国女性委員長（部会長）会議]	12：00～13：45	山形テルサ
[受付]	13：00～14：00	山形テルサ
[大会]	14：00～17：30	山形テルサ
[交流会]	未定	

令和7年7月20日（日）

[分科会]	9：00～11：00	山形テルサ
[全体会]	11：20～12：10	山形テルサ

会場（山形テルサ）へのアクセス（山形県山形市双葉町1丁目2-3）

○JR山形駅からのアクセス 徒歩約10分



魅力ある和の空間ガイドブックWEB版 ご案内

人々のライフスタイルが変化の中で、地域の環境に適した伝統的な住まいに暮らす人々が減り続けています。なかでも日本の住まいの中で培われた和室や縁側といった和の空間がなくなりつつあることが危惧されています。このような状況をふまえ、女性委員会では2016年より「和の空間」をテーマに活動してきました。そして、「和の空間を体験して、その魅力を再認識できるような建築を紹介するガイドブック」を制作しました。

このガイドブックは、全国各地で公開されている和の空間の事例の中から、「魅力的なもの、これからの居住環境への示唆に富んでいるもの」を、都道府県ごとに数点ずつ選んで紹介しています。和の空間をあらためて捉え直し、今後の設計活動、居住環境づくりに活かしていくこと、多くの方々に全国各地に現存する貴重な建築の魅力を広めることを目的としています。ぜひご活用ください。

日本建築士会連合会 女性委員会 ホームページのご案内

日本建築士会連合会女性委員会の活動や全国女性建築士連絡協議会の動画、魅力ある和の空間ガイドブックWEB版などを掲載しています。ぜひご覧ください。

The screenshot shows the homepage of the Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations (JFA) Women's Committee. The header includes the organization's name in English and Japanese, along with contact information. The main content area features several key sections:

- 女性委員会** (Women's Committee)
- 女性委員会委員長挨拶** (Message from the Women's Committee Chairman)
- 魅力ある和の空間ガイドブック WEB版** (Web version of the Guidebook on Attractive Japanese Spaces)
- 魅力ある和の空間ガイドブック** (Guidebook on Attractive Japanese Spaces)
- 建築士会女性委員会活動のポスターセッション** (Poster Session on Women's Committee Activities)
- 女性委員会ポスターセッション** (Women's Committee Poster Session)
- 全国女性建築士連絡協議会** (National Women's Architects Association)

A sidebar on the left contains a navigation menu with various links related to the committee's activities and resources.

日本建築士会連合会 女性委員会 HP
<http://kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/index.html>



鹿児島県民教育文化研究所

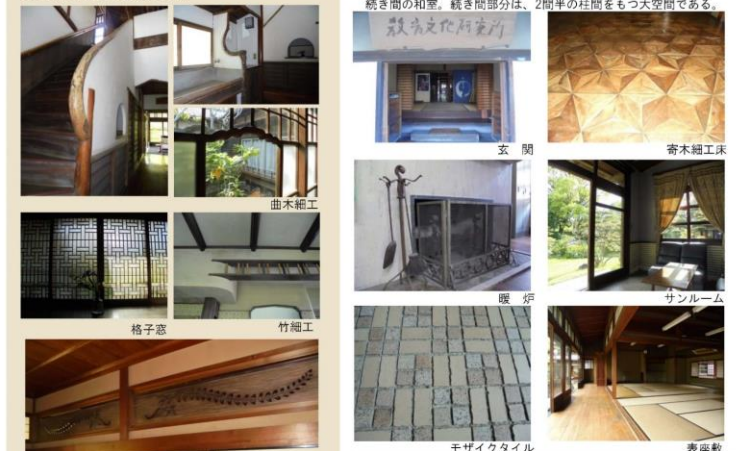
鹿児島県鹿児島市

敷地は江戸末期、重富島津家（篤庵の母方）の上屋敷跡である。建築主である海兵衛親定（海兵衛助兵衛が、喜久木・洲之上善助氏と3年ほどをかけて建築。1939（昭和14）年、自邸として竣工する。戦後は料亭や宿泊施設として使用されていた時期がある。1981（昭和56）年には、初代所長・松嶋十氏を迎え「鹿児島県民教育文化研究所」が設立された。外観と庭園は和風、内部は床の間を備えた書院造りの和室から、暖炉を据えたアルゴコ様式の洋室まで多様な造りとなっている。2013（平成25）年12月、家屋と土蔵が文化庁登録文化財の指定を受ける。



建物外観 庭園 中庭

見どころ
 素材の面白さを活かし、形式にとらわれない「数寄のこころ」を随所の随所に見て取ることができる。
【花燈籠】
 暖炉を据えたアルゴコ様式の応接室と、モザイクタイルを敷き詰めたサンルームからなる。戦後、ダンスパーティー等にも使用。
【表座敷】
 長押を配し、床の間や書院欄を備えた書院造りの14畳と10畳の続き間の和室。続き間部分は、2間半の柱間をもつ大空間である。



建物名称 鹿児島県民教育文化研究所
建築年 1939（昭和14）年
構造・様式 木造平屋一部二階建、瓦葺
所在地 鹿児島県鹿児島市春日町4-60
電話 099-247-4514
HP
開館時間 9:00～16:00（日曜・祝日休館）※入館15:30まで
アクセス 鹿児島市営バス「大龍小学校前」下車 徒歩3分
備考 国登録有形文化財 ※見学要予約

モザイクタイル 表座敷

おすすめ和の空間を紹介
 全国各都道府県の女性建築士が解説します

編著 日本建築士会連合会女性委員会 都道府県建築士会女性委員会（女性部会）
 日本建築士会連合会 女性委員会 魅力ある和の空間ガイドブックHP
<https://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/guidebook.html>

